

艦長ハ「コンパス」臺上ニ在リテ艦ヲ指揮シ、艦體漸ク傾斜スルニ及ヒ、副長等ノ勸ニ應シテ艦橋ニ降り、尙諸般ノ指揮ヲ執リシカ、艦體沈没スルヤ水面上ニ復其ノ姿ヲ現サシテ、艦ト運命ヲ同ウスルニ至レリ、濟遠遭難地點ハ從來數回通航セシコトアル既掃海面ナリシヲ以テ、其ノ水雷ハ敵ノ新ニ沈設シタルモノカ、或ハ水面下ヲ流動セルモノナルヘク、損害ノ位置狀況等ニ至リテハ沈没急速ナリシヲ以テ明ナラズト雖モ、爆發ハ水面下約八呎ノ部位ニ起リタルモノ、如シ、(備考文 書参照)

又赤城ハ濟遠乗員ノ救助ヲ終ルヤ、時ニ二〇三高地ハ敵砲火ヲ蒙ルコト盛ナルヲ以テ、尙掩護砲撃ノ必要ナルヲ推察シ、午後五時七分再セントアップス角ニ到リ、前目標ニ向ヒテ射撃ヲ開始シ、同五十分日全夕没シタルニヨリ、砲撃ヲ止メ雙島灣沖ニ至リテ投錨セリ、臺山望樓ヨリノ監的報告ニ依レハ、此ノ日赤城ノ砲撃ハ午前鳴湖嘴砲臺ニ四發命中シ、其ノ他ハ多ク鳴湖村ヤ落内ニ落ち、午後ニ於テハ同砲臺ニ五發命中シテ建築物ヲ破壊シ、發放中ノ諸砲臺ハ一時沈黙シ、爲メニ妙カラサル效果アリシカ如シト云フ、(備考文 書参照)

濟遠ノ沈没スルヤ、乃木第三軍司令官ハ深ク之ヲ遺憾トシ、十二月一日東郷聯合艦隊司令長官ニ發電スルニ、從來軍ノ爲メニ與ヘラレタル濟遠支隊ノ援助ハ感激ニ堪ヘサルモ、軍ハ艦隊自己ノ危険ヲ冒シテ迄モ強ヒテ掩護ヲ求ムルコト能ハス、仍テ密航船防遏ニ關シテハ固ヨリ十分ナル封鎖ヲ望ムモ、貴重ナル軍艦ニ危害ヲ及サ、ル範圍内ニ於テ、成シ得ル限りノ手段ヲ取ラレンコトヲ切望スル旨ヲ以テセリ、是ニ於テ同司令長官ハ雙島灣方面ニ於ル支隊ヲ引揚ケ、

隍城島方面警戒艦艇ヲ増加スルコトニ決シ、同日此ノ旨ヲ山田司令官ニ訓令シ、同司令官ハ翌二日更ニ江口赤城艦長ニ向ヒ、雙島灣方面ノ支隊ハ今日ヲ以テ引揚ケヲ命スルニ依リ、明日揚武ノ到ルヲ待テ、共ニ出來得ル丈ケ濟遠乗員ノ行衛不明者、及ヒ漂流物ノ搜索ヲ遂ケ、終ヲハ青泥窪ニ歸航スヘク、又搜索ノ必要ナシト認メハ、揚武ノ至ルヲ待タス、春日汽艇ヲ護衛シテ便宜歸航スヘキ旨ヲ訓令セリ、仍テ第五號砲艦ハ同月三日濟遠生存者ヲ載セテ青泥窪ニ歸著シ、又赤城ハ其ノ後濟遠乗員及ヒ漂流物ノ搜索ヲ努メシモ、得ル所ナキヲ以テ翌四日雙島灣方面ヲ引揚ケ、春日汽艇ヲ護衛シテ大連灣ニ歸著シ、茲ニ全ク同方面ニ於ル海軍支隊ノ引揚ケヲ終レリ、(備考文 書参照)

第九章 旅順口攻圍經過ノ大要

第一節 第三軍ノ編制及ヒ任務

初メ日露ノ交渉漸ク危急ニ迫ラントスルヤ、帝國海軍ハ夙ニ露國ニ對スル作戰ノ方針ヲ研究シ、露國太平洋艦隊ノ討滅ヲ以テ、先ツ第一ノ目的ト爲シ、之ニ對スル計畫ヲ定メ、次テ愈々開戦トナルニ及ヒ、東郷司令長官ノ統率セル我カ聯合艦隊ハ、敵艦隊ノ主力ヲ旅順口ニ敗リ、司令長官海軍中將片岡七郎ノ引率セル第三艦隊ハ、朝鮮海峡ヲ根據トシテ浦鹽斯德ニ在ル敵分遣艦隊ノ南下ニ備ヘタリ、爾來旅順口ノ敵艦隊ハ、全ク退却ノ策ヲ取ルニ至リシト雖モ、浦鹽斯德ノ敵艦隊ハ時々日本海ノ北部ニ出沒シテ、我カ商船帆船等ヲ脅スノミナラス、當時東洋回航ノ途ニ

在リシ敵ノ戰艦オスラービヤ巡洋艦アウローラ「ドミトリ」ドンスコイ其ノ他驅逐艦、水雷艇等、合シテ十餘隻モ尙在再紅海方面ニ滞留シ、戰勢ヲ窺ヘルモノ、如ク、殊ニ露本國ニ於テハ更ニ優力ナル増援艦隊ヲ編制シ、前記艦隊ト合シテ東洋ニ回航セシメントストノ情報アリタルヲ以テ、我カ海軍ハ戰勝ノ餘勢ニ乘シ、速ニ敵艦隊主力ノ根據タル旅順口ヲ攻略シ、以テ其ノ増援艦隊ヲシテ東洋ニ回航スルノ希望ヲ放棄セシムルカ、或ハ少クモ之ニ對シ我カ海軍ノ勝算ヲ一層確實ナラシムルノ必要アリト爲シ、旅順口攻略ヲ以テ遼東半島ノ敵ニ對スル、陸海軍聯合作戰ノ第一目的ト爲サントヲ希望セリ、然ルニ其ノ後我カ第二軍編制セラレテ遼東南岸ニ上陸シ、陸海軍聯合作戰開始セラル、ニ至ルヤ、陸軍ニ於テハ第二軍ヲ以テ先ツ大連灣沿岸ニ確實ナル根據地ヲ設立シタル後、其ノ一部ヲシテ旅順陸上ノ敵ヲ扼セシメ、主力ヲシテ第一軍ト策應シテ北方ノ敵ヲ攻撃セシメ、且別ニ第三軍ヲ編成シ、時機ヲ見テ旅順ノ攻略ニ從事セシムルコトニ計畫セシヲ以テ、速ニ旅順口ヲ攻陷セント欲スル我カ海軍ノ希望ハ、暫ク其ノ實行ヲ見ル能ハサルニ至レリ、是ニ於テ東郷聯合艦隊司令長官ハ、專ラ旅順海上ノ敵ニ對シテ監視行動ヲ取リシニ、五月中旬戰艦初瀬、八島巡洋艦吉野、通報艦官古砲艦大島、驅逐艦噴水雷艇第四十八號等相續イテ沈没シ、爲メニ我カ艦隊ノ勢力ヲ減殺シ、且各艦艇ハ開戰以來既ニ數月間頻繁ナル行動ヲ續ゲシカ爲メ、漸ク修理手入ヲ要スルノ時期ニ達セントシ、加フルニ露國ハ愈々増援艦隊ノ編制ヲ發表シ、將ニ七月初旬ヲ期シテ本國ヲ出發セントストノ情報アリシヲ以テ、大本營ニ於テハ速ニ旅順口ヲ攻陷シテ敵艦隊ヲ討滅スルノ切要ヲ認ムルニ至リ、五月二

十九日ヲ以テ第三軍ノ戰鬪序列ヲ令セラレ、陸軍中將男爵乃木希典之カ軍司令官ニ補セラレ、
(軍司令部ノ編成ハ) 專ラ旅順陸上ノ敵ニ對シテ作動スルコト、ナレリ、其ノ戰鬪序列左ノ如シ、
(五月八日完結セリ)

第三軍司令部

野戰第一師團 (機關砲隊一隊ヲ含ム)

野戰第十一師團 (機關砲隊一隊ヲ含ム)

第一、第十一師團野戰電信隊

第三軍兵站監部

第一、第十一師團兵站諸部隊

第一師團補助輸卒隊 四隊

第四師團補助輸卒隊 二隊

後備步兵第二聯隊ノ一大隊

攻城砲兵司令部

徒歩砲兵隊 (三聯隊ト一大隊)

攻城砲廠 一個

攻城工兵廠 一個

(以上ノ外野戰重砲兵隊及砲廠時氣球隊ヲ增加スルコトアリ)

次テ五月二十九日參謀總長元帥陸軍大將侯爵大山巖ハ、乃木第三軍司令官ニ左ノ訓令ヲ與ヘ

一、五月二十六日金州附近ノ戦闘ニ於テ旅順要塞ニ退走シタル敵ハ第一、第二、第三師團ノ一部及ヒ第四師團ノ大部ニシテ該要塞ノ遊動防禦兵トシテ尙殘存スルモノハ第七師團ノ全部及ヒ前記諸師團ノ兵ナルモノ、如シ

敵ノ野戰軍ノ主力ハ遼陽附近ニ集合シツ、アリテ其ノ兵力ハ目下約我カ六師團ニ相當スルモノナラン

二、我カ第一軍(近衛第二師團)ハ目下鳳凰城附近ニ在リテ前進ノ準備中ナリ

獨立第十師團ハ目下其ノ主力ヲ以テ大孤山附近ニアリ其ノ上陸完結ハ六月中旬ナラン

金州半島ヲ攻撃シタル軍隊ノ一部ハ既ニ安子山(青泥窪ノ西)ヨリ鷄冠山(青泥窪ノ西南)附近ニ互ル線ヲ占領セシナラン

第二軍(第三第四第五師團)ハ北進ヲ準備スル目的ヲ以テ普蘭店大沙河ノ線ニ其ノ兵力ヲ集合スル筈而テ其ノ北進ニ就キ得ルハ早クモ六月十二日頃ナラン

第三軍作戦計畫(三編者曰ク備考)ニ掲クル野戰重砲隊ノ主力(四門中隊五個)ハ安東縣ヨリ其ノ一部(四門中隊二個)ハ本國ヨリ執レモ

六月二十日頃青泥窪ニ向ヒ輸送ヲ開始スル筈ナリ

野戰鐵道提理部ハ六月二十日頃青泥窪ニ上陸シ其ノ業務ニ就ク豫定ナリ

三、第三軍作戦ノ目的ハ成ルヘク速ニ旅順ヲ攻略スルニ在リ

如何ナル場合ニ於テモ第二軍ノ後方ニ陸上ヨリスル敵ノ危害ヲ及サ、ル如クスルヲ要ス

四、第三軍ノ船舶輸送ハ別冊作戦計畫ニ規畫セラレタリ其ノ詳細ニ關シテハ運輸通信長官ヲシテ直接第三軍司令官ニ交渉セシム

五、彈藥攻城材料軍需品等總テ鐵道ニ依リ、運搬スルヲ要スルモノハ直接之ヲ野戰鐵道提理ニ請求スヘシ

六、本訓令ノ實施ニ付協同ノ動作ヲ要スル事項ハ聯合艦隊司令長官ト協議スルコトヲ得

是ニ於テ乃木軍司令官ハ、軍參謀長陸軍少將伊地知幸介以下司令部員ヲ率非、第一八幡丸ニ乗

シテ六月二日宇品ヲ發シ、同月四日裏長山列島ニ著シ、東郷聯合艦隊司令長官ト訪問ヲ交換シ、

且作戦上ニ關スル協議ヲナシ、六日鹽大澳ニ上陸シ、其ノ司令部ヲ青泥窪ノ北方ナル北泡子崖

ニ設置セリ、此ノ時ニ當リ第二軍戰鬥序列ヲ脱シテ、新ニ第三軍ニ編入セラレタル第一、第十一

兩師團ハ、第一師團長陸軍中將貞愛親王殿下之ヲ指揮シ、北ハ安子山(一名ダブル)ヨリ、南ハ臺子

山ニ互ル線ニ據リテ、旅順方面ノ敵ト相對セリ、

是ヨリ先キ我カ陸軍ノ戰局次第ニ發展スルニ從ヒ、大本營ニ於テハ夙ニ出征軍ノ作戦ヲ指揮

セシムルカ爲メ、陸軍大總督府ヲ編成シ、之ヲ戰地ニ進ムルノ必要ヲ認メ、四月上旬ノ頃ヨリ、既

ニ研究スル所アリシカ、其ノ任務權限等ニ關シテ種々ノ議論ヲ生シ、殊ニ第三軍即チ旅順攻圍

軍ヲシテ、滿洲ノ平野ニ作戦スル諸軍ト、同一指揮ノ下ニ屬セシムルハ不條理ニシテ、何レカ一

方粗略トナルノ慮アリ、故ニ旅順攻圍軍ハ大本營ニ於テ直接指揮スルヲ至當トストノ說アリ

シモ、五月下旬ニ至リ、詔勅ニ由リ出征陸軍中滿洲ニ於テ行動スル數軍ノ作戦ヲ指揮セシムル

百七

第九章 第一節 第三軍ノ編制及ヒ任務

百七

百七

百七

百七

百七

百七

百七

カ爲メ、高等司令部ヲ編成シ、之ヲ戰地ニ進ムルコトニ決定セラレタルヲ以テ、陸軍ニ於テハ大總督府ノ名稱ヲ滿洲軍總司令部ト改メ、直ニ之カ編成ニ著手シ、六月二十日其ノ編成ヲ終リ、大山參謀總長ハ滿洲軍總司令官ニ補セラレ、參謀次長陸軍大將男爵兒玉源太郎ハ、滿洲軍總參謀長ニ轉シ、元帥陸軍大將侯爵山縣有朋ハ參謀總長ニ補セラレタリ、仍テ二十一日山縣參謀總長ハ大山滿洲軍總司令官ニ、左ノ如ク訓令セリ、

一、滿洲ニ於ル野戰軍大作戦ノ目的ハ同地方ノ敵軍ヲ擊破シ遠ク之ヲ掃蕩スルニアリ
二、滿洲軍總司令官ノ指揮下ニ屬スル野戰軍及ヒ獨立師團左ノ如シ

第一軍

第二軍

第三軍

獨立第十師團

三、聯合艦隊ト共同動作ヲ要スル場合ニ於テハ、滿洲軍總司令官ハ聯合艦隊司令長官ト協議スヘシ

是ニ於テ第三軍ハ六月二十三日ヲ以テ、滿洲軍總司令官ノ指揮下ニ入レリ、而テ海軍々令部長海軍大將子爵伊東祐亨ハ、山縣參謀總長ト協議シテ、右訓令中第三項ノ共同動作ハ、曩ニ東郷聯合艦隊司令長官ニ下サレタル敵艦隊ノ全滅ヲ圖ルヘシ、トノ命令範圍内ニ限ルコト、定メ、同日東郷聯合艦隊司令長官ニ左ノ訓令ヲ發セリ、

一、(編者曰ク右訓令第一項ト同一ナルヲ以テ略ス)

二、(右)

三、貴官ハ大海令第一號及ヒ大海令第六號ノ目的ヲ達スル爲メ、共同作戰ヲ要スル時ハ滿洲軍總司令官ト協議スヘシ (大海訓第八號)

仍テ東郷聯合艦隊司令長官ハ、乃木第三軍司令官ト協議シ、第三軍及ヒ聯合艦隊間ニ於ル交渉、竝ニ通信連絡ノ爲メ、特ニ海軍將校ヲ第三軍ニ隨屬セシムルコトニ決シ、七月六日岩村第三艦隊參謀、同海軍大尉伊集院俊ヲ第三軍司令部ニ隨從セシメ、同時ニ岩村參謀ニ左ノ訓令ヲ與ヘタリ、

一、貴官第三軍ニ隨從スル間ハ主トシテ陸軍ノ進攻ニ伴フ海軍ノ協力ニ就キ軍ノ顧問トナリ且陸海ノ通信ヲ擔任スヘシ

二、貴官ハ小平島南口角大固口ノ望樓事務ヲ監督シ海上ノ敵情ニ就キ迅速且確實ニ第三地點ニ通信セシムヘシ

三、第三軍ノ前進セサル間ハ港務部内ニ宿營シ各望樓トノ電話連絡ヲ保持スルヲ可トス
四、敵脱出等ノ急報ヲ得ハ大固口其ノ他B哨區(編者曰ク小平島南方附近ノ哨區ナリ)等ノ驅逐隊艇隊等ニ急報スルノ用意ヲ爲シ置クヘシ

五、貴官ノ任務ニ必要ナル下士卒ハ便宜第五戰隊ヨリ隨行セシムヘシ尙書任後臨時必要ナル時ハ青泥窪碇泊ノ日本丸臺南丸ニ要求スヘシ (聯隊機密第八五六號)

斯テ伊集院參謀ハ七日、岩村參謀ハ九日、何レモ青泥窪ニ著シ、同地港務部内ニ於テ事務ヲ開始セリ、

百十

第二節 第三軍ノ前進

六月初旬ノ頃、安子山ヨリ毛頭子峠ヲ經テ、臺子山ニ到ル線ニ進出シタル第三軍ハ、爾來暫ク其ノ現狀ヲ維持シテ、攻撃ニ必要ナル諸般ノ準備ニ努メシカ、大本營ニテハ旅順攻陷ヲ速ナラシメンカ爲メ、同軍ニ屬スル人員物資ヲ大連灣ニ陸揚ケセント欲シ、聯合艦隊司令長官ニ訓令スルニ、成ルヘク速ニ同灣ノ掃海ヲ行ヒ、運送船ノ航路ヲ開通スヘキヲ以テセリ、此ノ時ニ當リ、旅順方面陸上ノ敵情ハ明瞭ナラスト雖モ、諸情報ニ據ルニ、敵ハ其ノ本陣地ヲ雙臺溝附近ヨリ安子嶺ヲ經テ、老坐山附近ニ到ル線ニ構ヘ、稍有力ナル監視兵ヲハ歪頭山、鷄冠山及ヒ老檄山等ノ山頂ニ出セルカ如ク、而モ此等ノ諸山ハ大連旅順間ニ於ル最高地脈ニシテ、殊ニ歪頭山ノ如キハ標高三七二米突ヲ有シ、東ハ大連灣全部ヲ瞰下シテ我カ陣地ノ内部ヲ窺フニ足リ、西ハ遠ク旅順要塞防禦ノ概要ヲ眺メ得ヘク、又老檄山(標高三五五米突)ハ眼下ニ小平島錨地ヲ瞰制スルノ重要地點ナルヲ以テ、此等諸高地ノ攻奪ハ彼我現在ノ地位ヲ轉倒シ、我ハ大連灣内ニ於ル根據ヲ確實ニスルト同時ニ、旅順方面ノ敵狀竝ニ其ノ地形ヲ偵知スルコトヲ得ヘク、就中小平島ノ占領ハ大連灣ノ掩護上我カ海軍ノ最冀望セル所ニシテ、同灣ノ掃海モ既ニ殆ト結了シ、不日運送船ノ入港ヲ見ントスルニ至リシニ因リ、乃木第三軍司令官ハ歪頭山及ヒ小平島ヲ占領スルノ目的ヲ以テ、第一師團ノ左翼ヲ韓家屯北方高地ヨリ、同地西南約六百米突ナル標高二三八米突

高地ニ互ル線ニ前進セシメ、第十一師團ハ第一師團ノ左翼ニ連絡シ、花紅溝西方高地ヨリ黃泥川大上屯ノ南北高地ニ互ル線ニ前進セシメント決シ、六月二十五日之ニ關スル軍命令ヲ發セリ、是ニ於テ第一師團ノ左翼ハ、翌二十六日午前五時ヨリ運動ヲ起シ、微弱ナル敵ノ監視隊ヲ驅逐シテ豫定ノ線ニ進出シ、第十一師團モ亦同日早朝ヨリ運動ヲ開始シ、其ノ右縱隊ハ午前七時三十分小數ノ敵ヲ擊退シテ、第一師團左翼ト共ニ亂泥橋東方一帶ノ高地ヲ占領シ、中央縱隊ハ八時歪頭山ヲ占領シ、進シテ其ノ西方約千米突ナル標高三六八米突高地ヲ攻撃シ、激戦ノ後午後五時三十分全ク同山頂ヲ占領セリ、又左縱隊ハ午前五時二十分頃老檄山ヲ占領シ、七時ヨリ八時二十分迄ノ間ニ於テ、小戰鬥ノ後約一個中隊ノ敵兵ヲ擊攘シ、雙頂山ヨリ黃泥川大上屯ニ至ル線ニ進ミ出テ、小平島錨地ヲ占領セリ、此ノ日標高三六八米突高地(我カ軍占領後之ヲ劍山ト名ク)附近ニ在リシ敵ハ、歩兵約二大隊砲若干門ニシテ、極テ勇敢ニ防戦セリ、其ノ後我カ軍ハ諸種ノ情報竝ニ敵ノ地圖等ヲ對照シ、同山ハ實ニ敵ノ本防禦線ノ一部ナリシヲ知レリ、前述ノ如ク劍山ハ歪頭山、雙頂山等ノ諸山峰ト共ニ、敵ノ防禦線内ヲ瞰制シ、且旅順要塞ノ大部分ヲ望見シ得ルヲ以テ、我カ軍ノ同山占領ハ敵ノ最苦痛ヲ感スル所ニシテ、其ノ本防禦線タル雙臺溝附近ヨリ安子嶺ヲ經テ、其ノ以南ノ地區ニ互ル陣地ヲ守備センニハ、之カ回復ヲ必要ト認メシモノ、如ク、七月三日、四日及ヒ五日ノ三日間、我カ陣地ノ中央及ヒ左翼方面ニ對シ、歩兵約十三四個大隊、砲少クモ二十四門ヲ以テ、有力ナル逆襲ヲ決行シ來レリ、乃チ或ハ堂々樂々奏シテ攻進シ來リ、或ハ夜半濃霧ニ乘シテ奇襲シ來リ、殊ニ五日午前二時三十分頃、敵ノ一部隊ハ

峻嶮ナル斷崖ヲ攀登シテ、正面及ヒ側面ヨリ劍山ニ向ヒテ突撃シ來リ、我カ守備兵ト格闘シタル等、其ノ動作頗ル勇敢敏捷ナリシカ、常ニ我カ軍ノ爲メニ撃退セラレ、遂ニ其ノ目的ヲ達セスシテ西方ニ退却セリ、是ヨリ先キ後備歩兵第一旅團ハ第三軍ニ編入セラレテ、六月中旬旅順方面ニ到着シ、聯合艦隊ヨリハ海軍陸戰重砲隊ヲ編制シテ、之ヲ第三軍ニ附屬セシメ、次テ第九師團(師團長陸軍中將 男爵大島久直)後備歩兵第四旅團、及ヒ野戰砲兵第二旅團モ亦同軍ニ編入セラレ、七月中旬ヨリ其ノ輸送ヲ開始セリ、

此ノ時ニ當リ、一日モ早ク旅順要塞ヲ攻略スルコトハ、我カ陸海兩軍ノ作戰上最緊要トスル所ナリシノミナラス、攻撃開始ノ遅延ハ敵ノ陣地ヲシテ益、堅固ナラシムルノ不利アルヲ以テ、乃木軍司令官ハ直ニ戰勝ノ餘勢ニ乘シ、長驅シテ敵ヲ要塞内ニ壓迫セント欲セシモ、爾後軍ノ向ハントスル所ハ敵ノ本陣地ニシテ、其ノ防禦線ハ雙臺溝附近ヨリ、安子嶺附近ヲ經テ老坐山ニ連リ、之ニ大小約六十門ノ大砲ヲ備ヘ、其ノ第一線ノ諸設備ハ勿論、交通路、休息所、收容陣地等ニ至ル迄、最堅固完全ニ構成セルヲ以テ、之ヲ攻撃センニハ十分ノ準備ナカルヘカラス、故ニ軍ハ一先ツ現占領線ニ駐止シテ、鐵道ノ改修、交通路ノ修補、物資ノ蓄積等、諸般ノ準備ヲ整ヘシカ、當時軍ノ後方ニ於ル諸設備ハ未タ完全ナラス、且後續部隊ノ來著豫期ノ如クナラザリシヲ以テ、軍ハ大本營及ヒ滿洲軍總司令官等ヨリ、旅順攻落ヲ急クヘキ督促頻リナリシニモ拘ラズ、攻撃準備ノ爲メ約一箇月ノ日子ヲ費スノ已ムヲ得サルニ至レリ、斯テ七月下旬ニ至リ、第九師團ノ約半部ト野戰砲兵第二旅團ノ一部トハ已ニ陣地ニ到着シ、殘餘ノ諸部隊モ亦續々到着

セントシツ、アルヲ以テ、乃木軍司令官ハ七月二十五日ヨリ全線ノ攻進ヲ開始シ、第一師團ヲシテ長嶺子西北方ノ高地ヨリ河西北方ノ高地ニ互ル線ヲ、第九師團ヲシテ第一師團ノ左翼ヨリ英各石附近ニ互ル線ヲ、第十一師團ヲシテ第九師團ノ左翼ヨリ海魚島附近ニ互ル線ヲ、各占領セシムルコトニ決セリ、而テ此ノ時期ニ於ル第三軍各部隊ノ配備大要左ノ如シ、

第一師團ハ案子山後ヨリ牧城駟東南山東方高地ヲ經テ五岔營子北方約千米突ノ高地ニ互ル線ニ在リ

第九師團ノ約半部及ヒ後備歩兵第一旅團ハ第一師團ノ左翼ヨリ亂泥橋東方一帶ノ高地(劍山北)ニ至ル間ニ在リ

第十一師團ハ劍山ノ頂上ヨリ黃泥川大上屯西方高地ヲ經テ同大下屯東方一帶ノ高地ニ互ル線ニ在リ

後備歩兵第一旅團ハ泉水屯附近ニ在リ

軍司令部ハ北泡子崖ニ在リ

是ニ於テ軍司令部ハ、七月二十六日午前四時北泡子崖ヲ發シテ前進シ、各師團モ亦同時ニ攻撃運動ヲ開始セシカ、敵ハ天險ノ要害ニ加フルニ堅固ノ防禦陣地ヲ構成シ、殊ニ凹字形山及ヒ大白山東方高地ニ據リシ敵ノ如キハ、克ク寡兵ヲ以テ我カ大兵ニ當リ、極テ勇敢ニ防戦セシヲ以テ、我カ攻撃意ノ如ク進歩セス、死傷約三千ニ達シ、激戦三日ノ後、二十八日漸ク豫定ノ線ニ進出スルコトヲ得タリ、仍テ軍ハ敵ヲシテ鳳凰山于大山ノ線ニ據テ、再抵抗セシムルノ餘裕ヲ與ヘ

ス、猛烈果敢ニ之ヲ追撃シテ、要塞内ニ壓迫シ、成ルヘク速ニ攻圍線ノ構成ニ著手センコトヲ欲セシモ、前防禦線ニ於ル敵陣ノ堅固ナリシト、其ノ抵抗ノ強硬ナリシトハ、我カ豫想以上ニシテ、其ノ攻奪ニ三日間ノ日子ヲ費シ、之カ爲メ我カ將卒ノ疲勞ト彈藥ノ消費トハ、直ニ追撃ヲ繼續スルヲ許サス、乃チ軍ハ一旦其ノ占領線ニ停止シテ、隊伍ノ整頓、彈藥ノ補給、竝ニ敵狀ノ偵察等ヲ行ヒタル上、七月三十日ヲ以テ攻撃ヲ再始スルコトニ決定シ、乃木軍司令官ハ二十九日軍命令ヲ發シ、各師團ヲシテ左ノ地區ヲ占領セシム、

第一師團 雙島灣東北岸ヨリ火石稜北方高地ニ於ル第九師團ノ右翼ニ至ル間

第九師團 鳳凰山西南標高二一〇米突高地ヨリ梨嵐子南方青泥窪新街道東側高地ニ至ル間

第十一師團 第九師團ノ左翼ヨリ郭家溝附近ニ至ル間

仍テ各師團ハ三十日早朝ヨリ前進ヲ起シ、各目的地區ニ向テ攻撃ヲ開始セリ、敵ハ鳳凰山西方及ヒ東南方ノ高地線ニ據リテ勇敢ニ防戦セシモ、其ノ陣地ハ前防禦線ニ比スレハ甚々薄弱ナリシヲ以テ、各師團ハ直ニ之ヲ撃破シテ、正午前已ニ豫定線ヲ占領スルコトヲ得、軍司令部ハ雙臺溝ニ前進セリ、

斯ノ如ク第三軍ハ七月三十日ヲ以テ、愈、敵ヲ要塞内ニ壓迫シタルヲ以テ、茲ニ攻圍線ヲ編成シ、本攻撃準備ニ著手セシカ、軍ノ左翼方面ニハ尙大孤山ノ敵手ニ殘レルアリテ、敵ハ其ノ山上ニ長射程ヲ有スル六門ノ野砲ヲ備へ、時々我カ第九及ヒ第十一師團ニ少カラサル危害ヲ與フ

ルノミナラス、同山ハ我カ陣地東方面ノ約半部ヲ瞰制シ、又遠ク長嶺子方向ヲモ瞻望シ得ルカ爲メ、我カ最秘密ニ付スヘキ本攻撃方面ヲ察知セラル、ノ恐アリ、故ニ之カ占領ハ軍ニ於テ極テ必要ヲ感スト雖モ、同地ハ敵本防禦線ノ直前ニ位置セルヲ以テ、過早ニ之ヲ占領スルトキハ、要塞砲火ノ集中ヲ蒙ルノ虞アルカ爲メ、其ノ攻略ハ我カ攻圍作業ノ進捗ニ伴ヒ、最適切ナル時機ヲ選擇セサルヘカラス、然ルニ軍ハ今ヤ攻城砲兵陣地ノ構成ニ著手セシニ、我カ主攻撃方面タル要塞ノ東北地區ニ於テハ、大孤山ヲ占領スルニアラサレハ、作業ヲ進捗スルコト能ハサルニ至リタルヲ以テ、乃木軍司令官ハ愈、同山ヲ攻略スルノ時機ニ達シタルヲ認メ、八月六日第十一師團ニ對シ、八日朝迄ニ大孤山及ヒ小孤山ヲ占領スヘキ旨ヲ命セリ、是ニ於テ第十一師團ハ七日午後四時三十分ヨリ運動ヲ起シ、大小孤山ニ向ヒテ砲撃ヲ開始ス、敵ハ要塞諸砲臺ト相合シテ我ニ應射セシカ、午後六時三十分ニ至リ、大小孤山ノ敵砲沈黙シタルヲ以テ、我ハ直ニ歩兵ノ突撃ニ移リシニ、此ノ時濛雨大ニ至リ、我カ兵ノ運動頗ル困難ヲ感シ、僅ニ大孤山ノ一角ヲ占領シタルノミニシテ日没トナリ、彼我近ク相對峙シテ遂ニ此ノ夜ヲ徹セリ、翌八日午前八時三十分、濛雨稍霽ル、ヲ待チ第十一師團ハ攻撃ヲ再始セシニ、午前十一時三十分敵ノ艦艇七八隻鹽廠附近ニ現レ、大小孤山ノ東方傾斜面ニ在ル我カ歩兵ヲ背後ヨリ猛射ス、我カ軍非常ノ苦戦ニ陥リ、爲メニ大ニ攻撃ヲ阻碍セラル、ニ至リシモ、更ニ勇ヲ奮ヒ終日激戦ノ後、午後七時三十分大孤山ノ全部ヲ占領シ、直ニ全火力ヲ小孤山ニ移シ、翌九日午前四時三十分全ク之ヲ占領セリ、此ノ戦闘中第十一師團ノ損害ハ將校以下約一千二百名ニ達セリ、

第三軍ハ已ニ大小孤山ヲ占領シ、其ノ左翼ハ敵要塞ノ直前ニ迫リタルヲ以テ、我カ主攻方面ヲ敵ニ覺ラサシメンカ爲メ、カメテ其ノ注意ヲ我カ右翼方面ニ牽カント欲シ、八月十一日乃木軍司令官ハ第一師團長ニ向ヒ、同師團ヲ進メテ李家屯及ヒ于大山ヨリ、小東溝南方高地ニ互ル線ヲ占領スヘキヲ命令セリ、仍テ同師團長ハ十三日夜襲ヲ以テ其ノ目的ヲ達セント欲シ、同日午後八時三十分ヨリ前進ヲ起シ、カ、敵ノ防禦堅固ナルノミナラス、當夜濛霧四塞シテ地形ノ識別竝ニ各部隊ノ連絡頗ル困難ヲ極メ、十四日午前二時頃ヨリハ降雨殊ニ烈シクシテ、大ニ我カ運動ヲ阻碍セラレ、于大山ヨリ礮盤溝西方高地、小東溝西方高地ヲ經テ、隨家屯ニ互ル線ハ天明迄ニ占領スルコトヲ得タリト雖モ、爾後ノ戰況發展セス、力戰ノ後十五日夕頃迄ニ、辛ウシテ小東溝東方高地(標高一三二米突)及ヒ大潘家屯西方高地(標高一六九米突)ヲ略取シタルモ、小東溝東南標高一七四米突高地ハ、遂ニ之ヲ奪取スルコト能ハス、同日午後八時軍命令ニ依リ戰闘ヲ中止セリ、此ノ三日間ニ於ル第一師團ノ損害ハ、約一千百五十名ニ達セリ、此ノ時ニ當リ、軍ノ攻城準備ハ已ニ殆ト完成シタルヲ以テ、乃木軍司令官ハ機ヲ圖リ、全線ヲ擧ケテ愈、要塞攻撃ヲ開始スルコトニ決セリ、

第三節 旅順攻略ニ關スル各部門ノ交渉

敵ノ増援艦隊ニ對スル我カ海戰ノ作戰上、速ニ旅順口ヲ攻略スルノ目的ヲ以テ、五月下旬第三軍編成セラレテヨリ、同軍ハ銳意其ノ前進ニ努メシモ、後方ニ於ル輸送ノ關係等ニ由リ、進政意ノ如ク進捗セス、七月上旬ニ至リシモ其ノ第一線ハ、漸ク雙臺溝ヨリ劍山ヲ經テ雙頂山ニ至ル

線ニ達シタルノミニシテ、要塞陥落ノ如キハ尙多クノ時日ヲ要スルノ狀況タリ、是ニ於テ東郷聯合艦隊司令長官ハ、七月十一日軍令部長ニ向ヒ左ノ電報ヲ發セリ、

目下旅順口ノ敵艦隊ハ過般ノ海戰ニ損傷シタル艦船ノ修理ニ汲ヤタルモノ、如ク又昨今我カ監視ヲ脱シテ外海ニ機械水雷ヲ沈置スルノ形跡アルカ爲メ我カ海上ノ監視ハ日ヲ逐ウテ益、困難ノ度ヲ高ムルノ實狀ナリ然ルニ我カ艦隊ハ五月上旬以來長時日ノ封鎖勤務ノ爲メ驅逐隊艇隊ノ兵員ハ漸次疲勞スルノ恐アルノミナラス艦船其ノ物モ次第ニ損耗シ殊ニ驅逐艦水雷艇ノ如キハ今後一箇月以上ノ勤務ヲ繼續セハ修理ヲ要スルモノ續々出ツルコト、豫期セリ現ニ今日ト雖モ修理手入ヲ要スルモノ尠カラサレトモ作戰上ノ必要ニ迫ラレ實際ハ無理ニ使役シ居ル有様ナリ、加之天候ノ異變其ノ他ノ原因ニ由リ今後ト雖モ又不測ノ災厄ニ罹リ我カ艦隊ヲ亡失スルナキヲ保シ難ク此ノ情勢ヲ以テ推移セハ旅順ノ敵ハ修理ヲ完成シテ再其ノ勢力ヲ回復スルニ反シ我カ艦隊ハ漸次ニ其ノ勢力ヲ減少スルコトアルモ増加スルコトナキカ爲メ終ニ旅順ノ敵ニ對シテヌラ彼我海上ノ權衡ヲ失シ如何トモスヘカラサルニ至ルヤモ計リ難ク眞ニ全局作戰ノ爲メ憂慮ニ堪ヘサル次第ナリ

以上ハ目下東航ノ情報アル婆羅的艦隊ヲ度外ニ置テノ考察ナレトモ若シ果シテ同艦隊ノ東航確實トナレハ我カ艦隊ノ大部分ハ直ニ本國ニ引揚ケ艦底ノ塗換ヘ其ノ他必要ナル修理等ヲ加ヘサルヘカラス艦艇ノ大部ハ已ニ入渠後六箇月ヲ經過シ驅逐艦ノ如キハ「ビエヤリング」ノ弛ミ居ルモノ少カラス此ノ塗換ヘ及ヒ修理ハ大至急工事ニテモ少クモ一箇月半ヲ

要スルカ爲メ婆羅的艦隊ノ出發ヲ確認シタルトキハ相當ノ時期ニ於テ我カ艦隊ハ當方面ヲ引揚ケサレハ之ニ對スル準備ヲ完整スルコト能ハス旅順ノ狀況今日ノ儘ニテ若シ此ノ如キ場合ニ立至ラハ今日ノ戰勢ハ全ク顛倒シテ遼東上陸軍ノ後方掩護ハ薄弱トナリ旅順ノ殘敵ハ任意ニ海面ニ跋扈シ從テ陸上ノ作戰ニモ大影響ヲ來スニ至ラン而モ婆羅的艦隊ノ東航ハ必ス有リ得ヘキ事ニテ之ニ就テ今日ノ疑問ハ唯何時頃出發シ得ルヤニアルノミ

實情斯ノ如クナルヲ以テ刻下作戰上ノ最大急務ハ一日モ速ニ旅順ヲ攻略シテ遼東上陸軍ノ後方ヲ安固ニシ聯合艦隊ハ旅順ノ敵艦隊ヲ擊滅シテ一日モ速ニ新來ノ敵ニ對スル必要缺クヘカラサル準備ヲ完整スルニ在リ旅順ノ攻落今後一箇月ヲ後ル、トキハ海陸共ニ終ニ挽回スヘカラサル不利ノ地位ニ立タサルヘカラサルニ至ルヘキヲ恐ル、ナリ敢テ卑見ヲ上申シ旅順攻略ヲ速ナラシムルニ一切ノ手段ヲ採ラレンコトヲ希望ス

是ニ於テ伊東軍令部長ハ、翌十二日大本營ニ於テ、前記聯合艦隊司令長官ヨリノ電報ヲ山縣參謀總長ニ示シ、且告グルニ旅順攻略ニ就キ陸軍ノ苦心ハ察スルニ餘リアルモ、聯合艦隊現下ノ實狀モ亦實ニ止ムヲ得サルモノアルヲ以テ、一日モ速ニ旅順攻略ヲ急カレンコトヲ望ム旨ヲ以テセシニ、山縣參謀總長ハ其ノ意見ニ同意シ、艦隊ノ具申ヲ大山滿洲軍總司令官ニ移スト共ニ、左ノ意見ヲ電報セリ、

東郷聯合艦隊司令長官ノ具申ニ依レハ旅順艦隊ハ修理ニ汲ヤトシ我カ艦船ハ長日ノ封鎖勤務ノ爲メ兵員ハ漸ク疲勞シ艦船ハ日ヲ逐ツテ損耗ス加之不測ノ災厄ハ我カ艦船ヲ奪フナキ

ヤ又保シ難ク即チ敵ハ其ノ勢力ヲ回復スルニ反シ我ハ漸次之ヲ減少シツ、アリ婆羅的艦隊ヲ度外ニ置キ旅順ノ敵ニ對シテスラ海上ノ權衡ヲ失スルニ至ラサルヤ憂フ我カ艦船ノ修理ハ大至急ノ事ニテモ一月半ヲ要スルヲ以テ婆羅的艦隊東航ノ時日ヲ確認セハ直ニ其ノ大部ヲ引揚ケ之ニ對スル準備ヲ完ウセサルヘカラサルヲ以テ旅順ノ攻略ハ今後一箇月後ル、トキハ海陸共ニ挽回スヘカラサル不利ノ地ニ立タサル可カラサルニ至ルヲ恐ルト

此ノ意見ハ本職ノ同意スル所ニシテ旅順ノ攻略ハ此ノ點ヨリモ亦焦眉ノ急ニ迫レリ第三軍ハ目下歩兵三十六個大隊大砲二百七十餘門ヲ有ス第九師團及ヒ砲兵旅團全部ノ到着ヲ待タス攻撃ヲ實行シ得ル望アリト考フ貴意如何全般ノ利益ノ爲メニ第三軍ニ少シク無理推スルハ止ムヲ得サル所ナランカ願クハ聯合艦隊司令長官ト直接協議アラントヲ

砲兵第二旅團ハ第九師團ト共ニ輸送ヲ始ムルモ船練リノ都合上本月末ニアラサレハ青泥窪ニ上陸ヲ了ルコト能ハサルヘシ旅順攻撃ノ日取決定アラハ内報ヲ乞フ

右ニ對シ大山總司令官ハ、東郷聯合艦隊司令長官及ヒ乃木第三軍司令官ト會見シテ、海陸諸般ノ情況ヲ知悉シ、七月二十日山縣參謀總長ニ向ヒ左ノ答電ヲ發セリ、

七月十二日發旅順攻撃ニ關スル電報去十二日長島ニテ受領シ直ニ聯合艦隊司令長官ニ依リ海軍ニ關スル情況ヲ知悉シ其ノ後青泥窪上陸第三軍司令官竝ニ鐵道提理部ヲシテ現況及ヒ將來ニ關スル諸計畫ヲ報告セシメ之ヲ綜合シテ判斷スルニ諸種ノ關係上七月二十五日ヲ以テ攻圍線ヲ進ムル運動ノ開始日トナシ七月三十日迄ニ鳳凰山ノ線ヲ占領シ其ノ後方ニ於テ

ハ鐵道線路修築ヲ延長シ八月十一日ヨリ攻城材料ノ運搬ニ著手シ八月十八日砲兵掩護陣地ヲ占領シ八月二十一日ヨリ本要塞ニ對シ砲撃ヲ開始スル豫定ナリ故ニ旅順ノ攻略ハ先ツ八月末トナルヘシ

大本營ニ於テハ右答電ニ接スルヤ、直ニ會議ヲ開キ、陸海兩軍幕僚長等會合ノ上、旅順攻略ニ關シテ協議ヲ凝ラシ、其ノ結果將來ノ作戰上旅順攻陷ヲシテ尙一層速ナラシメンコトヲ必要トシ、本會議ニ參與シタル滿洲軍參謀陸軍少將井口省吾（後方事務整理ノ爲メ大本營ニ留レリ）ハ、兒玉滿洲軍總參謀長ニ向ヒ左ノ電報ヲ發セリ、

總司令官竝ニ第三軍司令官ヨリ大本營ヘノ報告ニ據レハ旅順攻撃ハ本月二十五日ヲ以テ攻圍線ノ前進ヲ開始シ來八月二十一日ヲ以テ始テ砲撃ヲ開始セラル、モノ、如シ殆ト一箇月ニ互ル此ノ間ニ於テ何時旅順ノ敵艦突出シ來ルヤモ知ルヘカラス我カ艦隊ヲ以テ終始之カ警戒ヲ保持スルコトハ不可能ノコトニ屬ス又旅順陷落ノ時期漸ク遷延スルニ從ヒ婆羅の艦隊ノ東航益々事實トナルノ公算ヲ増加シ今日ニ在リテモ其ノ實行ノ疑フヘカラサルコトハ海軍當局者ノ確ニ豫期スル所ナリトス然ルニ我カ艦隊ハ開戰前ヨリ已ニ久シク軍務ニ從事シアリテ其ノ間修繕改装等ノ餘暇ナク今日ニ至リテハ大小艦船共ニ船渠ニ入ラサルヘカラサル如キ比々皆然ラサルナシ而テ之カ修繕ヲ全ウセンニハ少クモ二箇月ヲ要スト云フ若シ此ノ修繕ヲ了ラサルニ先タチ婆羅の艦隊東洋ニ來著スルカ如キコトアラシカ此ノ時已ニ旅順陷落シアリトスルモ忽チ彼我優劣ノ勢ヲ轉倒シ敵ヲシテ制海權ヲ回復セシムルカ如キ

非運ニ際會スル無キヲ保セス加之浦鹽艦隊モ亦只日本海ニ暴威ヲ逞ウスルノミナラス今ヤ津輕海峽ヲ超エ太平洋ニ出テ、我カ航海ヲ不安ナラシメツ、アリ情況夫此ノ如シ故ニ此ノ際旅順陷落ハ對露征戰全般ノ形勢ニ鑑ミ一日モ速ナルヲ要シ之ヲ八月下旬迄遷延スルハ全般ノ形勢ノ許サ、ル所ニシテ之ヲ短縮スルカ爲メニ多クノ犠牲ヲ生シ正攻準備ノ一部ヲ畫餅ニ屬スルカ如キハ顧ミルニ暇ナキコト、信ス

本日大本營兩幕僚長閣下會合ノ上此ノコトニ就キ疑議ヲ遂ケラレ兩閣下共憂慮措ク能ハス旅順陷落ノ一日モ速ナラシコトヲ切望セラル、様見受ケラレ此ノ事ニ關シテハ總司令部ニ於テモ篤ト御熟考ノ上可然御處置アラシコト陸海征戰全般ノ爲メニモ又陸上征戰今後ノ基礎ヲ固ムル爲メニモ切望ニ堪ヘス因テ右意見ヲ具申ス

又伊東軍令部長モ之ニ關シ、同月二十四日大山總司令官ニ左ノ電報ヲ發セリ、
我カ艦隊ノ現狀ヲ鑑ミ又旅順攻略遷延シ敵増援艦隊來東スル場合ニ見ルヘキ彼我艦隊勢力ノ關係等ヲ豫想スルトキハ誠ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアル事情ハ閣下等夙ニ御熟知ノコト故ニ閣下等戰地御到著ノ曉ニハ旅順攻略ヲ線上ケ決行セラル、ノ吉報ニ接スルヲ得ヘシト期待セルニ今ヤ此ノ豫想空シク水泡ニ歸セントスルヲ見ルニ至リテハ大ニ遺憾ニ堪ヘス然レトモ此ノ事タル其ノ關係至大ニシテ我カ皇國ノ興廢之ニ憑ルト稱スルモ過言ニアラサル的重大事ナリト信スルヲ以テ重複ヲ顧ミス茲ニ更ニ事情ヲ陳述シテ尊慮ヲ煩ハサントス我カ艦隊ノ殆ト全部ハ開戰以來戰場ニ在ルコト已ニ六閱月今ヤ其ノ諸艦艇ハ入渠修理ヲ要

スルノ時機ニ達セリ故ニ旅順攻略尙一箇月ヲ要シ其ノ間絶エス全カヲ敵艦隊ノ封鎖ニ用フルヲ要スルコト、モナラハ諸艦艇ハ如何ナル惡現狀ニ立到ルヘキヤ未タ遽ニ知ルヘカラサルモノアリ之ニ反シ旅順口ニ在ル敵ノ艦艇ハ再三我カ打撃ヲ被リタルモノト雖モ尙漸次其ノ修理ヲ終リ戰鬪力ヲ回復スルニ至ルヘキハ必然ニシテ又久シク世論ノ種子トナリ居タル婆羅的艦隊ノ出航準備モ近時大ニ其ノ歩ヲ進メタルモノ、如ク今ヨリ一箇月ヲ閱セハ絶東ニ近ツキ來ルコトヲ得ルモノト認メサルヘカラス故ニ今ヨリ一箇月以後旅順ヲ攻略シ我カ艦隊幸ニ敵ノ旅順艦隊ヲ全滅スルヲ得ルモノトスルモ我カ艦隊ハ戰後修理ノ暇モナク非常ニ不利ノ情況ノ下ニ彼ノ新銳艦隊ト相見エサルヲ得サルニ至ルコトアルヘキヲ覺悟セサルヘカラス

是我カ國ニ取リテ大ナル不利タルコトハ申ス迄モナキ次第ニシテ此ヲ思ヒ彼ヲ想ヘハ實ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリ冀クハ更ニ御詮議ノ上旅順方面ノ進軍ヲ急カレ遅クモ八月十日頃迄ニハ其ノ攻略ヲ終ラル、様御取計アラシク切望ノ至リニ堪ヘサルナリ

七月二十五日井口滿洲軍參謀ハ、兒玉總參謀長ニ向ヒ再左ノ電報ヲ發セリ、
旅順ノ攻撃ヲ鐵道修理ノ完成ニ俟ツトキハ其ノ實施迄ニ尙數週ノ日時ヲ要シ此ノ時日ノ延長ハ實ニ制海權ノ死活ニ多大ノ影響ヲ與ヘ延テ全軍ノ運命ニ緊切ノ關係ヲ及スヘシ寧口徒歩砲兵及ヒ攻城廠諸材料ノ運搬ニ鐵道ヲ藉ラス砲兵段列及ヒ彈藥縱列ノ輓馬等ヲ使用スルトキハ攻撃實施ヲ大ニ速ナラシムルノ一手段ト考フ而テ之カ實行ハ方法宜シキヲ得ハ軍ノ

内部ノ狀況ニ何等不利ヲ醸スコトナクシテ時局ヲ未タ困難ニ陥ラサルニ救済スルヲ得シカ

重テ卑見ヲ述ヘ切ニ御採納ヲ望ム婆羅的艦隊ノ東航ハ今ヤ事實トシテ疑ナキニ至レリ

同日大本營陸軍參謀次長陸軍少將岡外史モ、亦兒玉總參謀長ニ向ヒ左ノ電報ヲ發セリ、
浦鹽艦隊ハ二十一日津輕海峽ヲ通過セシ以來太平洋ヲ闊歩シ數隻ノ汽船ヲ轟沈シ我カ海運ノ大部ヲ杜絶シ我ハ人心ニ不安ヲ齎ラシ今ヤ伊豆沖ヲ悠々西航シツ、アリ内地沿岸各要點ニハ守勢作戰計畫ノ要領ニ據リ守備隊ヲ配置セシメラレタリ之カ爲メ目下從軍中ノ軍隊及ヒ軍需品ノ大輸送ハ再不安ニ襲ハレ婆羅的艦隊來著以前ニ或ハ結了スル能ハサルコトヲ恐ル浦鹽艦隊ノ我カ臥榻ノ下ニ於テスル此ノ傍若無人ノ舉動ハ要スルニ旅順艦隊ノ現在セルニ依ルコト明ナリ此ノ點ヨリ考フルモ旅順陥落ノ一日モ速ナラシコトヲ要ス巧遲ヲ求ムルノ間ニ時局ハ遂ニ救フヘカラサルコトニ立チ至ル恐ナキカ閣下ノ明斷ヲ望ム

七月二十八日大山總司令官ハ、伊東軍令部長ニ向ヒ左ノ答電ヲ發セリ、
本月二十五日午後三時發ノ貴電受領セリ尙東郷長官ヨリモ之ニ關スル電報ヲ受領セリ旅順ヲ一日モ早ク攻略スルハ日本帝國全軍ノ緊要中ノ緊要事ナルコト全ク閣下ト同感ニシテ現ニ之ニ努力シツ、アリ然レトモ旅順ノ敵ハ全ク退路ヲ有セス且餓死スルカ將タ降服スルカノニアルノミナルヲ以テ其ノ防守ノ頑強ナルコトハ閣下ノ夙ニ諒察セラル、所ナルヘク又旅順ニ對スル戰鬪ハ野戰ト異リ長日月ヲ費シテ構築シタル要塞ナルヲ以テ其ノ攻撃ノ爲メニハ十分ナル重砲火ノ威力ヲ發揚スル如ク準備スルニ非サレハ之ヲ攻略スルコト能ハサル

コトモ閣下ノ知了セラル、所ナリ現ニ第三軍ハ敵ノ背後第一防禦線ヲ二十五日以来主カヲ盡シテ攻撃シ居ルモ今日尙僅ニ其ノ一地點ヲ占領シタルニ過キス第一防禦線スラ尙且然リ況ヤ本陣地ニ對シテハ一層多大ノ困難ヲ冒サ、ルヘカラス攻城材料ヲ運搬スルニハ鐵道ヲ修築シテ使用セサルヘカラスソレヤ是ヤノ準備ニハ相當ノ時日ヲ費ス御所望ノ時日ニ攻略ヲ完成スルハ遺憾ナカラ成功ノ望ナシ尤大本營ニ報告シ置キタル攻撃日割ハ十分ニ見積リタルモノナルヲ以テ其ノ範圍内ニ於テ出來得ル限り之ヲ短縮シ成ルヘク御希望ニ近ツク様致ス考ヘナリ右諒セラレヨ

前記ノ如ク大本營及ヒ聯合艦隊ニ於テハ、旅順ノ攻略ヲ急クコト愈々切ニシテ、第三軍ニ於テモ亦其ノ意ヲ諒シ、銳意之ヲ準備ニ從事セシト雖モ、後方ノ輸送意ノ如ク敏活ナラス、而モ敵ノ防禦ハ天險ニ加フルニ永久築城ヲ以テセルカ爲メ、軍ニ於テモ之カ攻撃計畫ニ就テハ最苦心スル所タリ、是ニ於テ大本營ニテハ第三軍戰況視察ノ爲メ、特ニ陸軍參謀ヲ同軍ニ派遣シ、井口陸軍少將モ亦滿洲軍總司令部ニ赴任ノ途次、第三軍司令官及ヒ同參謀長等ト會見シテ、互ニ意見ヲ交換シタル結果、同少將ハ八月四日長岡參謀次長ニ向ヒ、左ノ電報ヲ發セリ、

第三軍司令官竝ニ同參謀長ニ會見シ旅順攻略ヲ急速實行スルコトニ關シ參謀總長ノ希望セラル、要領ヲ陳述セシニ第三軍ニテ豫定セル計畫ノ期日ハ有ユル手段ヲ盡セル上ノ最小限ニシテ此ノ上短縮ノ餘地ヲ存セス然レトモ更ニ考究ノ上準備砲撃ノ時日ヲ節約シ工事ヲ急キ敵ノ突撃シ來ル機會ニ乘スル等苟モ取り得ヘキ手段アラハ之ニ據リテ成シ得ル限り更

ニ時期ヲ短縮スルコトニ躊躇セサルヘキハ軍司令官ノ斷言セラル、所ナリ之カ爲メ最切要ナルハ榴彈藥ノ補充ヲ急クニアリ目下一門ニツキ約百發ニ過キス然ルニ承ル所ニ據レハ補充彈藥ノ宇品積込ハ本月十三日ナル由全數同時ノ輸送ハ至急トセス數回ニ分送セラル、モ差支ナキニ由リ一日モ早ク積出サル、様取計ヲハレタシ云々

翌五日亦同參謀ハ、參謀次長ニ向ヒ左ノ電報ヲ發セリ、

豫定計畫ノ時日ヲ短縮スルカ爲メ奇襲其ノ他ノ術策ヲ取ル如キハ失敗ヲ招クノ恐アリトシ數回議論ヲ重ヌルモ軍參謀長ノ斷シテ同意セサル所ニシテ昨日電報セシ時日短縮ハ豫定計畫ノ範圍内ニ於テ之ヲ試ムヘシト云フニ過キス大本營ニテ憂慮セル如キ切迫ノ事情ニ就キテハ艦隊司令長官ヨリ嘗テ聞ク所ナリ且攻城計畫ニ就テハ協議ノ時司令長官別ニ異存ナカリシトノ故ヲ以テ軍參謀長ハ寧ロ大本營ノ見所ヲ以テ悲觀的杞憂トナスノ傾アリ此ノ上大本營ニテ非常手段ヲ取ラ、ノ外短縮ハ見込ナシ總司令官モ同感ト信ス云々

之ト同時ニ第三軍戰況視察ノ爲メ、同軍へ出張シタル大本營陸軍參謀ヨリ、參謀次長ニ發シタル電報左ノ如シ、

旅順ノ攻略ヲ急速ニスヘキ事ハ軍司令官始メ皆同意ナルモ本月十日頃ニ之ヲ攻略スルコトハ軍ノ計畫ヲ根底ヨリ變更シ奇襲ニ出ツルノ外到底不可能ノ事ニ屬ス然ルニ旅順ノ防禦ハ素ヨリ其ノ詳細ヲ知ルコト能ハサルモ日々發射スル砲彈ノ威力ト彼カ野戰ニ於テ築造セシ各種作業ノ景況ニ照セハ其ノ防禦工事ノ堅強ナルヲ察スルニ足リ十分

ナル重砲々撃ニ依ラス奇襲ヲ以テ之ヲ攻撃センハ重大ノ責任ニ顧ミ軍司令官ノ敢行ニ難スル所ナリ然レトモ此ノ攻略ハ急速ヲ要スルヲ以テ目下各種ノ方法ヲ應用シ攻城準備ノ時日短縮ニカメツ、アリ只各師團ノ輸送力大ニ減シ少キハ三分ノ一多キモ三分ノ二ニ至レル現狀ナルヲ以テ其ノ行程ヲ(編者曰ク此ノ所兩三字原文不明)然ラサルモ尙多少ノ時日ヲ短縮シ得ルト豫定計畫ノ時日ハ萬一ヲ慮リ餘裕ヲ見込アルトニ依リ目下ノ處此ノ計畫ヨリ二三日ヲ短縮シ得テ十八九日ニハ砲撃ヲ開始シ攻略ニ著手スルヲ得ヘキ見込アリ又艦隊ノ現狀ニ就テ軍ノ見ル所ハ大本營ト稍程度ヲ異ニスルカ如シ元來第三軍ハ聯合艦隊ト協力シ旅順ヲ攻略スルノ任務ヲ有スルニ依リ日ニ巨細トナク互ニ通報シ彼我共ニ能ク其ノ狀況ニ通セリ且艦隊ノ幕僚ハ常ニ軍司令部ニ出入シアルヲ以テ旅順ノ攻略ヲ非常ニ急速ニスルヲ要セハ直ニ軍司令官ニ協議スルヲ可トセシニ攻撃計畫ヲ艦隊ニ送リシ時何等ノ意見ヲ提出シ來ラザリシ故ニ同意セシモノト認メタリ因テ艦隊ニ自今尙約二週間忍耐ヲ求ムルハ非常ニ無理ニハアラサルヘシト第三軍ノ意見ナリ軍ノ現狀ニ照ラセハ奇襲ニ出ツルヲ欲セサル限リ斯ルヨリ外他ニ手段ナカラシカ且此ノ計畫ニ違算ヲ來サ、レハ婆羅的艦隊ノ東航ニ就ク以前ニ於テ尙旅順ヲ攻略スルノ望ナキニ非ス

右電報ニ示スカ如ク、旅順攻略ニ關スル聯合艦隊司令長官ノ意志ハ、十分第三軍司令官ニ疎通シ居ラサルカ如キヲ以テ、伊東軍令部長ハ頗ル之ヲ遺憾トシ、前記ニ電報ヲ東郷聯合艦隊司令長官ニ轉電シ、且同司令長官ニ訓令スルニ、聯合艦隊ノ現狀竝ニ將來ノ海軍作戰ニ關スル見込

等ヲ直接第三軍司令官ニ通報シ、旅順攻略ノ一日モ速ナラント計ルヘキ旨ヲ以テセリ、然ルニ八月十日ニ至リ、旅順口ノ敵艦隊ハ第三軍背面ヨリノ壓迫ニ堪ヘザリシカ、一旦脱出ヲ敢行セシカ、我カ聯合艦隊ニ邀撃セラレテ目的ヲ達セス、其ノ主力タル戰艦五隻、巡洋艦一隻ハ、翌日再旅順口ニ復歸セシト雖モ、大打撃ヲ蒙リテ暫ク出動シ得サルモノ、如ク、且戰艦「ツエガレウヰ非チ」以下巡洋艦三隻、驅逐艦數隻ハ、中立國港灣ニ逃レテ武装ヲ解除シ、(カ艦隊ノ爲メニ撃沈セラル)其ノ勢力ヲ減殺セルコト少カラサルヲ以テ、我カ艦隊ニ於テモ稍安意スルヲ得タリ、

第四節 旅順要塞開城勸告

前節ニ述ヘシカ如ク、速ニ旅順要塞ヲ攻略スヘシトノ第三軍ニ對スル大本營ノ督促ハ、頗ル峻嚴ナルモノアリシト雖モ、敵防禦ノ頑強ナルト、後方ニ於ル諸準備ノ整頓敏活ナラサルトノ爲メ、進攻意ノ如ク發展セザリシカ、數回ノ激戰ヲ經テ軍ハ遂ニ八月十五日ヲ以テ、敵ヲ全ク要塞内ニ窘迫シ、茲ニ一先戰鬪ヲ休止シ、攻城準備ノ成ルヲ俟チ、愈、要塞ニ對スル總攻撃ヲ開始セント爲セリ、是ニ於テ乃木第三軍司令官ハ、攻城戰ニ通有ナル慘害ヲ避ケンカ爲メ、從來ノ先例ニ倣ヒ、攻撃開始ニ先タチ、敵ニ開城ヲ勸誘セント欲シ、東郷聯合艦隊司令長官ニ交渉スルニ、連名ニテ敵ニ勸降書ヲ送ルノ議ヲ以テセリ、而テ同司令長官モ亦之ニ贊同シ、勸降ノ條件ニ關シテハ、敵艦艇ヲ我カ手ニ收ムルコトノ外特別ノ希望ヲ有セサルモ、攻撃ヲ弛ムルトキハ、敵艦ノ修理成ルヤモ計リ難キヲ以テ、勸降ニ時日ヲ費サ、ランコトヲ希望スル旨、及ヒ勸降書送附方等ノ手段ニ就キテハ、一ニ之ヲ軍司令官ニ委任スルコトヲ回答セルヲ以テ、乃木軍司令官ハ八

月十六日軍參謀陸軍砲兵少佐山岡熊治ヲ軍使トシ、左ノ勸降書ヲ敵ニ交附セリ、(原書英文)

謹テ一書ヲ呈ス旅順口ノ光輝アル防戦ハ全世界ノ稱賛ヲ博スルニ足ル然レトモ孤立ノ要塞ニシテ優勢ナル陸海軍ノ包圍ヲ受ケ且適當ノ期間内ニ救援ノ來ルヘキ望ナキモノハ其ノ指揮官ニシテ如何ニ勇敢ナルモ到底陷落ヲ免レサルモノトス我カ軍ノ總攻撃準備ハ既ニ整ヒ遠カラス其ノ發動ヲ開始スヘシ而テ一旦之ヲ開始スルトキハ旅順口ノ運命モ亦知ルヘキノミ此ノ極端ニ至リ閣下ニ告クルニ閣下ニシテ談判ニ意アラシニハ今コソ其ノ時機ナルコトヲ以テスルハ人道ニ對スル余等ノ義務ナリ何トナレハ一旦攻撃ヲ開始シタルトキハ兵力ヲ以テ全要塞ヲ陷ル、前ニ之ヲ中止スルコトハ我カ軍ノ軍事上ノ利益ト相容レズ且無條件降伏ノ途ハ常ニ塞ルコトナキモ廣キ正面ニ展開シタル攻撃部隊ノ全部ニ互リ戰闘中止ヲ命スルニハ時間ヲ要スヘク爲メニ多クノ生命財産ヲ無益ノ犠牲ニ供スルコトハ到底免レ難キ所ナレハナリ

我カ軍ハ攻撃ヲ以テ全要塞ヲ陷ル、場合ニ於テモ文明戰爭ノ規則ヲ嚴密ニ守ルヘシ然レトモ豫メ妥協シタル條件ニ據リ整然タル開城ヲナスト無條件降服ヲ爲シ又ハ亂雜ニ實力ニ屈服スルトノ間ニ大差アルハ閣下ノ軍人トシテ熟知セラル、所ナルヘシ後ノ場合ニ於テハ凡公法ノ許ス範圍内ニ在リテ克捷軍隊ニ屬スル總テノ手段ヲ假借スル所ナク施サ、ルヲ得サルコト言フ俟タス

是ヲ以テ條件降服ヲ爲スト否トハ全ク閣下ノ自由ナルモ閣下若シ條件降服ヲ選ハル、ニ於テハ今ヨリ明日即チ明治三十七年(千九百四年)八月十七日午前十時ノ最初ノ一分ニ至ル間ニ軍使ヲ旅順口ヨリ金州ニ至ル街道上ニ於テ水師營ノ北ニ在ル日本軍ノ第一線ニ派遣セラルヘク此ノ時間ヲ經過セハ一切ノ提議ヲ拒絕スヘキコトヲ正式ニ通告スルヲ義務ト認メタリ敬具

明治三十七年(千九百四年)八月十六日

旅順口攻圍軍司令部ニ於テ

旅順口攻圍軍司令官男爵乃 木 希 典(自署)

遼東半島封鎖艦隊司令長官 東 郷 平 八 郎(自署)

在旅順口露國陸軍最高司令官殿

在旅順口露國海軍最高司令官殿

之ト同時ニ、旅順口ニ在ル婦人、小兒、僧侶、中立國外交官竝ニ觀戰將校等ニ對スル、我カ天皇陛下ヨリノ左ノ聖旨ヲ傳ヘシム、(原書英文)

謹テ一書ヲ呈シ茲ニ日本

皇帝陛下ノ至仁至大ナル聖旨ハ現ニ旅順口ニ在ル婦人小兒僧侶中立國外交官觀戰將校ニシテ砲撃及ヒ攻撃ノ危險ヲ避ケント欲スル者ヲ救助スルコトニ在ルコトヲ閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有ス

日本

皇帝陛下ノ此ノ聖旨ヲ實行スル爲メニ余等ハ閣下ニ左ノ提議ヲ爲ス

一、日本

皇帝陛下ノ仁愛ナル意志ニ副ハント欲セラル、ニ於テハ閣下ハ右ニ列示シタル人員ノ分類概算表ヲ送致セラルヘシ但男兒滿十六歳以上ノモノハ救助ノ限りニアラス

二、上示ノ概算表ヲ齎セル閣下ノ軍使ハ明日即チ明治三十七年(千九百四年)八月十七日午前十時ノ最初ノ一分ニ至ル前ニ旅順口ヨリ金州ニ至ル街道上ニ於テ水師營ノ北ニ在ル日本軍ノ

第一線ニ來ルヘシ

三、上示ノ人員ハ白旗ヲ掲ケテ前進シ明日即チ明治三十七年(千九百四年)八月十七日午後二時ノ

最初ノ一分ニ至ル前ニ同一地點ニ到著スヘシ

四、我カ歩兵ノ一隊ハ同シク白旗ヲ掲ケテ前進シ適當ノ時刻ニ同一地點ニ至リ上示人員ノ

來著ヲ待ツヘシ

五、上示ノ人員ニハ各自當大ノ荷物一個ヲ携帯スルコトヲ許ス但必要ト認ムルトキハ其ノ

内容ヲ検査スルコトアルヘシ

六、前項ノ荷物ニハ各種ノ圖書、印刷物、書簡其ノ他文字、記號ノ筆寫シタルモノ竝ニ總テ直

接ニ戰爭ニ關係スル物件ヲ包容スルコトヲ許サス若シ發見シタルトキハ之ヲ沒收ス

七、上示ノ人員ハ十分ノ保護ヲ加ヘ第四項ニ示シタル部隊ヲシテ青泥窪迄護送セシメタル

上更ニ其ノ前程ヲ處辨スヘシ

閣下ノ回答ハ以上ノ提議ノ全部ヲ承引セラル、カ又ハ拒絕セラル、カノ一ナルヘク條件ノ改訂ヲ許サス指示ノ時間マテニ第二項ノ軍使來ラサルトキハ拒絕ト看做ス 敬具(編者曰及ヒ署名ハ勸降書ト同一ナルニ付略ス)

是ヨリ先キ大山滿洲軍總司令官ハ、大本營ト協議ノ上、旅順ノ敵我カ軍門ニ降伏シタル場合ノ處置ヲ左ノ如ク規定セリ、

(一)旅順ノ敵我カ陸軍ニ降伏シタル場合ニハ第三軍司令官ヲシテ之ヲ處置セシメ敵ノ海軍

ニ關スル條項ハ直接聯合艦隊司令長官ト協議ス

(二)旅順ノ敵我カ海軍ニ降伏スル場合ニハ聯合艦隊司令長官ヲシテ之ヲ處置セシメ敵ノ陸

軍ニ關スル條項ハ直接第三軍司令官ト協議ス

然ルニ敵ハ我カ勸降、竝ニ非戰鬥員避難ニ關スル聖旨通告ニ對シ、二ナカラ之ヲ拒絕シ、翌十

七日軍使ヲ水師營北方ナル我カ前哨線ニ派シテ、左ノ回答書(何レモ露文原書)ヲ送レリ、

勸降書ニ對スル回答

千九百〇四年八月三日(編者曰ク我カ十六日)

旅順口要塞ニ於テ

日本陸軍司令官及ヒ旅順口外ニ在ル日本海軍司令官へ

閣下ヨ

旅順口要塞引渡シニ關スル提議ハ全然露國ノ名譽ト威嚴及ヒ要塞ノ現状ニ適セサルカ故ニ

協議ヲ要スルモノニアラス此ノ機會ヲ利用シ茲ニ余輩ノ敬意ヲ表ス

第三西比利亞軍團司令官陸軍中將 ステツセル

旅順口要塞司令官陸軍中將 スミルノフ

露國太平洋艦隊司令官海軍少將 侯爵ウフトムスキ

聖旨通告書ニ對スルモノ(編者曰ク日附ハ前文ト同一ナルニ付略ス)

婦女兒童其ノ他ノ者ニ對シ自由引揚ケニ關スル深切ナル提議ハ御示ノ方法ヲ以テ斯ク短期ノ時間ニ實行スルコト不可能ナル旨ヲ通知スルノ光榮ヲ有ス此ノ機會ヲ利用シ茲ニ余輩ノ敬意ヲ表ス(編者曰ク署名モ前文ト同一ナルニ付略ス)

此ニ於テ第三軍ハ豫定ノ如ク、翌十八日早朝ヲ期シ、愈々總攻撃ヲ開始スルコトニ決セリ、

第五節 旅順要塞防禦ノ概要

露國ハ明治三十一年三月清國政府ヨリ、遼東半島南部ノ租借權ヲ獲得スルヤ、直ニ關東半島守備軍ノ名稱ヲ以テ、若干ノ軍隊ヲ本國ヨリ輸送シ、之ヲ旅順口、大連等ニ駐屯セシメ、又清國在來ノ旅順口砲臺ヲ補修シテ、之ニ若干ノ砲煩ヲ備へ、尋テ同港ノ防備計畫ヲ定メ、以テ東亞ノ海面ニ於ル不凍軍港ヲ形成セント爲セリ、抑旅順口ノ地形タル、四面峰巒ニ圍繞セラレ、其ノ内港ハ可航水路僅ニ一鏈ニ過キカル狹水道ヲ以テ外海ト相通シ、海正面ハ老虎尾半島ノ諸高丘、竝ニ黄金山ヨリ嶗嶺嘴ニ至ル一連ノ山丘ニ擁護セラレ、陸正面モ亦龍河ノ流域ニ依リテ中分セラレタル二山脈ヲ以テ包圍セラル、即チ

其ノ一ハ露人ノ呼ンテ龍山脈ト稱セシモノニシテ、嶗嶺嘴海岸ヨリ起リ、白銀山、老頭山、北斗山、東鷄冠山、望臺、松樹山等ノ諸高地連綿トシテ港ノ東方ヨリ東北方ニ互リテ聳エ、就中老頭山最高クシテ標高百九十八米突ヲ有シ、望臺(標高一九〇米突)之ニ亞キテ高ク、各舊市街ヲ距ルコト二千乃至三千米突ニシテ、共ニ同市街及ヒ東西兩港ヲ俯瞰シ得ヘシ、又他ノ一脈ハ龍河ノ右岸ヨリ起リテ、椅子山、案子山、鴨湖嘴、潘家溝等ノ諸丘陵トナリ、高低起伏シテ遠ク老鐵山ノ裾ニ連リ、以テ新市街及ヒ西港ヲ掩ヘリ、而テ其ノ西正面ハ卑低ノ小丘竝ニ耕野ヲ距テ、鳩灣ノ濱ニ達スルモ、西北正面ニ於テハ椅子山ヨリ雙島灣ニ至ル間、平原高丘相交錯シ、就中標高二〇三米突、高地ハ、同方面ニ於ル最高點ニシテ、眼下ニ新市街ノ全部、西港ノ大部、及ヒ東港ノ入口ヲ睥睨セリ、加之老鐵山(標高四五八米突)ノ高峰ハ半島ノ南端ニ崛起シテ、一眸千里海陸兩面ノ展望ヲ恣ニスルヲ以テ、之カ防備ニシテ能ク其ノ當ヲ得シカ、蓋難攻不落ノ要害ト稱スヘシ(別冊附圖參照)露國ハ當初旅順口ノ防備ヲ設計スルニ方リ、其ノ陸軍省ハ守兵七萬、備砲五百門、陸正面本防禦線ノ延長七十吉米突ト稱スル龍大ナル畫案ヲ立テシモ、會議ノ結果財政上ノ見地ヨリ、之ニ大削減ヲ加へ、一部清國時代ノ舊壘ヲ修築スルコトニシ、守兵一萬一千餘備砲二百門、陸正面本防禦線十八吉米突ト制定セリ、然レトモ斯ノ如キ縮小ナル設計ハ、砲煩發達ノ今日到底軍港ノ防護ニハ不適當ナルヲ以テ、更ニ防禦線ヲ二十五吉米突ニ擴延シ、且之カ財政難ヲ避クルカ爲メ、工事ヲ二期ニ分ツコトニ定メ、其ノ第一期ニ於テハ、望臺附近ノ山脈ヨリ、椅子山、案子山ヲ經テ大陽溝附近ノ高地ニ互ル防禦線ヲ編成シ、第二期ニ於テハ、大孤山、水師營、南方高地、標高一七

トスルアリ、二龍山堡壘ノ如ク、遠近兩戰ニ適セルモノアリ、又臨時堡壘ニハ閉鎖アリ、啓開堡アリ、角面堡アリ、眼鏡堡アリテ、各其ノ式ヲ一ニセスト雖モ、鄰堡克ク相牽掣シテ防禦ノ威力ヲ發揮シ、尙副防禦トシテ、堡壘前面ニハ間絶ナク鐵條網ヲ羅設シ、處ニ由リテハ二重三重ニ爲セルモノアリ、殊ニ椅子山ノ前面ヨリ東北正面ニ互リ、各堡壘ノ前面三四百米突ヲ距テ、高電壓(五百ヴォルトト稱ス)ヲ通スル一連ノ電流線ヲ緊張シ、谷地若クハ我カ軍ノ集合スル疑アル場所ニハ、極テ多數ノ視發及ヒ自發ノ地雷ヲ埋設シ、龍河河床ニ接近セル平地ニハ、狼狽、木柵、拒馬、具釘板、小杭等各種ノ防禦物ヲ數線ニ設置シテ我カ軍ノ奇襲ニ備ヘ、又多數ノ探照燈ヲ使用セリ、而テ陸正面全防禦線ニ配備シタル大砲ハ、陸揚ケセル海軍砲ヲ合シテ總數約七百門ヲ算シ、全要塞ノ成兵ハ、八月下旬ニ於テ、約歩兵三十二大隊、騎兵一中隊、砲兵十六中隊、工兵三中隊及ヒ海兵若干ナリト云フ、

右ノ如ク旅順背面ノ防禦ハ、各方面共ニ天然ノ地形ニ加フルニ、露人獨得ノ長技タル築城術ト、最近ノ兵器トヲ以テ固メタルカ爲メ、之ヲ攻略スルニモ亦十分ノ準備ナカルヘカラス、而テ其ノ攻撃點ノ適否ハ、作戰ノ難易ニ大關係アルヲ以テ、之カ選定ニハ最慎重ナル研究ヲ要スルモノアリ、即チ敵防禦工事ノ強弱、我カ運動ノ難易ハ勿論、我カ兵力、陣地ノ庇陰、掩蔽、敵陣地ノ瞰制、背面交通路ノ便否等ヲモ考察セサルヘカラス、是ニ於テ乃木軍司令官ハ、各方面ニ於ル利害得失ヲ斟酌シタル結果、要塞ノ東北方面ナル東鷄冠山、盤龍山間ノ地區ハ、全防禦線中一種ノ凸角ヲ形成シ、之ニ對スル團山子附近ヨリ火石峯子ニ互ル一帯ノ地形ハ、諸般ノ關係上我カ重砲

ノ大部ヲ配列シ、其ノ威力ヲ發揮スルニ適スルト共ニ、攻撃歩兵ノ近接動作モ亦他方面ニ比シテ容易ナルモノアルヲ以テ、遂ニ攻撃點ヲ二龍山、東鷄冠山兩砲臺間ノ諸堡壘ト決定セリ、

第六節 第一回總攻撃

總攻撃開始ニ先タチ、乃木第三軍司令官及ヒ東郷聯合艦隊司令長官連署ニテ、敵ニ送致シタル開城ノ勸告ハ、敵將之ヲ峻拒シタルヲ以テ、軍ハ八月十八日早朝ヲ以テ要塞攻撃ヲ開始スルコトニ決定セシカ、十四日以來連日降雨ノ爲メ、諸般ノ準備稍遲延シタルカ故、攻撃開始ノ時期ヲ十九日早朝ニ變更セリ、而テ軍ハ前ニ述ヘシカ如ク、其ノ攻撃目的點ヲハ、要塞東北面ナル二龍山、東鷄冠山兩砲臺間ト定メ、攻城砲彈ノ關係上、大體ニ於テ強襲的攻撃法ヲ採リ、其ノ期日ヲ三日間ト豫定シ、當初二日間ヲ以テ砲撃ヲ行ヒ、第三日ニ至リテ歩兵突撃ヲ決行シ、一舉シテ以テ要塞ヲ攻奪セント計畫セリ、仍テ八月十七日乃木軍司令官ハ、攻撃實施ニ關スル左ノ命令ヲ發セリ、

軍隊區分

第一師團ニ依然後備歩兵第一旅團及ヒ野戰重砲兵三中隊ヲ屬シ更ニ野戰砲兵第二旅團ノ一聯隊ヲ屬ス

第九第十一師團ノ兵力ハ現在師團ノ有スルモノニ同シ

後備歩兵第四旅團(約一大隊)及ヒ野戰砲兵第二旅團(一聯隊ヲ缺キ後備工兵一中隊ヲ屬ス)ハ軍ノ直轄トス

凡テノ攻城特種部隊(野戰重砲兵三、中隊ヲ缺ク)海軍陸戰重砲隊及ヒ後備工兵二中隊ハ攻城砲兵司令官ノ

指揮ニ屬ス

一、旅順要塞ノ防備ハ略既ニ示セルカ如シ
二、軍ハ明十八日(編者曰ク後チ十九日ト改ム)ヨリ總攻撃ヲ開始シ次テ攻撃ヲ實施セントス攻撃正面ハ二龍山東鷄冠山兩砲臺間トス

三、攻城砲兵司令官ハ明拂曉ヨリ砲撃ヲ開始シ其ノ火力ヲ攻撃正面特ニ盤龍山東舊砲臺東鷄冠山北砲臺及ヒ兩砲臺間ノ堡壘砲臺並ニ望臺ニ集中シ尙一部ヲ以テ他正面ノ砲臺ヲ脅威的砲撃セシメ明十九日尙之ヲ繼續スヘシ
時ニ野戰重砲兵ノ一部ヲ長春菴南方ノ谷地ニ布置シ明拂曉共ニ龍眼北方ノ砲臺ヲ砲撃シ歩兵ノ陣地占領ヲ掩護セシムヘシ
歩兵ノ突撃ニ際シテハ全力ヲ盡シテ之ヲ援助シ且運動容易ナル諸砲ハ速ニ其ノ前進ニ伴ハシムヘシ

四、各師團攻撃地區ノ境界左ノ如シ
第一第九師團間大石岑子東方四百米突ノ點線路、水師營北方高地ノ東脚及ヒ松樹山西脚河川ニ通スル線(該線ハ第一師團ニ含有セラル)第九第十一師團間團山子東方六百米突ノ凸稜楊家屯西北高地五家房及ヒ東鷄冠山北砲臺北麓ノ谷地ニ通スル線(該線ハ第九師團ニ含有セラル)
五、各師團ハ左ノ如ク行動スヘシ
第一師團ハ本夜其ノ左翼ヲ以テ干大山南麓ヨリ水師營北方高地ニ互ルノ線ヲ占領セシメ翌十八日以後適宜行動シテ椅子山及ヒ大案子山方面ノ敵ヲ攻撃スヘシ但其ノ左翼ヲシテ

常ニ第九師團ノ右翼ト連繫ヲ保持セシムヘシ
第九及ヒ第十一師團ハ本夜ヲ以テ水師營東南高地ヨリ五家房北方ノ高地ヲ經テ大小孤山ニ互ルノ線ヲ明十八日夜ヲ以テ水師營東南高地ヨリ五家房及ヒ南部王家屯ヲ經テ小孤山西麓ニ互ルノ線ヲ占領シテ堅固ニ之ヲ保守シ十九日夜ヲ以テ突撃ヲ準備シ翌二十日拂曉之ヲ決行スヘシ
第九師團ハ盤龍山東舊砲臺第十一師團ハ東鷄冠山北砲臺ヲ以テ攻撃目標ト爲スヘシ各夜共所要ノ部隊ヲ出シテ前進地區ノ偵察及ヒ進路ノ開通ヲナサシムルヲ要ス
突撃功ヲ奏セハ逐次隣接ノ堡壘及ヒ砲臺ヲ奪取シ而テ第二線ハ劉家溝北方ヨリ趙家溝東方ニ互ル高地線ニ停止シ該線ヲ保守スヘシ
六、野戰砲兵第二旅團ハ本夜ヲ以テ干大山附近ノ陣地ニ布置シ主ニ第一師團ノ前進ヲ援助シ且所要ニ應シ松樹山ニ龍山龍眼北方ノ高地及ヒ水師營西南ノ砲臺ヲ射撃シ得ルヲ要ス
七、後備歩兵第四旅團ハ總豫備トナリ鳳凰山北麓附近ニ在リテ戰闘準備ノ姿勢ニ在ルヘシ
八、軍司令部ハ明朝ヨリ鳳凰山東南高地ニ位置ス同日午前八時ヨリ諸報告ハ同地ニ受領セラル而テ當時第三軍ニ屬セシ戰闘部隊左ノ如シ

野戰第一師團(師團長陸軍中將松村務本)

歩兵第一旅團(歩兵第一聯隊歩兵第十五聯隊)

歩兵第二旅團(歩兵第二聯隊歩兵第三聯隊)

騎兵第一聯隊野戰砲兵第一聯隊工兵第一大隊

野戰第九師團(師團長陸軍中將 男爵大島久直)

步兵第六旅團(步兵第七聯隊 兵第三十五聯隊)

步兵第十八旅團(步兵第十九聯隊 兵第三十六聯隊)

騎兵第九聯隊野戰砲兵第九聯隊工兵第九大隊

野戰第十一師團(師團長陸軍中 將土屋光春)

步兵第十旅團(步兵第二十二聯隊 步兵第四十四聯隊)

步兵第二十二旅團(步兵第十二聯隊 兵第四十三聯隊)

騎兵第十一聯隊野戰砲兵第十一聯隊工兵第十一大隊

後備步兵第一旅團(旅團長陸軍少 將友安治延)

後備步兵第一聯隊後備步兵第十五聯隊後備步兵第十六聯隊

後備步兵第四旅團(旅團長陸軍少 將竹内正策)

後備步兵第八聯隊後備步兵第九聯隊後備步兵第三十八聯隊

野戰砲兵第二旅團(旅團長陸軍少 將大迫尙敏)

野戰砲兵第十六聯隊野戰砲兵第十七聯隊野戰砲兵第十八聯隊

後備工兵隊

第一師團後備工兵第一中隊第三師團後備工兵第一中隊第十二師團後備工兵第一中隊

攻城特種部隊(攻城砲兵司令官陸 軍少將豊島陽藏)

野戰重砲兵聯隊(砲二十八門)

徒歩砲兵第一聯隊(十二珊加農二十四門 十五珊榴彈砲十六門)

徒歩砲兵第二聯隊(十五珊白砲 四十八門)

徒歩砲兵第三聯隊(十五珊白砲二十四門十二珊加農六 門十珊半加農四門九珊白砲十二門)

徒歩砲兵第一獨立大隊(九珊白砲 十二門)

海軍陸戰重砲隊(指揮官海軍中 佐黒井節次郎)

安式十二拇速射砲六門同十二斤速射砲十六門

(各師團ノ騎兵ハ其ノ一部 ヲ除ク外北進軍ニ屬セリ)

是ニ於テ各部隊ハ、戰鬪準備ヲ整ヘ、十九日午前四時一發ノ砲聲ヲ合圖トシテ、全砲兵ハ各指定ノ目標ニ向ヒテ猛烈ナル砲火ヲ集中シ、爰ニ慘烈ナル旅順要塞戰ノ端緒ヲ開ケリ、是ヨリ先キ第一師團ハ同日午前二時ヨリ、標高一七四米突高地ノ敵壘ニ向ヒ、第九師團ノ右翼ハ、同日午前一時ヨリ龍眼北方高地ノ角面堡ニ向ヒ、各突撃ヲ試ミシカ、敵ノ抵抗頑強ニシテ我カ軍死傷算ナク、苦戰ノ後僅ニ一七四米突高地ヲ占領セシモ、龍眼北方ノ堡壘ハ遂ニ之ヲ拔クコト能ハス、翌二十日其ノ攻撃ヲ中止スルニ至レリ、然レトモ東鷄冠山及ヒ盤龍山方面ニ對スル我カ砲撃ハ、其ノ效果顯著ニシテ、盤龍山火藥庫ヲ爆發シ、東鷄冠山附近二三ノ堡壘ハ、大部分破壊スルニ至リタルヲ以テ、乃木軍司令官ハ豫定ノ如ク、二十一日午前四時第九、第十一ノ兩師團ヲシテ各

豫定ノ攻撃點ニ向ヒ突撃ヲ決行セシメ、又總豫備隊タル後備歩兵第四旅團ヲ以テ、第九師團ニ増援セリ、(第九師團ハ龍眼北方高地攻撃ノ際已ニ多大ノ損害ヲ蒙レリ)

仍テ第九師團ハ、盤龍山東砲臺ニ向ヒ、第十一師團ハ、東鷄冠山諸砲臺ニ向ヒ、共ニ二十一日未明突撃ヲ決行セシカ、敵ハ最勇敢ニ防戦シ、諸砲壘互ニ呼應連絡シテ、正面竝ニ側背ヨリ大小ノ銃砲彈ヲ雨射シ、海正面砲臺ヨリモ亦榴霰彈ヲ撒射シ、我カ突撃隊ハ屢全滅ノ悲境ニ陥リ、死傷山野ニ滿チテ悲惨言フ可カラス、而モ乃木軍司令官ハ益、部下ヲ鼓舞シテ突撃ヲ督勵シ、兩師團モ亦損害ヲ顧慮セズ、殘兵ヲ糾合シテ突撃ヲ反覆セシモ、決死ノ敵兵堅壘ニ據リテ固守シ、勇猛ナル我カ突撃モ常ニ其ノ效ヲ奏セス、延テ兩師團ノ運動互ニ連絡ヲ缺クニ至リ、或ハ前進部隊ノ、敵火ノ下ニ孤立シテ進退維谷ルモノアリ、或ハ突撃隊全滅シテ、負傷セル一兵卒ノ纒ニ軍旗ヲ守護セルモノアル等、軍ノ戰況次第ニ苦境ニ陥ラントス、乃木軍司令官ハ數次ノ突撃效ヲ奏セス、局面毫モ發展セサルヲ見テ、終ニ師團全滅スルモ突撃ヲ續行スヘキ命令ヲ發スルニ至レリ、然レトモ翌二十二日朝ニ至ル迄、各方面共ニ戰況ノ進捗ヲ見ス、

是ニ於テ乃木軍司令官ハ、強襲的攻撃ノ到底成功セサルヲ察シ、攻撃法ヲ變更センカ爲メ、二十二日午前八時第九、第十一兩師團ノ參謀長ヲ召致スルニ至リシカ、偶十時三十分頃ニ至リ、第九師團ノ一部ハ、猛然トシテ盤龍山東砲臺ニ突入シ、激戰奮闘遂ニ其ノ一部ヲ占領シタリトノ報告ニ接シ、情況稍發展シテ好況ヲ呈スルニ至リタルヲ以テ、同軍司令官ハ、攻撃法變更ノ前決心ヲ繼シ、再兩師團ヲシテ突撃ヲ繼續セシメタリ、仍テ兩師團長ハ更ニ人員ヲ整理シ、攻撃部署ヲ

定メ、再突撃ヲ實施セシカ、敵ノ抵抗益、頑強ニシテ、曩ニ盤龍山東砲臺ニ突入シタル第九師團ノ一部ハ、比鄰砲臺ヨリ、猛烈ナル集彈ヲ被リテ大損傷ヲ受ケ、且敵ハ屢逆襲ヲ企テ、彼我劍尖相接シ、或ハ彈藥盡キテ石礫ヲ投スルニ至ル、殊ニ後備第四旅團ノ如キハ、損害最大ニシテ幹部ノ大部死傷シ、兵員亦四散シテ號令行ハレス、將校ハ拔刀シテ部下ヲ叱咤鼓舞シ、師團長ハ其ノ幕僚ヲ特派シテ、前進ヲ督促スル等、難戰苦闘ノ末、二十二日夕刻ニ至リ、僅ニ盤龍山東西兩砲臺ヲ占領スルヲ得タリ、

是ヨリ先キ第十一師團ノ一部ハ、前夜東鷄冠山砲臺ニ突入シ、一旦之ヲ占領シタルモ、比鄰ノ砲臺ヨリ發スル銃砲火ノ爲メ、突撃隊ノ全部殆ト死傷シ、彈藥盡キテ援隊到ラス、且數回ノ逆襲ニ由テ遂ニ敵ノ爲メニ奪回セラレ、我カ殘兵ハ僅ニ砲臺斜面下ノ地隙内ニ入り、今ヤ精根全ク盡キテ再奮進スルノ力ナク、師團長ノ前進命令モ之ヲ實行スルコトヲ得サルノ悲境ニ陥レリ、然ルニ第九師團ハ、此ノ時恰モ盤龍山東砲臺ニ突入シ、其ノ大半ヲ占領シタルヲ以テ、第十一師團長ハ此ノ好機ヲ利用シテ所要ノ目的ヲ達セント欲シ、乃木軍司令官ヨリモ亦第九師團ト連繫シテ、突撃ヲ決行スヘシトノ命令アリタリ、然レトモ困憊疲勞ノ極部下ノ動作意ノ如クナラサルヨリ、突撃隊指揮官ハ、漸次好機ノ逸シ去ルヲ憤慨シ、今ヤ自ら先頭ニ立チテ最後ノ突撃ヲ決行スルノ時機ナリト判斷シ、豫備隊ヲ率非テ前進シ、混淆セル諸隊ヲ整頓セルニ際シ、軍司令官ヨリ正面ノ攻撃ヲ中止シ、盤龍山東砲臺ヲ通路トシテ東鷄冠山北砲臺ニ突撃スヘキ命令ニ接シ、師團長ハ更ニ攻撃部署ヲ變改スル等、終日遂ニ戰況ノ發展ヲ見ス、是ニ於テ翌二十三日日軍司

令官ハ殘存部隊ヲ糾合シテ更ニ突撃ヲ行ハシメントシ、攻撃實施ヲ督促スルコト數回ニ及ヒ、大山滿洲軍總司令官ヨリモ、假令尙多クノ犠牲ヲ作ルモ、更ニ一層ノ勇氣ヲ鼓舞シ、一旦著手シタル攻撃ヲ中止セサルコトヲ望ム旨電報アリシモ、如何セン一昨朝以來ノ戰鬥ニ依リ、軍ノ死傷ハ既ニ一萬人ニ達シ、且炎暑赫灼士卒困憊シテ行動意ノ如クナラス、爲メニ此ノ日モ亦攻撃ヲ實行スルニ至ラスシテ止メリ、然レトモ曩ニ占領シタル盤龍山東西兩砲臺ハ、數回ノ決死的逆襲ヲ擊退シ、保持漸ク確實ナルニ至リシヲ以テ、翌二十四日午前一時第九、第十二兩師團ハ更ニ突撃準備ヲ整ヘ、此ノ兩砲臺ヲ基點トシテ望臺北西高地、及ヒ東鷄冠山北砲臺ニ向ヒテ突撃ヲ決行シ、第十一師團ノ第十旅團ハ、遂ニ望臺西北方高地ヲ占領シ、天明ノ頃其ノ嶺頂ニハ、一時我カ國旗ノ翩翩タルヲ見タルモ、我カ兵殆ト全部死傷シテ復抵抗力ナキモノ、如ク、壯烈ナル死屍ハ累ヤトシテ高地ノ全斜面ヲ掩ヒ、光景轉々悲惨ヲ極メタリ、是ニ於テ第十一師團ハ第九師團ト連繫シ、同高地ニ對シテ猶攻撃ヲ續行セントシ、軍司令官モ亦屢兩師團ノ前進ヲ促シ、且戰況ノ報告ヲ求メタルニ、午後ニ至リ第十一師團長ヨリ、步兵第十旅團ハ全滅シタルカ如ク、其ノ狀況明瞭ナラス、仍テ師團ハ最早攻撃ヲ繼續スルコト能ハストノ報告達セリ、乃木軍司令官ハ此ノ悲ムヘキ報告ニ接シタルト、且ハ重砲彈ノ漸ク缺乏シタルトニ依リ、遂ニ攻撃ヲ繼續スルノ企圖ヲ斷念シテ、正攻法ヲ執ルコトニ決シ、同日午後四時左ノ軍命令ヲ發スルニ至レリ、軍ハ現下企圖シツ、アル強襲的攻撃ヲ一時中止ス各師團ハ現下占領シタル地點ヲ堅固ニ守備シ後命ヲ俟ツヘシ

十九日攻撃ヲ開始シテヨリ、此ノ日ニ至ル迄六日間ノ久シキ、第三軍ノ將士ハ殆ト一睡ノ餘暇ナク、炎暑ニ堪ヘ飢渴ヲ忍ヒ、勇戰奮闘終ニ望臺嶺頂ニ一時我カ國旗ヲ翻スニ至リタルモ、終ニ精銳ナル機械的防禦ニ敵スル能ハス、死屍山谷ヲ埋メ、我カ損害實ニ一萬四千八百有餘人、茲ニ強襲ヲ中止スルノ止ムヲ得サルニ至レリ、

第七節 第一回總攻撃後ヨリ九月下旬ノ戰鬥ニ至ル

勇武絶倫ナル第三軍ノ強襲モ、精銳ナル兵器ト、頑強ナル守兵トニ依テ防禦セラレタル堅壘ヲ奪取スルコト能ハス、十九日攻撃開始ヨリ二十四日迄ニ、約一萬五千ノ戰鬥員ヲ喪失シ、銃砲彈藥ノ殆ト全部ヲ消盡シ、纔ニ盤龍山東西兩砲臺ヲ占領シ得タルノミニシテ遂ニ攻撃ヲ中止シ、乃木第三軍司令官ハ、同日大本營及ヒ大山滿洲軍總司令官ニ向ヒ、左ノ報告ヲ發シ、且攻撃法變更ノ旨ヲ、東郷聯合艦隊司令長官ニ通報セリ、

比類ナキ勇氣モ精銳ナル器械ヲ以テ堅壘ヲ死守セル敵ヲ屈スル能ハス軍ハ昨夜ヨリ今朝ニ互ル戰鬥ニ於テ更ニ多大ノ損害ヲ蒙リ且重砲彈ノ關係上強襲的企圖ヲ斷念シテ正攻法ヲ採ルノ已ムヲ得サル情況ニ至レリ仍テ今後ハ勉メテ占領シタル二堡壘ヲ保守シ且之ヲ據點トシテ對壕作業ニ依リ逐次比鄰堡壘ノ奪取ヲ努メントス

攻撃中止後、軍ハ先ツ百難ヲ排シテ、纔ニ奪取シ得タル盤龍山東西兩堡壘ヲ確實ニ維持セント欲シ、軍司令官ハ直ニ兩堡壘ノ占領工事及ヒ其ノ交通路ノ開設ニ著手セシムルト同時ニ、一面ニ於テハ、各部隊ノ整頓、死傷者ノ處置、竝ニ彈藥ノ補充等ニ努メタリ、然ルニ此等兩堡壘タル、

敵防禦線内ニ介在セルヲ以テ、附近ノ高地及ヒ諸堡壘ヨリ晝夜瞰制砲撃セラレ、占領工事ノ如キモ、隨テ修築スレハ隨テ破壊セラレ、加フルニ遠ク我カ陣地線ノ前方ニ孤立シテ、充分ナル遮蔽交通路ヲ有セサルカ爲メ、之カ保持頗ル困難ノ狀ヲ呈セリ、是ヨリ先キ八月二十二日、軍ノ戰況漸ク悲運ニ陥ラントスルヤ、軍ニ隨從セル岩村第三艦隊參謀ハ、東郷聯合艦隊司令長官ニ左ノ報告ヲナセリ、

軍ハ昨日來數回突撃ヲ試ミ殆ト全力ヲ盡シテ敵堡壘ニ薄ルモ其ノ防禦非常ニ堅固ニシテ容易ニ目的ヲ達シ難キ狀態ナリ而テ又我カ攻城砲ノ彈藥ニハ限リアリテ連續現狀ヲ保ツ能ハサルヲ以テ其ノ缺乏ヲ敵ニ覺ラレサル程度ニマテ發射數ヲ減スルト同時ニ之ヲ補フカ爲メ不取敢劉士茂及ヒ郭家溝ニ在ル十二斤砲六門ヲ左翼方面ニ増加セララル、コト、ナレリ仍テ我カ十二拇及ヒ十二斤砲彈藥ハ迅速補充シ得ラル、樣充分ニ準備シ又鎮海灣ニ在リト聞キ居タル十二拇モ若シ軍ヨリ所望アラハ直ニ取寄セ得ラル、樣豫メ御詮議置ヲ乞フ抑旅順攻撃ニ就テハ陸軍單獨之ニ膺ルモ其ノ目的ヲ達シ得ラル、見込ナリシカ如シ故ニ從來屢次直接海陸協同作戰ノ必要ヲ感セストテ唯間接ニ我カ海軍ノ掩護ヲ望マレ之カ爲メ強テ危險ヲ冒ス等ノコトナキ様申出テラレタル次第ナランモ今ハ其ノ意志全ク變更シテ此ノ際海陸雙方ヨリ出來得ル限りノ力ヲ盡シテ敵ヲ挾撃スルコト極テ急務ナレハ我カ艦隊ニ於テモ其ノ方針ニテ行動アランコトヲ偏ニ希望スルトノコトナリ(略)
是ニ於テ東郷聯合艦隊司令長官ハ、直ニ細谷第三艦隊司令官ニ訓令シテ、陸戰重砲隊彈藥補充

ノ準備ヲ命シ、尋テ又二十五日乃木第三軍司令官ヨリ、攻撃中止ノ通報ニ接スルヤ、直ニ大本營ニ向ヒ、左ノ電報ヲ發セリ、

第三軍苦戰ノ實況竝ニ強襲攻撃法ヲ中止シ更ニ永時日ノ正攻法ヲ取ルニ決定シタルコトハ已ニ御詳知ナルヘク此ノ形勢ニテハ旅順ノ陥落ハ今後何時ノ日ニアルヤモ豫定シ難ク全局ノ作戰上痛心ニ堪ヘサル次第ナリ本職カ局外ヨリ見テ旅順攻撃ニ對スル刻下ノ急務ハ出來得ル丈速ニ新銳ノ兵力ヲ第三軍ニ増加スルニアリト思考ス我カ海軍ヨリハ更ニ重砲隊ノ彈藥ヲ増與シ十二拇砲四門ヲ増加セハ是亦少カラサル新攻撃力トナルヘキカ免ニ角事態容易ナラサレハ直ニ應急ノ手段ヲ取ラル、コト必要ト信ス右卑見上申ス

同時ニ第三軍司令官ヘモ左ノ電報ヲ發シ、尙同軍衛生隊助力ノ爲メ、麾下諸艦ヨリ、衛生部員若干名ヲ青泥窪陸軍兵站病院ニ派遣セリ、

貴軍連日ノ勇猛ナル激戰將士ノ疲勞モ少カラサルヘク殊ニ多數ノ死傷者ヲ生セラレタル趣唯々同情ヲ表スル外ナシ陸戰重砲隊ニ増勢スル爲メ更ニ十二拇砲四門ヲ取寄セ中ナレハ四五日中ニハ到著スヘシト豫期ス尙十二拇彈藥六〇〇發十二斤砲彈藥一〇〇〇發ヲ昨日補充トシテ前送シタリ旅順ノ敵艦中「セワストーポリ」ハ一日日驅逐艦二隻ハ昨日我カ機械水雷ニ罹リ驅逐艦一隻ノ外沈没ニ至ラサリシモ戰鬪力ハ當分失ヒタルモノト認ム貴軍再度ノ攻撃開始迄ニ破損艦ノ修理ヲ遅延セシムル爲メ時々造船所及ヒ碇泊軍艦ノ間接射撃ヲ施行セシメラレハ幸ナリ

此ノ時ニ當リ、第三軍ノ現状ハ頗ル慘憺タルモノニシテ、一萬ニ垂ントスル負傷者ハ到ル處ノ野戰病院ニ充滿シ、敵壘附近ニ在ル死傷者ハ收容ノ途ナク、失踪者ノ數實ニ三千名ヲ越エ、陸軍ノ諸砲ハ概ネ彈藥缺乏シテ發射ヲ爲ス能ハサルモノ多ク、海軍重砲隊ノ力ニ依リテ纔ニ軍勢ヲ維持スル狀態ナルヲ以テ、之カ整頓補充等ノ爲メ、次回攻撃開始迄ニハ尙多クノ時日ヲ要シ、殊ニ正攻法ヲ用ヒテ逐次一地區一堡壘ヲ攻奪スルニ於テハ、到底短時日ヲ以テ全要塞ノ攻略ヲ期スヘカラス、而テ旅順ノ敵艦隊ハ、八月十日海戰ノ結果其ノ勢力大ニ減殺シタルニ依リ、今ヤ我カ海軍ニ於テハ、旅順攻陷ヲ以テ、復曩日ノ如ク焦眉ノ急ヲ要スルモノトナサスト雖モ、敵ノ増援艦隊ハ益々其ノ發航準備ヲ急キツ、アルヲ以テ、旅順敵艦隊ノ處分ハ、未タ決シテ曠日彌久ヲ許サ、ルモノアリ、是ニ於テ軍ハ要塞ノ攻奪ニ先タチ、港内ノ展望成ルヘク廣濶ナル地區ヲ占領シ、以テ在港軍艦ニ對スル射撃ヲ開始スルコトニ決セシカ、之ニ適スル地點ハ、東ニ在リテハ望臺、西ニ於テハ二〇三米突高地及ヒ海鼠山附近ト判斷セシモ、望臺占領ノ困難ナルハ、前回ノ攻撃ニ徵シ明ナルヲ以テ、軍ニ於テハ先ツ二〇三米突高地附近ヲ占領スルコトニ決シ、八月三十一日乃木第三軍司令官ハ、各師團ニ向ヒ、左記目標ニ對シテ正攻法ヲ開始スヘキヲ命ゼリ、

第一師團 標高203附近ノ堡壘竝ニ水師營西南方高地ニ在ル堡壘

第九師團 龍眼北方高地竝ニ二龍山砲臺ト盤龍山西砲臺トノ中間ニ在ル二堡壘但盤龍山東西砲臺ハ堅固ニ之ヲ守備スルヲ要ス

第十一師團 東鷄冠山砲臺竝ニ同北砲臺

是ニ於テ各師團ハ翌九月一日ヨリ、各其ノ攻撃目的點ニ向ヒテ對壕作業ヲ開始シ、海軍陸戰重砲隊ハ、敵艦隊ノ復舊工事ヲ妨碍スル目的ヲ以テ、造船廠、舊市街及ヒ港内軍艦ニ對シテ、晝夜間接射撃ヲ行ヒ、時々敵砲臺ヲ射撃セリ、而テ又大本營ニ於テハ、東郷聯合艦隊司令長官ノ具申ニ從ヒ、直ニ鎮海灣ニ在ル十二海軍砲四門ヲ陸戰重砲隊ニ増遣シ、尙敵艦砲撃ノ目的ヲ以テ、二八海軍榴彈砲六門ヲ八軍ニ増加シ、聯合艦隊ニテモ第三軍ヨリノ要求ニ依リ、保式四十七密速射砲十二門ヲ軍ニ貸與シ、且本防禦線奪取後、敵ハ或ハ老虎尾半島等ニ據リテ抵抗ヲ持續スルコトアルヤモ計リ難ク、之ニ對シテハ、有力ナル直射砲ヲ我カ軍ニ有スルコト頗ル有利ナルヲ察シ、軍艦扶桑備附十五海軍速射砲二門ヲハ、更ニ陸戰重砲隊ニ増加セリ、此ノ間ニ於テ、敵モ亦其ノ破壊砲臺ノ補修、毀損大砲ノ引換ハ固ヨリ、塹壕ノ掘鑿、塹壁ノ修築等、益々其ノ防備ヲ嚴ニスルト同時ニ、我カ對壕作業ノ妨碍ニ努メ、屢攻路頭ニ向ヒテ勇敢ナル突撃ヲ決行シ來リ、爲メニ我カ作業ノ進行ヲ妨ケシコト尠カラザリシト雖モ、九月十七八日頃ニ至リテハ第九師團ノ向ヘル龍眼北方角面堡、及ヒ第一師團ノ向ヘル水師營南方堡壘團ニ對スル我カ對壕ハ、已ニ敵ヲ距ルコト約五十米突ノ近距離ニ達シ、且追送彈藥竝ニ補充人員ノ大部モ既ニ到達シテ、再一戰ヲ交ヘ得ヘキ狀況トナリタルヲ以テ、乃木第三軍司令官ハ九月十九日ヨリ、再一部攻撃ヲ開始スルコトニ決シ、同月十七日之ニ關シ、左ノ命令ヲ發セリ、

一、明後十九日第一師團ハ二〇三高地及ヒ水師營南方高地ノ敵堡壘ヲ第九師團ハ龍眼北方

高地ノ敵堡壘ヲ攻撃スヘシ

二、第十一師團ハ同時前面ノ諸堡壘ニ對シ銃砲火ヲ以テ敵ヲ牽制スヘシ
 三、野戰砲兵第二旅團(一聯隊)ハ現陣地附近ニ在リテ主ニ水師營南方及ヒ龍眼北方ノ敵堡壘ニ對スル攻撃ヲ援助スヘシ

四、攻城砲兵司令官ハ諸攻城砲兵ヲシテ前諸攻撃ヲ援助シ且其ノ一部ヲシテ他ノ諸方面ニ對シ脅威的砲撃ヲ施行セシムヘシ
 砲撃ハ同日午後一時頃ヨリ開始セラル、ヲ要ス

五、總豫備隊タル後備歩兵第四旅團(一聯隊)ハ現在ノ地ニ於テ前進準備ノ姿勢ニ在ルヘシ
 是ヨリ先キ乃木第三軍司令官ハ、九月十一日全軍ニ向ヒ、左ノ訓示ヲ下セリ、
 茲ニ我カ軍ノ將卒ニ告ク

夫旅順ノ要塞ハ敵軍ノ特テ以テ難攻不落ト爲ス處而モ諸子ノ勇武ナル連日連夜攻撃以テ業ニ已ニ其ノ第二防禦線ヲ略取シ進テ本防禦線ニ肉薄セリ是ニ於テ我 大元帥陛下 皇后陛下 皇太子殿下深ク諸子ノ忠誠ヲ嘉ミシ曩ニハ優渥ナル勅語及ヒ令旨ヲ賜ヒ今又侍從武官東宮武官ヲ派シテ諸子ノ勞ヲ犒ハシメラル我カ軍ノ光榮亦餘リアリト謂フヘシ獨リ憾ム諸子ノ戰友ニシテ敵彈ニ斃レ此ノ天恩ヲ拜スル能ハサルモノ鮮シトセサルヲ諸子夫更ニ感奮興起セスシテ可ナラシヤ希典固ヨリ信ス諸子ノ堅忍不拔ナル一難ヲ經ル毎ニ猛氣百倍シ來テ遂ニ九仞ノ功ヲ一簣ニ全ウセンコトヲ
 日者諸子新戰友陸續來著シ攻城材料又漸ク以テ多キヲ加ヘツ、アリ而テ對壕作業ハ刻々其

ノ歩ヲ進ム敵ハ窮鼠ノ頑ヲ以テ殘壘ヲ死守スルモ已ニ其ノ圍郭ノ二堡ヲ失ヒ兵力ハ日ニ減衰シ彈藥ハ盡クルニ垂ントス諸子ニシテ耐忍健闘シ機ヲ見テ更ニ絶大ノ打撃ヲ與ヘンカ其ノ運命ハ知ルヘキノミ惟フニ旅順陥落ノ遲速ハ全般ノ戰局ニ關スル大ナリ而テ北方皇師ハ既ニ敵ノ大軍ヲ遼陽ニ擊破シ宇內萬邦ノ視線一ニ此ノ旅順ニ集レリ此ノ時ニ當リ我カ軍之カ合圍ノ任ニ當ル悃ニ軍人ノ素懷ニアラスヤ希典望ムラクハ諸子ト共ニ奮テ我カ軍ノ威武ヲ發揚シ速ニ攻拔ノ功ヲ奏シ以テ天恩ニ答ヘ奉ランコトヲ

右ノ外尙堡壘奪取ニ關スル訓令、竝ニ敎示等ヲ發セリ(備考文)、而テ今回ノ攻撃ニ際シ、大山滿洲軍總司令官ハ、戰況視察ノ爲メ、特ニ兒玉總參謀長ヲ旅順方面ニ派遣セリ、
 是ニ於テ諸隊ハ、九月十九日拂曉迄ニ攻撃準備ヲ整ヘ、礮盤溝附近ニ在ル海軍砲、及ヒ大孤山上ニ在ル戰利砲ハ、牽制ノ爲メ午前九時望臺附近ノ敵ニ向ヒテ先ツ射撃ヲ開始シ、尋テ午後一時三十分攻城諸砲兵モ、亦各指定目標ニ向ヒテ砲火ヲ開キシカ、四時頃ニ至リ、龍眼北方敵壘ニ對スル我カ砲火ノ威力漸次顯レ、掩蓋等ニ多クノ破壞部ヲ生シ、突撃ノ機正ニ熟セルヲ以テ、第九師團突撃隊長ハ、先ツ選抜兵ヲシテ鐵條網ヲ破壞セシメ、五時三十分突撃ヲ實施セリ、然ルニ敵ハ忽チ機關砲一門ヲ堡壘上ニ現シテ我カ兵ヲ掃射シ、且其ノ歩兵ハ我カ砲火ヲ意トセス、破壞セラレタル胸牆ニ據リテ抵抗ヲ繼續シ、木材、石塊、爆藥等ヲ投擲セシヲ以テ、我カ突撃隊ハ死傷相踵キ、特ニ多數ノ將校ヲ失ヒ、午後六時十分遂ニ突撃隊ノ大部分ハ、舊陣地ニ引退スルニ至レリ、是ニ於テ師團長ハ突撃復行ヲ命シ、突撃隊長ハ頻ニ豫備隊ヲ第一線ニ増加シ、夜ヲ冒シテ攻撃

ヲ續行セシモ、敵ハ益々頑強ニ抵抗シ、徹宵突撃ヲ繰返スコト數回、翌二十日天明ニ及ヒ、敵漸ク退却シ始メ、午前六時全ク堡壘ヲ占領シ、敵ヲ鐵道線路以南ニ驅逐セリ、

第一師團ハ、軍隊區分ヲ右翼、中央及ヒ左翼ノ三隊ニ區分シ、右翼隊ハ二〇三米突高地ヲ、中央隊ハ海鼠山ヲ、左翼隊ハ水師營南方堡壘團ヲ攻撃スルコトニ定メ、十九日拂曉迄ニ各其ノ攻撃準備ノ位置ニ就キ、師團ノ諸砲兵ハ、午後二時三十分ヨリ三時マテノ間ニ於テ、攻撃點ニ向ヒテ砲火ヲ開ケリ、午後四時頃水師營南方堡壘ニ對スル我カ砲火ノ效果、次第ニ現レタルニ依リ、左翼隊ハ午後五時十五分猛烈ナル砲火ヲ冒シ、堡壘團中ノ中央堡壘及ヒ其ノ兩翼塹壕ニ對シテ突撃ヲ決行シ、其ノ先頭ハ一氣ニ外壕内ニ突入セシニ、敵モ亦勇敢ニ防戦シ、胸牆上ニ機關砲ヲ出シテ各方面ヲ亂射スルト共ニ、爆藥ヲ外壕内ニ投下シ、爲メニ我カ兵ハ多大ノ損傷ヲ蒙リ、再起チテ堡壘内ニ突入スルノ力ナキニ至レリ、是ニ於テ左翼隊長ハ、晝間突撃ノ奏功シ難キヲ察シ、日没後更ニ攻撃ヲ行フコトニ決セシモ、敵ハ漸次胸牆銃眼等ノ修理ヲ始メタルニ依リ、此ノ機ニ乘シ再突撃ヲ強行スルコトニ決シ、第二回突撃ヲ行ヒタルモ、多數ノ損害ヲ蒙リテ目的ヲ達スルコト能ハス、是ニ於テ攻撃隊長ハ、第一回突撃隊ノ生還者ニ就キテ外壕ノ狀況ヲ聞キ、正面突入ノ困難ナルヲ知リシヲ以テ、先ツ兩翼散兵壕ヲ奪取セント欲シ、第三回突撃ヲ決行セシモ亦成功セス、仍テ翌二十日拂曉ヨリ更ニ砲撃ヲ開始セシニ、此ノ時恰モ第九師團ハ、龍眼北方角面堡ヲ占領シタルヲ以テ、之ニ乘シテ東北堡壘ヲ奪取シ、尋テ午前九時中央堡壘附近ニ對スル我カ砲火ノ效力現レタルヲ以テ、全線同時ニ第四回ノ突撃ヲ決行セシニ、格闘數分ノ後敵ハ漸次旅順方面

ニ退却シ、同二十分我カ兵中央堡壘ヲ占領シ、尙引續キ後方ニ堡壘ニ向ヒテ突撃シ、十一時五十分全堡壘團ヲ占領セリ、

海鼠山ニ向ヒタル第一師團ノ中央部隊ハ、左翼隊ノ突撃開始ニ策應シ、十九日午後五時三十分敵陣ニ向ヒ前進ヲ起セシニ、此ノ時ニ至ル迄極テ沈黙ナリシ敵ハ、我カ歩兵ノ前進ヲ見ルヤ、俄然塹壕ノ各部ヨリ現出シテ猛烈ナル小銃射撃ヲ開始セリ、我カ突撃隊ハ毫モ之ニ屈セス、六時四十五分東北部ナル第二散兵壕ヲ奪取セシモ、頂上ノ敵ハ尙依然トシテ射撃ヲ繼續シ、或ハ爆藥、石塊等ヲ投シテ防戦甚タカメ、我カ兵容易ニ接近スルコト能ハス、仍テ突撃隊長ハ、七時十分更ニ第一線ニ増兵シ、一舉シテ頂上ノ敵ヲ掃蕩セントセシモ、目的ヲ達セス、僅ニ占領セル散兵壕ヲ改築シ、敵ト近ク相對峙シテ夜ヲ徹シ、翌二十日拂曉ヨリ再砲撃ヲ開始シ、午後ニ至リテハ、水師營南方堡壘ニ對セシ我カ諸砲モ亦海鼠山ニ火力ヲ集中セリ、既ニシテ午後四時ニ至リ、砲撃ノ成果ヲ認ムルニ至リタルヲ以テ、同三十分ヨリ更ニ突撃ヲ開始シ、午後五時遂ニ頑強ナル敵ヲ驅逐シテ、海鼠山全部ヲ奪取セリ、

第一師團右翼隊ノ向ヒタル二〇三米突高地方面ニ於テハ、十九日午後五時ニ至ルモ我カ砲撃ノ成果猶未タ發揚セスシテ、敵ノ掩蓋ハ一ノ破壊ヲ來サス、午後六時十分頃ニ至リ、同高地西南凸角附近ノ掩蓋僅ニ二三ノ破壊部ヲ生シタルヲ以テ、右翼隊長ハ突撃實施ヲ命ジ、同二十分突撃隊ハ、選抜部隊ヲ先頭トシテ、同高地西南角ニ向ヒ前進セシニ、敵ハ俄ニ起ツテ小銃及ヒ機關砲ヲ猛射シ、南方諸砲臺ヨリハ熾ニ榴散彈ヲ雨射シタルカ爲メ、我カ砲兵ノ有力ナル掩護アリシニ

拘ラス、同高地ノ山麓ニ達スル迄ニ、突撃隊ハ既ニ其ノ過半數ノ死傷者ヲ生スルニ至レリ、右翼隊長ハ益々之ニ向ヒテ増兵セリ、翌二十日午前二時頃第一線ニ於ル彼我ノ砲火熾盛ヲ極メ、我カ突撃隊ハ敵火ヲ冒シテ猛進シ、敵ノ第一散兵壕ヲ撃破シテ第二散兵壕ニ達セシニ、敵ハ探照燈ヲ照映シ、堡壘掩蓋下ヨリ機關砲、小銃ヲ亂射シ、爆藥ヲ投擲セシヲ以テ、我カ兵死傷續出シ、復目的ヲ達スルニ至ラス、六時三十分我カ突撃隊ハ再前進シ、第二線ノ散兵壕ヲ通過シテ同高地西南部ノ凸角ニ達シ、互ニ猛烈ナル爆藥戰ヲ交ヘ、遂ニ其ノ一部ヲ奪取シ、更ニ頂上ニ突貫セシコトヲ勉メシモ、此ノ時敵ノ妨碍益々甚シク、爲メニ復其ノ目的ヲ達スル能ハスシテ前位置ニ退却セリ、爾後敵火ノ爲メ、後方トノ連絡全ク杜絶シ、増援隊ノ參加糧食、彈藥ノ補給ハ勿論傳令ノ往復サヘ不可能トナリシカ、敵ハ間斷ナク爆彈及ヒ巨石ヲ投下シ、我カ兵死傷續出シテ將校多ク死シ、諸隊混淆シテ指揮頗ル困難ナルノミナラス、糧食、彈藥共ニ缺乏シ、僅ニ巨石ヲ投ケ返シテ敵ノ近接スルヲ防キ、一方ニハ土囊ヲ以テ急造掩體ヲ設ケ、以テ日没ニ至レリ、是ヨリ先キ第一師團長ハ、右翼部隊ニ於ル損害ノ多大ナルヲ認メ、師團豫備隊ノ全力ヲ此ノ方面ニ注キ、又中央部隊ノ一部ニ、海鼠山ノ西方ヨリ二〇三高地ノ東北角ニ向ヒ、突撃スヘキヲ命セリ、右翼隊長ハ第一線苦戰ノ狀ヲ認メ、増援隊ヲ派遣セシニ、其ノ運動ヲ起スヤ否ヤ、忽チ敵火ノ爲メニ大損害ヲ被リテ赴援スルコト能ハス、日没ヲ俟チテ漸ク前進ヲ始メタリ、斯テ終日敵陣ノ直下ニ在リテ纔ニ陣地ヲ維持シタル我カ突撃隊ハ、日没後ニ至リ、漸ク糧食、彈藥ノ供給、竝ニ増加部隊ノ來援ヲ得タルヲ以テ、午後九時十分更ニ突撃ヲ再開シタルモ、損害多大ニシテ再前位置ニ退却セリ、

二十二日午前五時我カ突撃部隊ハ、最後ノ勇ヲ鼓シテ喊聲ヲ揚ケ、進撃喇叭ヲ吹奏シツ、敵ノ猛火ヲ冒シテ大突撃ヲ行ヒシモ、正面竝ニ側面ヨリスル小銃、及ヒ機關砲火ト爆彈トノ爲メ、忽チニシテ突撃部隊ノ殆ト全部ヲ損傷シ、之ト同時ニ海鼠山方面ヨリ行動シタル中央隊ノ一部ハ、奮進シテ鐵條網ノ線ニ達シタルモ、是亦猛烈ナル敵火ヲ蒙リテ前進スルコト能ハス、多大ノ損害ヲ受ケテ舊位置ニ引退セリ、斯ノ如ク突撃ヲ繰返ス毎ニ、我カ損害ヲ加フルノミニシテ戰局毫モ發展セス、十九日突撃開始以來、此ノ方面ノミニ於ル死傷既ニ二千名以上ニ達セリ、是ニ於テ第一師團長ハ、一方ニハ右翼隊長ニ命シテ極力現位置ヲ保持セシメ、他方ニハ砲兵ヲシテ更ニ二〇三高地ノ東北角ヲ猛射セシメシニ、午後六時頃ニ至リ、敵ノ野砲二門後三羊頭村附近ニ現出シ、二〇三高地西南部ニ固著セル我カ突撃部隊ヲ側射セシヲ以テ、我カ兵遂ニ其ノ位置ヲ保持スルコト能ハス、占領陣地ヲ棄テ、一時谷底ニ退却スルニ至レリ、仍テ第一師團長ハ、此ノ情況ニ於テ攻撃ヲ繼續スルノ不利ナルヲ認メ、衛生隊ノ一部ヲ突撃部隊ニ差遣シ、豫備隊ノ兵員ヲシテ極力死傷者ヲ收容セシムルト同時ニ、損害多大ニシテ、退却ノ止ムヲ得サルニ至リタル旨ヲ軍司令官ニ報シ、突撃部隊ハ二十三日午前四時負傷者ノ收集ヲ終リ、突撃準備陣地ニ引揚ケ、茲ニ戰闘ヲ中止セリ、

第三軍ハ、今回ノ戰闘ニ於テ四個ノ攻撃目標中、龍眼北方角面堡、水師營南方堡壘團及ヒ海鼠山ノ三目標ヲ奪取シ得タルモ、最後ノ目標タル二〇三米突高地ニ對シテハ、最多クノカラ費シテ而モ遂ニ其ノ目的ヲ達スルコト能ハス、此ノ戰闘中各方面ニ於ル我カ損害合計約四千五百名

ニ達セリ、

第八節 九月下旬ノ戰鬪ヨリ第二回總攻撃ニ至ル

旅順要塞攻略ニ先タチ、敵艦隊ノ處決ヲ促サンカ爲メ、九月十九日ヨリ開始シタル標高二〇三米突高地ニ對スル攻撃ハ、遂ニ其ノ效ヲ奏セス、九月二十三日一先ツ攻撃ヲ中止シ、更ニ正攻法ヲ採ルコトニ決シタルヲ以テ、戰況視察ノ爲メ第三軍ニ在ル兒玉滿洲軍總參謀長ハ、同月二十

八日山縣參謀總長ニ向ヒ、旅順ノ敵狀竝ニ第三軍ノ現狀ニ關シ、左ノ電報ヲ發セリ、
昨日迄ニ敵ノ防禦線ヲ觀得ラル、丈ハ巡視ヲ終リタリ敵ノ形勢ヲ察スルニ二〇三ノ高地ハ我カ攻圍線ノ接近シタル今日ニ於テ敵ハ急ニ重キヲ置キタルモノ、如シ比較的近距離ニテ旅順ノ内部ヲ砲撃シ且觀測シ得ラル、所ハ此ノ地點ニ優ル處ナシ是十九日ノ攻撃ニ於テ極力彼ノ固守セシ所以ナルヘシ又同高地東北方一公里突ノ高地(編者曰ク海鼠山ヲ云フ)ヨリモ旅順新市街ノ北ノ一部分ト軍艦十隻許ヲ見ルコトヲ得ルト雖モ常ニ二〇三高地ヨリ側背ヲ瞰制セラレ多クノ備砲ヲ爲ス能ハス唯觀測ノ用ニ供シ又他日二〇三高地ヲ奪取スルトキノ據點トシテ大ニ有利ナリ故ニ今日ハ堅固ニ之ヲ維持スルコトヲ勉メツ、アリ敵ノ最前線ノ各堡壘ハ可ナリニ破壊セラレタレトモ我カ砲火ヲ以テ彼ヲ沈黙セシムルコトハ容易ニ望ム可カラス其ノ内二龍山松樹山ノ二堡壘ハ甚シク破壊セラレタリ敵ノ砲彈ノ缺乏ニ就キ種々ノ說アレトモ現ニ射撃ノ必要ナル時期アレハ敢テ彈丸ヲ惜マサルナリ此ノ點ヨリ推察スレハ我ニ比シテ寧口潤澤ナリト謂ハサルヲ得ス

糧食ハ麥粉ハ多量ナリ副食物ノ缺乏ハ疑ナシ病人用ノ被服ハ困難シ居ルトノ說アリ兵數ハ無論減少スルノミナレトモ皆掩蔽部ヲ求メテ居住スルヲ以テ我ニ比シテ損害尠カルヘシ以上ニ對シ我カ軍ノ計畫トシテハ二〇三高地ニ重砲ヲ備ヘ二十八榴彈砲ト協同シテ港内軍艦ヲ破壊スル考案ハ二〇三高地ヲ占領シ得サリシヲ以テ漸ク薄弱トナリタレトモ同高地ノ東北一公里突高地ヨリ軍艦ノ所在地ヲ觀測シ得ルヲ以テ海軍砲ト二十八榴彈砲ト協力シテ先ツ港内ノ軍艦ヲ掃射シ且盤龍山ヨリ二龍山ニ向ヒテ前進スル對壕作業ノ進歩ニ從ヒ二龍山松樹山ノ二堡壘ヲ全ク破壊シテ之ヲ占領シ此ノ時機ニ至レハ一面ニハ再ニ二〇三高地ヲ攻略シ他ノ砲兵陣地ヲ成シ得ル丈ヶ前進セシメ突撃準備ノ砲撃ヲ爲シ其ノ結果某一點ヨリ大突撃ヲ行フノ外妙案ナシト信ス然ルニ二十八榴彈砲ノ備砲ハ既ニ終リタレトモ無煙火藥ノ送出シ方遲延セシ爲メ此ノ火砲ノ開始ハ多分十月一日ナラン又此ノ動作ニ移ルニ先タチ充分ニ重砲彈藥ヲ準備セサルヘカラス既ニ二十九日二十日ノ攻撃ニテ七千發許費消シタレトモ敵ノ砲彈ノ半數ニモ及ハサルノ感アリ水師營附近占領後ハ志氣稍恢復シタルヲ認ム唯第九第十二兩師團ハ最元氣アル將校多數ヲ失ヒ且今後補充ノ困難ヲ顧慮シ多少銷沈ノ傾アリ(略下)右電報ニ言ヘルカ如ク、二〇三米突高地ノ東北方ナル海鼠山ヨリハ、敵艦ノ大部ヲ望見シ得ルヲ以テ、海軍陸戰重砲隊ニ於テハ同山ニ望樓ヲ設置シ、其ノ觀測ニ依リ、有力ナル敵艦射撃ヲ行フコトニ決シ、九月二十八日ヨリ十五拇速射砲二門、十二拇速射砲六門ヲ以テ、敵艦射撃ヲ開始セシニ、彈著良好ニシテ日々數發ノ命中彈アリ、又曩ニ第三軍ニ増加セラレタル二十八榴彈砲

六門モ据附(團山子砲家屯及ヒ玉)ヲ終リテ、十月一日ヨリ敵艦砲撃ニ参加シ、是亦日ニ若干ノ命中彈アリシヲ以テ、今ヤ敵艦隊ハ脱出スルカ、否ラスンハ自滅ノ外ナキヲ期待セシニ、敵ハ漸次東港及ヒ白玉山南麓ニ其ノ錨地ヲ移シ、同月八日ニ至リテハ、彈著ノ觀測全ク不可能トナリ、爾後海軍砲ハ、殆ト連日敵艦想定位置竝ニ造船工場等ニ對シ搜射ヲ行フト同時ニ、西港内ニ在ル敵ノ汽船及ヒ陸上諸堡壘ヲ砲撃シ、二十八榴榴彈砲モ亦時々敵艦竝ニ工廠等ニ對シテ撒布射撃ヲ施行セリ、

抑第三軍カ、標高二〇三米突高地ヲ奪取セントシタル主ナル目的ハ、占領後其ノ附近ニ重砲ヲ備ヘテ、港内軍艦ヲ直射セントスルニアリシモ、二十八榴榴彈砲ヲ有スル今日ニ在リテハ、多數ノ砲彈ト人命トヲ消費シテ迄モ、強テ同高地ヲ占領スルノ必要ナク、間接射撃ニ依リテ敵艦砲撃ノ目的ヲ達スルヲ得ヘシト爲シ、次回ノ攻撃ニハ、專ラ望臺方面ノ占領ニ勉ムルコトニ決シ、

十月八日第一師團長ニ命スルニ、松樹山堡壘ニ對スル攻路ノ掘鑿ヲ以テセリ、
二〇三米突高地攻撃中止後ハ、各方面共再常態ニ復シ、第十一師團ハ東鷄冠山方面ニ對スル作業ヲ繼續シ、第九師團ハ龍眼北方角面堡占領後、直ニ二龍山堡壘ニ對スル對壕作業ヲ開始シ、第一師團モ亦十月九日ヨリ、松樹山堡壘ニ向ヒテ攻路ノ掘開ニ著手セシカ、各方面共漸次敵ニ接近スルニ從ヒ、我カ作業ニ對スル敵ノ妨害ハ益々甚シク、各方面ノ死傷者日ニ數十名ニ達スルコトアリ、而テ攻城工兵廠ニ於テハ、要塞戰ノ經驗ヲ得ルニ從ヒ、種々工夫ヲ凝シテ、手擲彈、迫撃砲、携帶防楯、銃眼、鐵飯等(備考文書攻城)ノ特種兵器ヲ創製シ、以テ作業ヲ便ニスルト同時ニ、敵モ亦

殆ト想像ノ及ハサル各種ノ奇拔ナル兵器材料ヲ製作應用セリ、是ヨリ先キ大本營ニ於テハ、十月初旬更ニ二十八榴榴彈砲十二門ヲ軍ニ増加シ、(合計十八)聯合艦隊ヨリモ十五吋海軍砲二門ヲ陸戰重砲隊ニ増加セリ、

斯テ十月二十日過ニ至リテハ、攻撃準備完ク整ヒタルヲ以テ、二十三日第二回總攻撃ニ關スル參謀長會議ヲ開キ、攻撃計畫ヲ左ノ如ク決定セリ、

一 敵情

要塞内ノ兵力ニ關シ最近ノ調査ニ依リテ得タルモノヲ綜合スレハ略次ノ如シ

現時陸上ニ在ル敵ノ健全ナル戰鬥員ハ水兵及ヒ義勇兵ヲ合シ一萬五千以下ナルヘシ
歩兵ノ戰鬥員ハ各聯隊共一中隊ノ現員百名以上ニ達スルモノ少ク二個補充大隊中其ノ一個ハ既ニ全ク補充ヲ盡シ今ハ約二百人ヨリ成ル一ノ補充大隊ヲ有スルノミ又海兵ノ陸上ニ在ルモノハ約二千ニシテ諸砲臺ニ分配セラレ陸兵ト混同シアリ一堡壘若クハ一砲臺ノ殘兵ハ百乃至二百人ナルカ如ク又總豫備隊トシテ認ムヘキモノハ教場溝東方及ヒ西太陽溝附近ニ屯在シアリテ其ノ兵力各千乃至二千人ヲ算ス港内ニ在ル三個ノ病院船ト西太陽溝及ヒ教場溝附近ノ病院ニハ傷病者充滿シアリ其ノ數一萬人内外ニシテ頃日露將ノ命令ニ依リ創痍尙未タ全癒セサル兵員ヲ驅リテ前線ニ赴カシメ居レリト云フ

二 目的

松樹山砲臺ヨリ東鷄冠山砲臺ニ互ル間ノ諸堡壘砲臺ヲ奪取シ次テ先ツ劉家溝北方ヨリ殺後

軍副營北方ニ互ル一帯ノ高地ヲ占領スルニ在リ

三 軍隊區分

現在ノ區分中左ノ如ク變更ス

第一師團ヨリ後備歩兵大隊ヲ脱ス

第十一師團ニ後備歩兵二大隊(旅團司ヲ増ス)

第九師團ヨリ野戰砲兵一大隊第十一師團ヨリ同一大隊半ヲ脱シ軍總豫備隊トナス

四 各師團攻撃目標

第一師團 松樹山砲臺次テ其ノ後方高地

第九師團 二龍山砲臺及ヒP砲臺次テ兩砲臺間ノ後方一帯ノ高地

第十一師團 東鷄冠山北砲臺Q砲臺及ヒ東鷄冠山砲臺次テ其ノ後方高地

五 各師團攻撃地區ノ境界

第一、第九師團間 松樹溝谷地ヨリ二龍山砲臺南方約八百米突ノ鞍部ヲ經テ元寶房北方

谷地ニ通スル線(該線ハ第九師團ニ含有セラル)

第九、第十一師團間 P及ヒ東鷄冠山北兩砲臺間ノ谷地ヨリ望臺東方約四百米突ノ鞍部ヲ

經テ望臺東南ノ谷地ニ通スル線(該線ハ第十一師團ニ含有セラル)

六 攻城砲兵ノ配置及ヒ用法

別表ニ示スカ如シ(編者曰ク別冊(附表ニ載ス)

七 攻撃ノ進捗

一、總砲撃ハ來二十六月ヨリ開始ス攻撃ノ實施ハ砲撃ノ成果ニ依リ之ヲ決定スヘキモ略三十日ト豫定ス

二、總攻撃實施ニ先タチ各師團ハ諸般ノ方法ヲ用ヒテ攻撃堡壘ノ性質竝ニ其ノ後方ノ地形ヲ偵察シ各攻撃隊ヲシテ普ク之ヲ知悉セシメ以テ密ニ攻撃ノ方法ヲ講セシムルヲ要ス堡壘奪取ノ難易ハ實ニ此ノ偵察ノ疎密ニ關ス

三、總攻撃前日迄ノ砲撃ハ主ニ二十八榴彈砲ヲ以テ攻撃目標タル諸砲臺ヲ破壊シ傍ヲ其ノ一部ヲ以テ最攻撃ヲ妨害スヘキ他ノ砲臺ヲ砲撃セシメ此ノ間此ノ諸重砲ハ更ニ制壓及ヒ威嚇ノ目的ヲ以テ所要ノ目標ニ向ヒ若干ノ砲撃ヲ行フニ止ム

四、總攻撃當日ハ凡テノ攻城砲ヲ用ヒ攻撃實施ニ先タチ其ノ火力ヲ攻撃目標タル諸砲臺及ヒ特ニ破壊ヲ要スヘキ舊圍壁部(Q砲臺ノ後方盤龍山東西砲臺後方及ヒ鉢卷山後方)ニ集注シ同時ニ其ノ一部ヲ以テ攻撃正面ニ於ル本防禦線背後ノ堡壘砲臺竝ニ我カ攻撃部隊ニ危害ヲ加フル他ノ堡壘砲臺ヲ砲撃セシム

五、總砲撃間夜間ノ射撃ハ各砲臺ニ豫メ日々一定ノ時間ヲ限リテ施行シ各攻撃部隊ヲシテ其ノ作業ヲ繼續セシムルヲ要ス

六、突撃施行ノ期ハ各攻撃隊ニ多少ノ遲延ヲ生スルヲ免レサルモ概ネ午後一時ト豫定ス

七、第一目標タル堡壘砲臺奪取後各攻撃ハ機ヲ失セスシテ直ニ後方舊圍壁ヲ占領シ確實ニ

之ヲ保持スルヲ要ス

八、突撃隊前進ト同時ニ諸砲兵ハ極力我カ突撃部隊ニ對スル敵火ノ集注ヲ防遏シ同時ニ諸砲兵特ニ攻城砲兵ハ望臺東西一帯ノ高地ニ向ヒテ最猛烈ナル砲撃ヲ行ヒ以テ該高地ニ對スル突撃ヲ準備シ且其ノ一部ハ該高地線ニ來援スル敵ノ通路ヲ搜射スルヲ要ス

九、各師團長ハ豫メ新銳ノ部隊ヲ區處シテ之ヲ適當ノ位置ニ準備シ第一攻撃ノ成功ト共ニ近ク占領砲臺附近ニ前進セシメ砲撃ノ成果ニ伴ヒ機ヲ失セスシテ前面高地線ニ對スル第一二攻撃ヲ決行セシムルヲ要ス

十、第二攻撃ニ於ル突撃ハ戰勝ノ英氣敵兵ノ狼狽及ヒ我カ砲火ノ威力ニ乘シ最緻密ノ注意ト最果敢ノ動作トヲ以テ之ヲ決行スルヲ要ス且已ニ一部隊ノ突進ヲ始ムルニ當リテハ他ノ攻撃隊ハ自己ノ苦難ヲ犯シ擧テ之ニ伴ヒ彼此協同シテ其ノ目的ヲ達セサルヘカラス

十一、第二攻撃奏功後ハ萬難ヲ排シテ其ノ占領ヲ確實ニシ各師團ハ速ニ所要ノ砲兵ヲ前進セシメ同地ニ攻城砲兵ノ一部モ前方ノ地區ニ進出スルヲ要ス之カ爲メ各團隊長ハ豫メ其ノ準備アルヲ要ス

十二、第一師團ノ右翼及ヒ中央竝ニ第十一師團ノ左翼ハ絶エス有力ナル牽制動作ヲ施行スルト共ニ最敵ノ出撃ヲ顧慮シ之ニ對シテハ寧ロ之ヲ利用シテ後殲滅スルノ準備アルヲ要ス

十三、第一師團ノ砲兵特ニ野戰重砲兵ハ總攻撃當日ノ砲撃ニ於テ比較的多クノ火力ヲ椅子山及ヒ小案子山ニ向ハシムル如クナスヲ要ス

十四、總豫備隊ハ總攻撃前夜ヲ以テ楊家屯北方鐵道線路ノ北側ニ召致ス

十五、各師團ハ本防禦線ニ於ル砲臺占領後勉テ速ニ電話通信ノ設備ヲナスヲ要ス

第一師團ノ攻奪スヘキ松樹山堡壘ハ、龍河以東ニ於ル本防禦線上最西ニ位置スル永久堡壘ニシテ、松樹山中腹ノ坡上ニ構築セラレ、東ハ松樹溝ヲ距テ、近クニ龍山堡壘ト相隣リ、西ハ龍河ノ河盆ヲ挾ミテ、椅子山、案子山等ノ堡壘ト相對セリ、堡壘ノ經始ハ高地ノ地形ニ應シ、深長ナル梯形ヲナシ、其ノ首線ハ北微西ニ向ヒ、胸牆ノ厚サハ、正面ニ於テ約二十米突、側面及ヒ咽喉部ニ於テモ猶六米突ヲ有シ、外壕ハ、堅岩ヲ鑿開シテ、内外岸トモ殆ト垂直ニ近キ斷面ヲ有シ、深サ六米突乃至九米突、幅七米突乃至十四米突ニ及ヒ、正面外岸ニハ「ベトン」製ノ側防穹窿ヲ設ケ、正面及ヒ兩側面ノ外壕ヲ側防セリ、咽喉部胸牆下ニモ亦「ベトン」製ノ掩蔽部アリテ暗路ニ依リ、外壕

正面ノ側防穹窿ニ連絡セリ、而テ抵抗火線ハ、正面及ヒ兩側面ヲ合シテ、全長約七十米突ニ達シ、其ノ備砲ハ時ニ變化アリシト雖モ、大要左ノ如シ

- 十五梅加農(正面ニ在リ防備ヲ有ス) 一門 十五梅海軍砲 一門
- 八梅七克式野砲 五門 七梅半速射野砲 一門
- 七梅半克式野砲 二門 六梅海軍砲 二門
- 四十七密乃至三十七密砲 六門 馬式機關砲 一門

第九師團ノ向ヒタルニ龍山堡壘ハ、松樹山堡壘及ヒ盤龍山西堡壘ノ中間ニ築設セル永久堡壘

ニシテ、實ニ龍河以東ニ於ル本防禦線上ノ最大堡壘タルト共ニ、地形上旅順市街及ヒ港内ノ海面ヲ展望シ得ルヲ以テ、又最要ノ堡壘タリ、其ノ首線ハ北微西ニ向ヒ、火石峯附近ノ高地ニ對向シ、縱長稍大ナル梯形ノ角面堡ヲ成形シ、胸牆ノ厚サハ正面ニ於テ十米突、側面及ヒ咽喉部ニ於テ約六米突ヲ測リ、外壕ハ深サ十米突、底幅八米突ニシテ、其ノ内外岸ハ巧ニ岩石ヲ掘鑿シテ殆ト垂直ト爲セリ、抵抗火線ノ長サ、正面ニ於テ約六十米突、兩側面各約七十米突ヲ有シ、中堤ニハ四門ノ重砲砲座アリ、又外壕兩肩角ノ外岸下、及ヒ咽喉部ノ内岸ニハ、ハコトシ製ノ側防寫字ヲ有セリ、兵備ノ大要左ノ如シ、

- 十五拇加農 五門
- 八拇七克式野砲 十一門
- 七拇半野砲 二門
- 六拇海軍砲 一門
- 五十七密速射砲 五門
- 四十七密速射砲 二門
- 三十七密速射砲 十六門
- 馬式機關砲 四門

第十一師團ノ攻撃目標タル東鷄冠山北堡壘ハ、本防禦上ニ於ル極テ堅固ナル永久堡壘ノ一ニシテ、胸牆ハ堅實ナル燧石岩ヲ混スル厚サ十二米突ノ自然土ヨリ成リ、外壕ハ深サ五六米突、上幅十米突ヲ有シ、其ノ外岸ハ、ペトン寫字ノ牆壁又ハ略垂直ニ掘截シタル岩石面ニシテ、正面外岸ハハ形ニ屈折シ、兩側面ニ對スル側防寫字ヲ有セリ、堡壘ノ首線ハ、西龍頭西南方高地ニ對向シ、經始ハ稍正シキ五角形角面堡ニシテ、火線ノ全長ハ正面及ヒ兩側面ニ通シテ百八米突、咽喉部ノ長サ約六十米突トス、其ノ兵備ハ時々變化アリシト雖モ、概ネ左ノ如シ、

- 八拇七克式野砲 六門
- 七拇半克式野砲 二門
- 五十七密速射砲 二門
- 四十七密速射砲 二門
- 三十七密速射砲 二門
- 三十七密機關砲 三門
- 馬式機關砲 三門
- 二十五密發砲 四門

又我カ攻撃點ノ最左翼タル東鷄冠山堡壘ハ、ペトン胸牆ヲ有スル加農砲臺ヲ圍繞スルニ、臨時編成ノ散兵壕ヲ以テセル一堡壘ニシテ、細部ノ狀態ニ就テハ、開城ニ先タチ、原形ヲ沒スル迄ニ敵ノ爆破スル所ト爲リタルヲ以テ、之ヲ知悉スルニ由ナシト雖モ、鹵獲設計圖ニ依レハ、十五拇加農四門、八拇七克式野砲五門ヲ有シタルモノ、如シ、右永久堡壘ノ外、第九師團ノ向フヘキP堡壘、及ヒ鉢卷山堡壘、第十一師團ノ目標タルQ堡壘、竝ニ嶺山堡壘等ハ、何レモ永久堡壘ノ開隙ヲ填塞スル楔子ニシテ、其ノ編成ハ臨時築城式ニ過キスト雖モ、隣周堡壘ノ協應側防ニ依リ、攻撃ノ困難ナルコト、多ク永久堡壘ニ讓ラサルモノアリ、而テ此ノ時ニ於ル第三軍ノ歩兵現在數ハ左ノ如シ、

團	隊	將	校	下士	卒	團	隊	將	校	下士	卒
第一師團	第一師團	一三八		六、八六九		後備步兵第一旅團		五〇		三、六三六	
第九師團	第九師團	一五三		七、二七七		同第四旅團(缺)		七〇		三、三六八	
第十一師團	第十一師團	一八五		六、九四〇		合	計	五九二		二八、〇九〇	

即チ缺員ノ數將校以下一萬二千三百餘名ニ達シ、現在員ハ定員ノ約三分ノ二ニ過キス、是ヨリ先キ九月下旬ノ攻撃後、大山滿洲軍總司令官ハ、第三軍ノ戰況ニ鑑ミ、當時大阪ニ集中セシ第八師團ヲ同軍ニ増加スルノ意見ヲ參謀總長ニ致セシカ、同師團ハ聖斷ニ依リテ、遼陽方面ニ使用スルコト、ナレリ、

十月二十五日乃木第三軍司令官ハ、攻撃ニ關スル左ノ命令ヲ發セリ、

軍隊區分

第一師團

長 松村中將

第一師團

後備步兵第一旅團

後備步兵第三十八聯隊ノ一大隊

野戰砲兵第十七聯隊ノ一大隊

野戰重砲兵第一聯隊第一大隊(十二門)

四十七密速射砲二小隊(四門)

第一師團後備工兵中隊

第九師團

長 大島中將

第九師團(歩兵一大隊缺)

四十七密速射砲三小隊(六門)

第三第十二師團後備工兵中隊

第十一師團

長 土屋中將

第十一師團(歩兵一大隊半缺)

後備步兵第四旅團(司令部及二大隊)

野戰砲兵第十八聯隊ノ一大隊

四十七密速射砲二小隊(四門)

野戰砲兵旅團

野戰砲兵第二旅團

攻城砲兵

司令官 豊島少將

野戰重砲兵第一聯隊(第一大隊缺)

徒歩砲兵第一、第二、第三聯隊

徒歩砲兵第一獨立大隊

砲礮溝二十八榴榴彈砲

陸戰重砲隊

(計二十八榴砲十八門十五榴砲十六門十二榴砲十六門十五榴砲七十二門九榴砲二十四門十)
(二加農三十門十加農四門十五榴砲四門十二榴砲十門十二榴砲十九門合計二百十三門)

總豫備隊

第九師團步兵一大隊

第十一師團步兵一大隊半

第四師團臨時衛生隊

一、軍八明二十六日ヨリ總攻撃ヲ開始シ次テ松樹山ヨリ東鷄冠山ニ互ルノ正面ニ向ヒ攻撃
ヲ實施シ劉家屯北方ヨリ殺後軍副營北方ヲ經テ東鷄冠山砲臺ニ互ルノ高地ヲ占領セ
ントス

二、各師團ノ攻撃目標左ノ如シ(編者曰ク前掲攻撃計畫第四
項ト同一ナルヲ以テ略ス)

三、各師團放撃地區ノ境界左ノ如シ(右同)

四、第一、第九師團八明二十六日午後五時ヲ期シ松樹山及ヒ二龍山兩砲臺前面ノ塹壕ニ向ヒ
突撃ヲ實行スル筈ナリ

野戰砲兵旅團及ヒ攻城砲兵ノ一部ハ該突撃期ニ先ダチテ砲撃ヲ開始シ特ニ此ノ攻撃ヲ援
助スヘシ

五、攻城砲兵ハ明日ヲ以テ總砲撃ヲ開始シ主ニ二十八榴砲ヲ用ヒテ攻撃目標タル諸砲
臺ヲ砲撃シ其ノ一部ヲ以テ我カ攻撃動作ヲ妨害スヘキ主ナルモノニシテ且豫メ其ノ威力

ヲ滅殺スヘキ諸砲臺ヲ砲撃シ次テ攻撃實施前ニ至リ全力ヲ擧ケテ攻撃ヲ準備シ之ヲ援助
スヘシ

第一目標タル諸砲臺奪取後ハ成ルヘク速ニ其ノ前方高地ノ攻撃ヲ準備シ攻撃部隊ヲシテ
機ヲ失セスシテ其ノ進出ヲ決行シ得セシメ且其ノ攻撃間ハ特ニ一部ヲ以テ敵兵來援ノ顧
慮アル地區ヲ搜射セシムヘシ

若シ攻撃翌日ニ互ルトキハ夜間モ亦砲撃ヲ續行シ努メテ防禦準備ヲ妨害スヘシ
望臺一帯ノ高地奪取後ハ最速ニ輕易ノ諸砲ヲ前方ニ移置シ以テ同地ノ占領ヲ確實ナラシ
ムヘシ

六、總砲撃間各師團ハ爲シ得ル限り其ノ工事ヲ繼續シテ堡壘ノ突撃ヲ準備シ且時々偽動ヲ
行ヒ敵ノ企圖及ヒ休息ヲ攪亂スヘシ

七、攻撃實施ノ時機ハ更ニ之ヲ命令ス此ノ時期ニ至リ攻撃隊ハ努メテ一齊ニ堡壘ノ突撃ヲ
決行シ堡壘奪取後直ニ支那土壘ヲ占領シテ前方高地ニ對スル進出ヲ準備シ次テ機熟スル
ニ及ヒ決意前進シテ之ヲ占領スヘシ

舊圍壁進出ノ際ハ最嚴密ニ各攻撃隊間ノ連繫ヲ維持シ彼此相協力シテ其ノ目的ヲ達成ス
ルヲ要ス

若シ狀況我カ進出ヲ許サスシテ日没ニ彌ルトキハ夜間ハ確實ニ舊圍壁ヲ保守シテ進出ノ
準備ヲナスニ止メ天明ヲ待チテ更ニ之ヲ續行スヘシ

高地奪取後ハ勉メテ其ノ占領ヲ確實ニシ同時ニ隣接部隊竝ニ後方部隊トノ交通連絡ヲ設
備スヘシ

八、野戰砲兵第二旅團ハ現陣地附近ニ位置シ主トシテ松樹山及ヒ二龍山方面ノ攻撃ヲ援助
シ且攻撃部隊ノ前方高地奪取ト同時ニ可成多クノ砲數ヲ前方ニ移置シテ其ノ占領ヲ確實
ナラシムヘシ

九、旅順街道以西ニ於ル第一師團ノ正面及ヒ東鷄冠山東南砲臺以南ニ對スル第十一師團ノ
正面ニ在リテハ勉メテ有力ナル牽制動作ヲ行ヒ同時ニ最戒心シテ敵ノ出撃ニ對シ之ヲ迎
撃スルノ準備ヲナシアルヘシ

十、第一師團ヨリ後備歩兵第四旅團ニ復歸スヘキ歩兵一大隊ハ明二十六日中ニ復歸シ又該
旅團ハ明後二十七日ヲ以テ其ノ軍隊區分ニ入ルヘシ

十一、總豫備隊タル諸隊ハ二十九日夜楊家屯北方鐵道線路ノ北側附近ニ集合シアルヘシ但
同夜迄ハ所屬師團豫備隊ノ位置ニ在ルヘシ

臨時衛生隊ハ現宿營地ニ位置シアルヘシ

十二、軍司令部ハ柳樹房ニ在リ總攻撃實施ノ日ヲ以テ鳳凰山南方高地ニ到ル

十月二十六日第三軍ハ豫定ノ如ク總攻撃ニ著手シ、攻城諸砲ハ午前七時三十分ヨリ射撃準備
ヲ完成シ、八時三十分前面一帯ノ淡霧全ク散スルヲ俟チテ砲撃ヲ開始シ、二十八榴榴彈砲及ヒ
海軍砲ハ主トシテ松樹山、二龍山東鷄冠山及ヒ同北堡壘等ノ諸堡壘竝ニ我カ射撃ヲ最妨害ス

ル他ノ砲臺ヲ砲撃シ、其ノ他ノ諸砲ハ制壓及ヒ威嚇ノ目的ヲ以テ、前記諸砲ヲ援助シ、二十八日
ヨリハ、最後ニ到著セシ二十八榴榴彈砲六門モ亦砲撃ニ參與シ、同日夕刻迄ニ主攻堡壘ニ對シ
テハ砲火ノ效果大ニ顯レ、或ハ大砲ヲ毀損シ、或ハ胸牆ヲ破壊シ、或ハ掩蓋ヲ飛散セシメ、或ハ彈
藥庫ヲ爆發セシムル等、尠カラサル損害ヲ與ヘタルカ如クナルモ、我カ歩兵ノ攻撃前進ニ最
妨害ヲ與フル支那圍壁、竝ニ諸堡壘間ノ散兵壕等ニ對シテハ、砲火ノ效力未タ充分ナラサルヲ
以テ、乃木軍司令官ハ、翌二十九日ヨリ、更ニ此等ニ對シテ破壊砲撃ヲ行ハシメ、三十日ヲ以テ
愈々攻撃ヲ實施スルコトニ決シ、二十八日午後九時左ノ軍命令ヲ發セリ、

一、軍ハ明後三十日午後一時ヲ以テ攻撃ヲ實施セントス

二、諸團隊ハ凡テ二十五日發軍命令ニ據リ行動スヘシ

三、軍司令部ハ三十日午前九時ヨリ鳳凰山東南高地ニ位置ス

是ヨリ先キ、總攻撃ノ準備トシテ、第一師團ハ二十六日午後五時、松樹山堡壘ノ前方ナル敵ノ散
兵壕ニ突入シテ之ヲ占領シ、第九師團右翼モ亦同時ニ二龍山堡壘斜堤ノ散兵壕ヲ奪取シ、左翼
ハ鉢卷山ヲ占領シ、第十一師團ハ二十七日午後、東鷄冠山北堡壘ノ外岸側防寫害ヲ破壊シテ其
ノ一部ヲ奪ヒ、又東鷄冠山堡壘前ニ在リテハ、鐵條網若干米突ヲ破壊シ、爾來各師團共ニ猛烈ナ
ル敵ノ砲火ヲ冒シ、頻繁ナル逆襲ヲ擊退シテ、占領陣地ノ工事ト、外壕進出路ノ開進トニ努力セ
リ、

三十日豫定ノ如ク軍司令部ハ、鳳凰山東南方一千米突ノ高地ニ前進シ、攻城諸砲ハ午前七時ヨ

リ、攻撃正面竝ニ附近ノ堡壘砲臺ニ對シ、突撃準備射撃ヲ開始シ、午後一時各師團ハ齊シク突撃ニ移レリ、即チ第一師團ハ、初メ爆薬ヲ以テ外岸壁ノ破壊ヲ試ミタルモ功ヲ奏セス、更ニ外壕ヲ埋填シテ通路ヲ設ケント計リ、土囊ヲ壕内ニ投入セシモ、敵火ノ爲メ目的ヲ果サス、仍テ突撃隊ハ、萬一ノ成功ヲ期シテ猛然外岸頂ニ轟進セシモ、外壕ニ突入スルヲ得ス、忽チ敵ノ猛射ヲ被リテ死傷續出シ、各兵纔ニ其ノ身ヲ容ル、ニ足ルヘキ掩體ヲ造リ、爾後各種ノ手段ヲ講シテ外壕通過ヲ試ミシモ成功セス、今夜間ヲ利用シテ更ニ土囊ヲ壕内ニ投入スルノ外他ニ策ナキニ至リ、翌朝再突撃ヲ施行スルコトニ決セリ、

第九師團右翼方面ニ於テハ、朝來ニ龍山堡壘外壕ノ通路ヲ設クルカ爲メ、携帶橋ノ架設ヲ企テシモ、爆薬ノ爲メ破壊セラレ、遂ニ其ノ目的ヲ達セス、爲メニ突撃ヲ實施スルニ至ラス、夜ニ入りテ後モ、或ハ土囊ヲ投シ、或ハ外岸破壊ヲ試ムル等、極力外壕通過ノ手段ヲ講セシモ、天明ニ至ル迄未タ目的ノ一部タモ達スルコトヲ得ス、又P堡壘ニ對セシ同師團左翼方面ニ於テハ、午前鐵條網ヲ破壊シ、午後一時五分突撃ヲ實施シテ先ツ其ノ第一線ヲ占領セシモ、比隣ノ砲臺及ヒ支那土壘ヨリ側射ヲ受ケテ死傷續出シ、突撃ヲ繼續スルコト能ハス、僅ニ其ノ一部ヲ固守シテ日没ニ及ヒシカ、午後九時頃ヨリ屢逆襲ヲ蒙リ、一時遂ニ占領地ヲ棄テ退却スルニ至レリ、是ニ於テ左翼隊長一戸陸軍少將ハ、自ラ豫備隊ヲ率非テ第一線ニ前進シ、敵ヲ擊退シテ再之ヲ回復シ、尙機ニ乘シテ堡壘ノ全部ヲ確實ニ占領シ、爾後P堡壘ヲ二戸堡壘ト呼稱スルニ至レリ、東鷄冠山北砲臺ニ對セシ第十一師團ノ右翼隊ハ、朝來外岸穹窿ノ右室ヲ占領シ、直ニ其ノ面壁

ヲ爆破シテ、壕底ニ通スル突撃路ヲ作り、午後一時胸牆内ニ向ヒ突撃ヲ實行セシモ、穹窿左室ニ殘留セル敵機關砲ノ背射ト、附近堡壘ヨリノ側射竝ニ守兵ノ投爆薬ニ依リテ、突撃隊全部殲滅シ、幾回突撃ヲ繰返スモ到底成功ノ望ナク、又東鷄冠山堡壘ニ對セシ同師團ノ中央隊ハ、午後一時前進ヲ起シ、高地中腹ニ在ル散兵壕ヲ略取シ、更ニ進シテ堡壘内ニ突入シ、一旦之ヲ占領シタルモ、忽チ比鄰堡壘、竝ニ支那土壘ヨリ掃射セラレテ、我カ兵概ネ死傷シ、且敵ノ逆襲ヲ受ケ、猶僅ニ生存シタルモノモ亦其ノ位置ヲ固守スル能ハス、遂ニ退却ノ止ムナキニ至レリ、之ト同時ニ窟山ニ突撃シタル中央隊ノ一部ハ、遂ニ其ノ目的ヲ達シ、敵火ヲ冒シテ極力工事ヲ施シ、漸ク占領ヲ強固ニセリ、

右ノ如ク三十日ノ突撃ニ於テハ、僅ニP堡壘及ヒ窟山ヲ占領シ得タルニ過キスシテ、各方面共著シキ戰況ノ發展ヲ見ス、是ニ於テ乃木軍司令官ハ、三十一日朝左ノ命令ヲ發セリ、

一、松樹山ニ龍山東鷄冠山北ノ三堡壘ニ對スル突撃ハ外壕通過意ノ如クナラスシテ未タ之ヲ實施スルニ至ラス目下尙其ノ作業ヲ繼續シツ、アリ

P(盤龍山東砲臺) Q(東鷄冠山) 及ヒ東鷄冠山ノ三砲臺ニ向ヘル突撃ハ昨午後略豫定ノ時刻ニ實施セラレP砲臺及ヒ窟山(Q砲臺ト東鷄冠山砲臺)ハ全ク之ヲ占領シ得タルモQ及ヒ東鷄冠山砲臺ニ向ヒシモノハ一旦之ニ到達シタル後周圍ヨリスル集中火ノ爲メニ之ヲ保守スル能ハスシテ遂ニ突撃陣地ニ引返セリ

二、軍ハ先ツ松樹山ニ龍山及ヒ東鷄冠山北ノ三堡壘ヲ確實ニ占領シ次テ爾後ノ進出ヲ圖ラ

ントス

三、各師團ハ現在ノ位置ヲ確實ニ保守スルト同時ニ松樹山二龍山及ヒ東鷄冠山北堡壘ニ對スル攻撃隊ハ依然其ノ動作ヲ繼續シ勉メテ速ニ之ヲ占領スヘシ各攻撃隊突撃實施ノ期ハ豫メ之ヲ報告スヘシ

四、第九師團ハ盤龍山東西兩堡壘及ヒ鉢卷山ヨリ其ノ南方高地ヘノ進地ヲ準備スヘシ

五、第十一師團ハQ及ヒ東鷄冠山北堡壘ニ對シ攻路作業ヲ繼續スヘシ

六、攻城砲兵ハ松樹山二龍山及ヒ東鷄冠山北堡壘ニ對スル砲撃ヲ繼續シ且敵ノ妨害ニ對シ爲シ得ル限り我カ砲撃動作及ヒ陣地占領ヲ掩護スヘシ

七、砲兵旅團ハ松樹山及ヒ二龍山堡壘ヘノ突撃實施ニ際シ前任務ニ基キ之ヲ援助スヘシ

八、總豫備隊ハ依然現在ノ位置ニ在ルヘシ

仍テ各師團ハ、目的堡壘ニ對シテ攻撃ヲ繼續シ、極力外壕通過ヲ計ルト雖モ、作業益々困難ニシテ容易ニ其ノ目的ヲ達スルコト能ハス、第一、第九師團ハ外岸壕崩ノ目的ヲ以テ、已ムヲ得ス垂坑路ノ掘下ケヲ開始スルニ至リ、又第十一師團ハ東鷄冠山北砲臺ノ穹窿ヲ爆破シ、午後五時三十分突撃隊ハ胸牆ニ攀登シ、爆藥ヲ以テ砲臺内部ノ敵ト戦ヒシモ、多大ノ損害ヲ蒙リテ纔ニ外斜面ニ膠著シ、午後六時更ニ第二突撃隊ヲ加ヘ、極力堡壘内ニ侵入スルヲ努メタルモ、比鄰砲臺ヨリノ猛烈ナル側射ト、守兵ノ頑強ナル抵抗トニ依リ、遂ニ復突撃ノ功ヲ奏セス、斯テ翌十一月一日ニ至リシモ、各方面トモ著シキ發展ナク、松樹山、二龍山堡壘ニ對シテハ、外岸爆破ノ爲メ、垂

坑路ノ掘穿ヲ繼續シ、東鷄冠山北堡壘ハ工事ヲ胸牆斜面ニ施シ、且我カ彈痕ヲ利用シテ之ニ多少ノ掩蓋ヲ設ケ、以テ胸牆占領ノ維持ニ努メシモ、同師團ハ更ニ胸牆ノ大爆破ニ依リテ同堡壘ヲ占領スルコトニ決シ、胸牆占領兵ヲ後退セシムルニ至レリ、

是ニ於テ第二回總攻撃ハ、僅ニP堡壘及ヒ瘤山堡壘ヲ占領シ得タルノミニシテ、未タ要塞本郭ノ一壘ヲタモ抜クコト能ハスシテ攻撃ヲ中止セリ、而テ十月二十六日攻撃開始以來、十一月一日ニ至ルマテ軍ノ死傷ハ、約三千四百名ニ達セリ、

第九節 第二回總攻撃後ヨリ第三回總攻撃ニ至ル

第一目 各師團ニ於ル交渉

曩ニ旅順口攻路ノ期ヲ八月中ト豫定スルヤ、當時我カ海軍ニ於テハ、敵ノ増援艦隊ニ對スル我カ聯合艦隊作戰ノ準備上、之ヲ以テ尙遲キニ過クルモノトナセシカ、幸ニ敵ノ増援艦隊モ、種々ノ故障竝ニ工事遅延等ノ爲メ、其ノ出發期日漸次遷延シタルヲ以テ、第一回總攻撃後ニ於テモ、我カ艦隊ハ諸種ノ困難ヲ忍ヒテ、依然海上ノ封鎖ヲ續行シ來レリ、然ルニ十月下旬ヨリ再始シタル第二回總攻撃ハ復效ヲ奏セスシテ、要塞ノ攻路令ヤ日ヲ期シテ待ツヘカラサルニ至リタルト共ニ、敵ノ増援艦隊ハ既ニ十月十五日、其ノ本國ヲ發シテ東洋回航ノ途ニ上リ、遅クモ明年一月上旬ニハ、臺灣海峽附近ニ達スルノ推算タリ、而テ新來ノ敵艦隊ニ對スル爲メニ要スル我カ艦隊ノ修理工事ハ、大至急工事ヲ以テスルモ尙二箇月ノ日子ヲ要スルヲ以テ、我カ艦隊ハ今ヤ長ク旅順口方面ニ留ルコト能ハサルニ至リ、戦局ノ前途大ニ憂慮スヘキモノアリ、是ニ於テ

伊集院軍令部次長ハ、十一月七日島村聯合艦隊參謀長ニ向ヒ左ノ電報ヲ發セリ、

諸情報ヲ綜合スルニ東洋來航ノ途ニ在ル婆羅的艦隊中北海漁船砲擊事件(編者曰ク第二部第一編第七卷參照)ニ關係セシモノハ一時ヴィゴニー入港滞在シ其ノ他ハ先行シテタンジールニ入港セシカヴィゴニー數日留ル艦隊即チ「スウォーローフ」「アレキサンデル三世」「ボロヂノ」「アリオール」等ハ十一月一日ロジエストウエンスキー之ヲ率非テ出發シ三日タンジールニ著セリ是ヨリ先キ既ニタンジールニ在リシ諸艦船中驅逐艦六隻ハ同港ヲ發シテ十一月一日アルジールニ到着シ「シソイ」「ウエリーキー」「オスラービヤ」「ナヒーモフ」「ドンスコイ」ハフェルケルザム之ヲ率非三日出發シテクリート島スダ港ニ向ヒ其ノ他ハヴィゴニーヨリ來會セル主力ト共ニケープベルトニ向ヒ五日タンジールヲ出發セルモノト認メラル

此ノ行動ハ先ニ歐洲ヨリ接受シタル婆羅的艦隊中航海力大ナルモノハ喜望峰ヲ回り其ノ他ハ蘇士ヲ通過スル筈ナリトノ牒報ト一致スルノミナラス今回ノ彼ノ動作ハ從來見サル程活潑ナル感アリ故ニ同艦隊モ今度コソハ百難ヲ排シテ東洋ニ至ルヘシトノ嚴命ヲ受ケ居ルト云フモノ真相ニ近キモノト認ム依テ旅順口攻略ヲ急クコトハ至極御同感ニテ已ニ數月前ヨリ陸軍部ト打合セ督促アリタルハ御承知ノ如クナルカ今度又新ニ參謀次長ヨリ滿洲軍竝ニ第三軍ニ婆羅的艦隊ノ東航朝日艦ノ奇禍ニ關スルコト等ノ通報ヲ發スルト同時ニ松樹山ニ龍山一帶ノ攻撃ト共ニ二〇三米突高地ノ占領ヲモ努メ一日モ速ニ港内ヲ隈ナク瞰制シ得ルノ地點ニ出テ旅順口攻略ヲ急カレ度要スレハ新銳兵モ増遣方取計ヲフヘシ云々ト電報スル

所アリ目下其ノ回答ヲ待チ居ル所ナルヲ以テ尙貴艦隊ヨリモ艦隊ノ狀況旅順口陥落ノ急カサルヘカラサル所以特ニ港内ヲ充分ニ瞰制シ敵艦破壊ノ觀測ヲ爲シ得ルノ地點ヲ占領スルハ焦眉ノ急ナルコトヲ充分第三軍ヘ説明セラレンコトヲ希望ス去七月竝ニ今回攻略急方ヲ軍令部ヨリ陸軍ヘ申込ミタルニ對シ陸軍部ノ口氣ニ依リ察スレハ參謀本部モ滿洲軍モ又第三軍モ共ニ艦隊ニ於テハ軍令部ノ言フ如ク急キ居ルモノト認メシテ軍令部ノ所見ハ寧ロ悲觀的ニ陥リ居ルモノニアラスヤト疑ヒ居ルモノ、如シ艦隊ハ眼前ニ第三軍ノ艱苦ヲ控ヘ居リ餘リ督促爲シ惡キ事情アルヘキモ此ノ邊ハ誤解ナキ様充分考慮アリタシ

然ルニ翌八日在煙臺兒玉滿洲軍總參謀長ヨリ、長岡參謀次長ニ向ヒ、婆羅的艦隊ノ執ルヘキ航路、竝ニ其ノ極東ニ到達スル時日ハ、今後ニ於ル滿洲軍諸般計畫ノ基礎トナルヘキヲ以テ、之ニ對スル大本營ノ判斷ヲハ、豫メ通報セラレタキ旨電報アリタルニ依リ、大本營ニ於テハ、山縣參謀總長、長岡同次長、伊東海軍軍令部長、伊集院同次長等列席ノ上、直ニ大本營會議ヲ開キ、將來ノ作戰ニ關シテ協議セシカ、其ノ結果我カ海軍ヲシテ一日モ早ク其ノ艦艇ノ修理ニ著手セシメ、以テ第二ノ海戰準備ヲ整フル時日ヲ得シムルコトハ目下ノ急務ニシテ、之カ爲メニ第三軍ハ、先ツ敵艦擊破ノ目的ヲ達スルコトヲ急カサルヘカラス、若シ否ラスシテ在再時日ヲ經過スルトキハ、遂ニ救フヘカラサル情態ニ陥リ、海陸全軍ノ作戰上容易ナラサル事ニ立到ルヘシトノコトニ歸著シ、山縣參謀總長ハ、此ノ旨ヲ大山滿洲軍總司令官ニ通報シ、且之ニ關スル總司令官ノ意見ヲ求メ、同時ニ長岡參謀次長ハ、婆羅的艦隊來航ニ關スル左ノ情況判斷ヲ、兒玉滿洲軍

總參謀長及ヒ伊地知第三軍參謀長ニ致セリ、

婆羅的艦隊今回ノ行動竝ニ其ノ諸般ノ準備ヲ察スルニ彼ハ物資ヲ中立國ニ需ムルノ不便ヲ避ケンカ爲メ豫メ大規模ノ設備ヲ爲シ多數ノ石炭船ヲ航路上各所ニ配置シ更ニ自ラ給炭給水用ノ船舶工作船水雷母艦病院船ヲ伴ヒ好意中立若クハ弱邦ノ港灣ニ寄港シ又ハ靜穩ナル海上ニ於テ炭水ノ補充ヲ爲シ進航シツ、アルカ故ニ行程意外ニ峻速ナルモノアリ去月十五日本國リバウ軍港ヲ發セシ以來丁抹海峽ニシエルブルニヴィゴニモロツコ國タンジールニ寄港シテ炭水ヲ補充シ司令官フエルケルザムノ率非ル艦隊ノ一部ハ本月三日タンジールヲ發シテクリート島ニ向ヒ司令官ロジエストウエンスキーノ率非ル殘部即チ主力艦隊ハ同五日ケープヴェルトニ向ヒタンジールヲ發セリ惟フニ如上ノ方針ヲ以テ進航スルニ於テハ途中何等ノ行程ヲ妨クルモノアルヲ見ス信スヘキ情報ニ依レハ艦隊ハ二分シテ一ハ喜望峰航路ヲ一ハ蘇士航路ヲ執リテ一度マダガスカル島附近ニ集合シ更ニ東航ノ途ニ就クヘシト今喜望峰航路ニ就キシ主力艦隊ヲ標準トスレハマダガスカル島ニ於ル艦隊集合ノ期ハ十二月中旬ニシテ驅逐艦水雷艇ハ蘇士ヨリ亞刺比亞印度ノ沿岸ヲ經テ東航シ艦隊ハ集合地ヨリ直ニ馬來群島附近ニ航シ茲ニ準備ヲ整ヘ北上スルモノトスレハ遅クモ明年一月上旬ニハ臺灣海峽附近ニ達シ得ルモノト認ム思フニ婆羅的艦隊東航ノ遲速ハ戰局ノ進行ニ伴フヘキカ故ニ印度洋航過ノ期日竝ニ馬來群島附近ヨリ更ニ北上シテ直ニ決戰ヲ試ムルヤ否ヤハ主トシテ旅順口ノ運命ト彼我艦隊ノ對勢如何トニヨルヘシト雖モ彼ニシテ交戰ノ持續ヲ斷

念セサル以上ハ飽クマテ海上權ヲ爭ハサルヘカラサルハ理ノ階易キ所ニシテ且艦隊ヲ極東ニ有スルト否トハ終局問題ニ對シテモ亦多大ノ關係アルヲ以テ旅順口艦隊ノ運命如何ニ拘ラス必スヤ東航ノ目的ヲ廢棄セサルハ殆ト疑ナキ所ナリ以上ハ婆羅的艦隊カ經濟速力ニ依リ其ノ全力ヲ擧ケ極東ニ來リ得ヘキ時期ニ就キ判斷セルモノナルカ若シ夫旅順口ノ攻略意外ニ永引クコトモアラハ彼ハ意外ナル急航海ヲ爲シ本年中ニ極東ニ近ツキ來ルコトナキヲ保スヘカラス(編者曰此ノ電文ハ大本營海軍幕僚ノ起草セルモノナリ)

右ニ對シ山縣參謀總長ハ十一月十日大山滿洲軍總司令官ヨリ左ノ電答ニ接セリ、

一、旅順口陷落ヲ成ルヘク速ニシ一方ニハ我カ海軍ヲシテ新ナル作戰ヲナスノ自由ヲ得シメ他ノ一方ニ於テハ優勢ナル兵力ヲ北方ノ野戰軍ニ増加シ以テ決戰ノ期ヲ速ニセント欲スルハ本月八日貴電ニ接スル迄モナク其ノ必要ヲ感スル所ナリ況ヤ今日婆羅的艦隊ノ東航ヲ事實上ニ目撃スルニ於テヲヤ

二、九月十九日ヲ以テ開始セラレタル攻撃ニ當リ予ハ特ニ總參謀長ヲ差遣シテ親シク其ノ攻撃ノ實況ヲ視察セシメタリ其ノ當時總參謀長ヨリ閣下ニモ意見ヲ呈シタル如ク一氣呵成ノ成功ヲ望ム爲メニハ新銳ノ兵力ヲ加ヘテ元氣好ク攻撃スルノ必要アリキ然ルニ新銳ナル兵ハ 聖斷ニヨリ北方軍ニ増加セラレ之ニ依リテ沙河會戰ノ後援手強クナリ有利ナル戰勝ヲ占ムルヲ得タリ是 聖斷ノ明ニ感激スル所ナリ又當時總參謀長ヨリモ閣下ニ意見ヲ述ヘタルカ如ク二十八榴彈砲六門ヲ更ニ第三軍ニ増加シタル結果其ノ效果ノ著大

ナルハ今尙顯然タル事實ナリ此ノ大威力ノ砲十八門ヲ以テ過クル十月二十六日ヨリ砲撃ヲ開始シ三十日突撃ヲ試ミタルニ敵ノ建築物ハ意外ニ堅牢且大仕掛ニシテ松樹山及ヒ二龍山ニ對シテハ突撃ヲ實施セスシテ止ムニ至レリ是固ヨリ壘壁ノ堅牢ナルト外壕ノ深キト側防ノ完備セルトニ歸スヘシト雖モ突撃ハ單ニ壘壘ニノミ對シテ行ハルヘキモノニモ無之壘壘ト壘壘トノ中間支那圍壁ニ向ヒテスルモ一法ナルヘキカ故ニ絶對的ニ之ヲ建築物ノ堅牢ニ歸スルヲ得ス攻撃隊ノ動作モ亦大ニ影響セスンハアラス然モ之ハ屢堅固ナル陣地及ヒ壘壘ニ對シテ攻撃シタル大損傷殊ニ良好ナル將校ヲ殆ト皆失ヒタル結果ニシテ強テ無理トスヘカラス又例令松樹山二龍山ノ二壘壘ヲ攻略シ得タリトスルモ旅順口ノ防禦線ヲ中斷スル迄ニハ更ニ第二第三ノ抵抗ヲ受クルノ覺悟ナカルヘカラス之ヲ遂行スル爲メニハ勢ヒ新銳ナル兵力ヲ要セシナルヘシ

三、扱更ニ此ノ攻撃ヲ有效ナラシムル爲メニ其ノ間種ヤノ思附モアルヘクナレトモ松樹山二龍山ニ對スル攻撃作業ハ日々第三軍ヨリ閣下ニ向ヒ直接ニ報告スル如ク既ニ寤室ニマテ達シ居ル今日ナレハ最早此ノ攻撃計畫ヲ一變シテ他ニ攻撃點ヲ選定スル等ノ餘地ヲ存セス唯計畫セラレタル攻撃ヲ銳意遂行スルアラシノミ而テ是最終ノ目的ヲ達スル爲メ最近ノ進路タルヘシ此ノ工事ヲ助勢スル爲メ既ニ工兵三中隊ヲ増遣セリ

四、二〇三米突高地ヲ攻撃スルヲ得策トスル考案アルカナレトモ二十八砲ノ如キ大威力ノ砲ヲ有セサル以前ニ於テハ此ノ高地ヲ占領シテ旅順口ノ港内ヲ瞰射スル必要ヲ感セシ

ナリ然ルニ此ノ高地自ラハ旅順口ノ死命ヲ制スルモノニアラス且二十八砲ヲ有スル今日ニ於テハ港内ヲ射撃スルノ觀測點ニ利用セラル、ニ過キス港内軍艦ニ對スル二十八砲ノ威力ハ平時ニ於テ豫期シタル如クナラス從テ敵艦カ如何ナル程度マテ損害ヲ受ケタルヤヲ識別スルコトハ二〇三高地ヨリスルモ決シテ正確ナル能ハサルヘシ故ニ此ノ高地ヲ占領シタル後モ猶今日ノ如クナルヲ疑ハサルヲ得ス寧口速ニ旅順口ノ死命ヲ制スルノ手段ヲ捷路トナスニ如カサルナリ然レトモ此ノ高地ニ對スル顧慮ヲ抛擲セサルハ勿論ニシテ第三項ノ攻撃ヲ遂行スルニ當リ助攻撃ヲ此ノ高地ニ向クルナラン

五、第三項ノ攻撃ヲ遂行セシムル爲メニハ九月十九日及ヒ十月三十日ノ攻撃ニ於テ感シタル如ク新銳ノ兵ヲ以テ攻撃シ元氣ヲ添フルノ必要アルコト益々増大スヘシ況ヤ松樹山二龍山ノ兩壘壘ヲ奪取シタル後第二、第三ノ抵抗ニ遭遇スルヲ期セサルヘカラサルニ於テヤ此ノ場合ニ於テハ野山砲ノ射撃ヲ必要トスルコトモ亦自然ノ道理ナリ然ルニ目下第三軍所有ノ野山砲彈藥ニテハ固ヨリ十分ナラス去リトテ又北方ノ軍ニ要スル彈藥ハ決シテ減少セラル、ヲ許サス此ノ點ニ關シテハ御互ニ焦慮ニ堪ヘサル所ナリ

六、以上ノ理由ニ基キ第三軍ヲシテ現在ノ計畫ニ從ヒ其ノ攻撃ヲ銳意果敢ニ實行セシムルヲ最捷徑トス銳意果敢ノ攻撃ハ新銳ナル兵力ノ増加ニ依リ初メテ事實トナルヲ得ヘク新銳ナル兵力ノ増加ハ第七師團ノ派遣ニ依ラサルヘカラス此ノ難局ヲ速ニ解決スル爲メニハ兵力増加ノ英斷アリテ然ルヘキコト、信ス今日ノ場合ニ在リテ第七師團ヲ大阪ニ留メ

置クノ必要ハ蓋大ナラサルヘシ若シ旅順口陥落ノ後要スレハ何レノ師團ナリトモ再之ヲ
本國ニ召還シテ可ナラシ敢テ卑見ヲ述フ

是ニ於テ山縣參謀總長ハ、直ニ參内シテ聖意ヲ奉體シ、爰ニ野戰第七師團ハ第三軍戰團序列ニ
編入セラル、コト、ナリ、同師團ハ十一月十三日ヨリ、大阪ニ於テ乘船ヲ開始セリ、

而テ又乃木第三軍司令官ハ、旅順攻略ニ關スル前記大本營ノ希望ト、軍ノ現狀トニ鑑ミ、十一月
十一日山縣參謀總長及ヒ大山滿洲軍總司令官ニ向ヒ、左ノ電報ヲ發セリ、

目下ノ大局上旅順口要塞ハ一刻モ速ニ之ヲ攻略スルノ必要アルニ拘ラス之ヲ今日マテノ經
過ニ徵スルニ向後ノ攻撃ニ於テモ尙一舉ニ之ヲ陥落スルノ望ハ甚タ少シ蓋堡壘ノ構築及
ヒ天然ノ地勢ハ縦ヒ一壘ヲ奪取スルモ之ヲ以テ直ニ他ヲ略取スルヲ許サス然ルニ肉薄シテ
ル三堡壘モ攻撃作業ノ進ムニ從ヒ益、諸種ノ困難ニ遭遇シアルヲ以テ堡壘其ノ物ノ如何ニ
巧ニ又如何ニ堅固ニ構成シアルカヲ想思シ得ヘク爲メニ殆ト一堡壘占領ノ時日タモ豫定シ
難キノ情態ニ在リ然ルニ目下我ノ企圖セシ望臺二帶ノ高地ニ進出センニハ先ツ少クモ二龍
山及ヒ東鷄冠山北ノ兩砲臺ヲ我カ有ト爲シ尙且第一面總攻撃以來敵ノ力ヲ極メテ増築セル
舊圍郭ヲ奪取シ然ル後前方高地ノ堡壘ヲ攻撃セサルヘカラスシテ舊圍郭ハ其ノ攻撃ニ於ル
一大障礙ナリ之カ爲メ既ニ各占領砲臺ヨリ銳意攻路ヲ前進セシメツ、アリト雖モ砲臺占領
後一帶ニ高地線ヲ奪取センコトハ頗ル望ナシ一タヒ望臺二帶ノ高地ヲ占領センカ殆ト敵ノ
本防禦線ヲ兩斷シテ要塞ノ死命ヲ制シ大ニ全要塞ノ占領ヲ容易ナラシムルト雖モ敵ニシテ

飽クマテモ抵抗ヲ持續シ其ノ殘壘ヲ頑守センカ逐次之ヲ奪取シテ以テ其ノ最終期ニ達セザ
ルヘカラス

情況果シテ前述ノ如クナラシカ全ク當方面ノ局ヲ結ヒ當軍ヲシテ他方面ニ活動シ得シムル
ニ至ルマテニハ尙多クノ時日ヲ算セサルヘカラス之カ爲メ軍ハ諸種ノ手段ヲ盡シ極力此ノ
期ヲ速ナラシムルニ努メツ、アルモ過去及ヒ現在ノ情況ハ遺憾ナカラ向後成功ノ期ヲ確保
セシムルニ至ラス

山縣參謀總長ハ、前記乃木第三軍司令官ヨリノ電報ニ接スルヤ、直ニ之ヲ伊東海軍軍令部長ニ
示シ、之ニ對スル海軍ノ意見ヲ求メタルヲ以テ、同海軍軍令部長ハ、左ノ意見ヲ回答セリ、

海上ヲ制スルト否トハ作戰ノ大局上至重ノ關係ヲ有スルハ言ヲ待タス開戰以來我カ艦隊ハ
幸ニ敵艦隊ヲ制壓シテ海上ヲ專ラニスルヲ得戰局有利ニ進捗シツ、アリト雖モ旅順口竝
ニ浦鹽港ニ存在スル敵艦隊ハ未タ容易ニ侮ルヘカラサルモノアリ爲メニ我カ艦隊ハ全力ヲ
擧ケテ封鎖警戒ノ任ニ服セサルヘカラス而テ艦隊ノ多クハ開戰以來間斷ナキ戰團航海ニ從
事シ船體竝ニ汽機汽罐ノ現狀著シク不良ノ状態ニ陥リ船體備砲モ亦戰團ノ損傷ヲ恢復セサ
ルモノアリ今此等ノ損傷ヲ修理シ完全ナル戰團航海力ヲ恢復セシメ第二ノ作戰ニ備ヘンニ
ハ大至急工事ヲ以テスルモ尙二箇月以上ヲ要ス然ルニ旅順口ノ防禦意外ニ頑強ニシテ攻略ノ
期日豫メ確定シ難ク敵ノ主力艦隊ハ港内深ク蟄伏シテ現存ノ狀ヲ維持シ浦港艦隊又修理ヲ
完成シツ、アリ且今ヤ彼ノ婆羅的艦隊ハ大規模ノ準備ヲ整ヘ東航ノ途ニ在リテ其ノ主力ハ

去五日モロツコ國タンジールヲ發シテ喜望峰航路ヲ執リ其ノ一部ハ去三日同シク同地ヲ發シテ蘇士航路ヲ執リ其ノ先頭既ニ地中海ノ東部クリート島ニ達シ全部ヲ擧ケテ極東ニ來到スルハ將ニ近キニ在ラントス若シ旅順口方面ノ戰局在再進捗セサルニ於テハ我カ艦隊ハ遂ニ戰鬪力ヲ恢復スルノ暇ヲ得スシテ新銳ナル婆羅的艦隊ニ當ラサルヘカラサルニ至リ更ニ旅順口、浦鹽ノ艦隊之ニ合シ優劣勢ヲ異ニスルヤモ測ルヘカラス作戰ノ前途實ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ此ノ時ニ當リ旅順口ノ攻略ヲ全ウスルノ急要ナルハ勿論ナリト雖モ彼我對勢上全部ノ攻略ヲ許サ、レハ尠クモ港内ヲ周ク瞰制シ得ル地點ヲ占領シ港内敵艦ノ擊破ヲ圖ルヲ刻下ノ最大急務ナリトス

斯ノ如ク大本營ニ於テハ、作戰ノ大局上、旅順口要塞ノ攻略ト、同港ニ在ル敵艦隊ノ擊滅トヲ以テ刻下焦眉ノ急務ナリトシ、屢大山滿洲軍總司令官及ヒ乃木第三軍司令官ニ之カ實行ヲ促セシモ、第三軍ノ現狀ト敵防禦ノ強堅ナルトハ、未タ以テ其ノ成功ノ期ヲ確保スルコト能ハス、而モ敵ノ増援艦隊ハ暇ヤトシテ其ノ航程ヲ進メ、日ニ戰場ニ近ツカントスルニ反シ、我カ聯合艦隊ノ現狀ヲ顧レハ、開戰以來十箇月ニ彌ル連續不休ノ行動ノ爲メ、各艦艇何レモ艦底ハ穢レ、機關ハ損シ、殊ニ黃海海戰ニ毀損シタル諸砲ハ、未タ換裝ノ時機ナク、四隻ノ戰艦中使用ニ堪ヘサル十二尹砲ハ四門ノ多キニ達シ、加之北風ノ強烈ナルト封鎖ノ彌久ナルトハ、次第ニ浮流水雷ノ數ト其ノ流動區域トヲ増擴シ、戰艦朝日ノ如キ、山東角沖ニ於テ之ニ觸レテ損微傷ヲ受ケタル等、海面ノ危險益々増加セントス、是ヲ以テ大本營ニ於テハ、十一月十四日陸海將來ノ作戰ニ關

シ、御前會議ヲ開キ、内閣總理大臣、陸軍大臣、海軍大臣、參謀總長、同次長、海軍軍令部長、及ヒ同次長之ニ列シ、海軍ヨリハ、婆羅的艦隊來東ニ關スル情況判斷(前掲)並ニ旅順口、浦鹽斯德ニ在ル敵艦隊、及ヒ婆羅的艦隊ニ對スル我カ聯合艦隊ノ現位置關係ニ就キ、左ノ意見ヲ提出セリ、

旅順口、浦鹽港ニ在ル敵艦隊並ニ婆羅的艦隊ト我カ聯合艦隊トノ比較勢力ハ略別紙彼我艦隊ノ噸數比較表(編者曰ク別冊附表ニ掲ク)ニ依リ見ルヲ得ヘク一旦彼ノ三艦隊ノ合同ヲ許サンカ極東ノ海上權ヲ我ニ保持スルコトハ殆ト不可能ニ屬スヘキカ故ニ勢ヲシテ茲ニ至ラシメサルハ固ヨリ至緊至要トス

聯合艦隊ハ開戰以來殆ト十閱月絶エス海上ニ在リテ敵艦隊ニ當レルノ結果今ヤ殆ト全ク極東ノ敵艦隊ヲ其ノ根據ニ蟄伏セシムルヲ得タリト雖モ之ト同時ニ我カ諸艦艇ノ現狀ハ著シク不良ノ状態ニ陥リ殆ト一トシテ其ノ船體機關若クハ兵裝ノ何レカニ多少ノ修理ヲ要セサルモノナキニ至リ艦隊所在地ヨリ内地マテノ往復日數ヲ除キ長キハ四五週間最短キモ尙ニ二週間ノ時日ヲ與ヘサレハ充分ノ戰鬪力ヲ恢復スルノ應急修理ヲ爲ス能ハサルニ至レリ而テ我カ海軍工廠ノ修理工程ハ自ラ限リアルヲ以テ假令我カ艦隊ハ敵トノ對勢上毫モ顧慮スルヲ要セスシテ自由ニ修理ニ著手シ得ヘキモノトスルモ尙二箇月ノ時日ヲ貸スニ非サレハ其ノ戰鬪力ノ恢復ヲ完クスルヲ得サルモノトス然ルニ婆羅的艦隊ノ來東期ハ來年一月上旬ト見ルヘキコト別紙判斷(編者曰ク前出ツ)ニ於テ陳フル如クナルヲ以テ我カ艦隊ハ今ヤ努メテ速ニ修理ニ著手セサルヘカラサルノ秋ニ際會セリ

此ノ時ニ當リ旅順口ニ在ル敵艦隊ノ情況ヲ推斷センニ彼ハ曩ニ八月十日ノ海戰ニ於テ大打撃ヲ被リ又最近二箇月間ニ於テ我カ攻撃軍ノ攻城砲ノ爲メニ非常ナル苦境ニ陥リタルハ殆ト疑フヘカラサルモ彼ハ又極力修理ニ從事シ又我カ爆彈ニ對シテモ應急防禦ヲ爲シ得テ其ノ損害ハ案外鮮少ナルヤモ測ラレサルヲ以テ我ハ彼カ尙充分戰鬥航海ニ堪ヘ得ルモノトシテ配備ヲ爲スノ必要アリ若シ夫敵艦隊ノ損害ハ相應ニ重大ニシテ且其ノ副砲ノ多數ヲ陸揚ケシ陸正面ノ防備ニ轉用セリトノ情報ニシテ眞ナリトスルニ於テハ一見我カ封鎖艦隊ノ警戒ハ大ニ之ヲ弛ウスルヲ得ヘキヤノ觀アリト雖モ敵艦損害ノ程度ハ如何ニ多大ニ見積ルモ其ノ航海力ヲモ喪失セリトスルコトヲ得サルヲ以テ彼ハ尙脱出シテ中立港若クハ浦鹽港等ニ遁走ヲ企テ得ルノ能力ヲ有スルモノト認メサルヘカラス而テ之ヲ邀撃シテ彼カ企圖ヲ打破センカ爲メニハ少クモ彼ノ戰艦一ニ對シ我カ戰艦一若クハ裝甲巡洋艦二以上ノ勢力ヲ配備セザルヘカラス從テ現下ノ狀況ニ在リテ我カ旅順口封鎖艦隊中ヨリ修理ノ爲メ引上ケシメ得ヘキ兵力ハ一時ニ戰艦一、裝甲巡洋艦一、保護巡洋艦二ヲ超ユルコトヲ得スシテ戰艦四隻ノ應急修理ヲ終フルニモ尙來年一月末ヲ待タサルヘカラス

如上ノ狀況ナルヲ以テ聯合艦隊司令長官ハ已ニ朝日、高砂、秋津洲竝ニ新高ノ四艦ヲ割愛シテ歸朝修理ニ著手セシメ其ノ修理成リ艦隊ニ復歸スルヲ待チテ逐次他諸艦ニ及スノ方針ヲ取リ今ヤ著々戰鬥力ノ恢復ニ努メツ、アリ然レトモ今十一月ノ末ニ至ルモ尙旅順口ノ狀況ニ著シキ變化ヲ見ルコトヲ得ス且婆羅的艦隊モ亦尙滯ナク進航シ來ルモノトセハ我カ戰

争ノ大局ヨリ打算シ遺憾ナカラ諸艦交互修理ヲ爲スノ方針ヲ放棄シ旅順口方面ニハ艦隊ノ一小部ヲ殘シ以テ擬勢ヲ張ルニ止メ艦隊主力ハ一時ニ内地ニ引揚クルノ已ムヲ得サルニ至ルコトアルヘシ

事茲ニ至リテハ旅順口、浦鹽港ノ敵艦隊ハ再洋上ニ活動シテ其ノ威力ヲ擅ニシ直接旅順口攻略ヲ困難ニ陥ラシムヘキハ勿論一時我カ海上輸送ヲ絶タサルヘカラサルニ至ラハ延イテ他方面ニ於ル陸戰ニモ至大ノ影響ヲ及スヘク又或ハ敵艦隊ノ大部分浦鹽港ニ遁入スルコトモアラハ偶婆羅的艦隊來東ノ期ヲ早ムルノ結果ヲ來シ茲ニ敵ノ三艦隊合同ヲ現實ニシ爲メニ我カ陸海軍作戰ノ前途ハ容易ナラサル悲境ニ立到ルコトナキヲ保スヘカラサルナリ

御前會議ノ結果モ、亦前回大本營會議ノ結果ト等シク、海陸將來ノ作戰上、速ニ旅順口ヲ攻略スルヲ必要トスルモ、敵ノ増援艦隊ニ對スル我カ海軍作戰ノ爲メ、旅順口敵艦隊ノ擊滅ヲ以テ最大急務ナリトシ、山縣參謀總長ハ、大山滿洲軍總司令官ニ向ヒ、左ノ電報ヲ發セリ、

只今 御前ニ於テ陸海作戰ニ關シ會議セシ要件左ノ如シ茲ニ閣下ニ通報ス

帝國艦艇ノ多數ハ昨冬已來間斷ナク戰鬥航海ニ從事シ船體竝ニ汽機汽罐著シク不良ノ状態ニ陥リ船體備砲亦戰鬥ノ損傷ヲ回復セサルモノアリ今此等ヲ修理シテ戰鬥航海力ヲ回復セシメンカ爲メニハ大至急工事ヲ以テスルモ尙二箇月以上ヲ要ス然ルニ旅順口ニ蟄伏スル敵ノ主力艦隊ハ多少ノ破損ヲ免レサルヘシト雖モ尙戰鬥力ノ存スルモノト算セサルヘカラス浦鹽艦隊モ亦修理ヲ完成シツ、アリテ其ノ勢力固ヨリ侮ルヘカラサルモノアリ而テ今ヤ太

平洋第二艦隊大規模ノ準備ヲ以テ東航ヲ急キツ、アリ其ノ極東來著ノ期將ニ近キニ在ラントス此ノ形勢ニ於テ旅順口方面ノ戦局在再進捗セサルニ於テハ帝國艦隊ハ其ノ艦艇ヲ修理スルニ遑ナク未タ戦闘力ヲ恢復シ得サル以前ニ於テ新銳ナル敵ノ艦隊ニ當ラサルヘカラス更ニ旅順口、浦鹽ノ艦隊之ニ合スルニ於テハ彼我ノ優劣忽チ其ノ勢ヲ異ニシ一時若クハ永久ニ制海權ヲ失フニ至ルヘキコトアラシク恐ル是カ爲メニハ速ニ旅順口攻略ヲ全ウスルコト必要ナリト雖モ若シ否ラサルトキハ先ツ同港内ヲ周ク瞰制シ得ヘキ地點ヲ占領シ敵艦ヲ撃破シ若クハ之ニ大損害ヲ與ヘ又造兵廠ヲ破壊シ艦船修理ノ途ヲ絶チ以テ容易ニ其ノ戦闘力ヲ恢復スルコト能ハサラシムルニ至ルハ帝國艦隊ヲシテ第二ノ作戰ニ應セシムル唯一ノ方法ナリトス若シ夫敵ノ第二艦隊我ニ對シテ一箇月内外ノ航程ニ近ツクニ於テハ旅順口要塞陥落ノ如何ニ拘ラス帝國艦隊ハ其ノ大部分ヲ引揚ケ第二海戦準備ニ從ハサルヘカラス若シ此ノ場合ニ至レハ敵ハ海上ヨリスル糧食彈藥補給ノ道ヲ復活シ得ヘク我カ旅順口攻略上一層ノ困難ヲ加ヘ延イテ帝國作戰全體ニ非常ナル影響ヲ與フルコトヲ憂慮ス

右ノ情況ニ關シ閣下ノ執ララルヘキ處置ヲ速ニ報告アラシムコトヲ望ム

右ニ對シ、十六日大山滿洲軍總司令官ハ、山縣參謀總長ニ向ヒ、左ノ如ク返電セリ、

御前會議ノ要件ニ關シ通報ヲ辱ウシ了承セリ此ノ會議ノ結果我カ陸海一般ニ關係スル所ノ要點ヲ綜合スレハ左ノ要件ニ歸スルカ如シ

一、艦船ヲ修理シテ敵ノ増援艦隊ニ對シ更ニ新作戦ヲ準備スルニハ約二箇月ヲ要スルコト

二、十一月九日ニ於テハ大本營ノ情況判斷ニヨレハ敵ノ増援艦隊ノ日本近海ニ現出スルハ

一月上旬ナルコト

三、我カ艦船ノ修理ヲ始ムルマテニ旅順口ヲ陥落スルコトヲ望ムコト

四、假令第三項ヲ満足スル能ハサルモ旅順港内ヲ瞰制シ得ル地點ヲ占領シ港内ノ敵艦及ヒ造兵廠等ニ打撃ヲ與フルコトヲ望ム

五、我カ艦船ハ敵ノ増援艦隊ノ日本近海ニ達スル前一個月即チ十二月上旬ニ至レハ假令旅順口ノ封鎖ヲ緩ウスルモ修理ニ著手スルコトヲ要スルコト

第一、第二ハ敵ノ行動ニ屬スルモノニシテ如何トモスル能ハス只之ヲ基礎トシテ凡テノ計畫ヲ爲サ、ルヘカラス

第三項ニ關シテハ本月九日附ヲ以テ詳細ノ意見ヲ述ヘ其ノ結果第七師團ヲ新ニ第三軍ノ戦闘序列ニ編入セラル、コト、爲リタリ就テハ第三軍司令官ヲシテ是マテノ計畫ニ從ヒ銳意果敢ニ攻撃ヲ實行セシメ旅順口ノ死命ヲ制シ得ヘキ望臺ノ高地ヲ一舉ニ占領セシムルノ方針ヲ取ルヘシ是旅順港内ニ蟄伏スル艦隊ニ對スル爲メニモ亦旅順口要塞ノ全般ニ對シ打撃ヲ與フル爲メニモ最捷徑ト信スル所ナリ

第四項ノ爲メニモ速ニ望臺ノ高地ヲ占領スルノ捷徑ニシテ且有效ナルニ如カス若シ望臺ノ高地ヲ攻略スル傍其ノ全力ヲ以テ二〇三高地ノ如キ港内ヲ觀望スル地點ヲ占領セントスルトキハ砲撃ノ力ヲ分割セサルヘカラサルヲ以テ首攻撃ヲ援助スヘキ砲撃力ヲ減シ爲メニ一

モ取ラスニモ取ラサルノ不幸ニ陥ラン又假令二〇三高地ヲ占領セントスルモ三週間ノ後ニアラサレハ突撃シ得ルニ至ラス而テ之ニ依リテ得タル結果ハ嘗テ意見ヲ述ヘタル如ク觀測點ニ利用スルニ過キス此ニ砲ヲ備ヘテ敵艦ヲ撃破セントスルニハ長月日ヲ費サ、ルヘカラス是今日ノ目的ニ適セサルヘシ

第五項ニ關シ我カ海軍ニシテ若シ未タ艦船ノ修理ニ著手セサレハ直ニ之ニ著手セラル、ヲ至當ト信ス然ルニ艦船ノ修理ハ船渠ノ關係上同時ニ全艦船ヲ修理スル能ハサルヘク從テ多少封鎖ノ程度ヲ緩ニスルモ之ヲ持續シツ、艦船ノ修理ヲ實行シ得ヘク又密輸入ニ對シテハ強テ軍艦ヲ用ヒサルモ之ヲ遮斷スルヲ得ルモノト信ス而テ婆羅的艦隊カ日本近海ニ來ルノ時機即チ一月上旬マテニハ必ス旅順口ノ殘艦ニ打撃ヲ加ヘ其ノ戰鬪力ヲ奪ヒ我カ艦隊ヲシテ此ノ殘艦ニ顧慮スルコトナク新作戦ニ移ラシメ得ルハ予ノ信シテ疑ハサル所ナリ

畢竟スルニ今日ノ状態ニ於テ旅順口ニ對シ取ルヘキ處置ハ前計畫ニ從ヒ大決心ヲ以テ銳意果敢ニ望臺ノ高地ヲ攻略シ旅順口ノ死命ヲ制セントスルニ在リ此ノ攻撃ハ多分本月二十日過ニハ開始スルニ至ラン

乃チ大本營ニ於テハ、右大山總司令官ノ意見ニ任シ、第三軍ハ十一月下旬ヨリ、望臺方面ニ對シ、第三回總攻撃ヲ開始スルニ至レリ、而テ旅順口急速略取ノ必要ハ、當ニ敵ノ増援艦隊ニ對スル作戦ノ爲メノミナラス、北方陸方面ニ於テモ、沙河ノ大會戰後、敵ハ續々補充兵及ヒ増援隊ヲ送り、其ノ優勢ヲ期スルヲ俟チテ攻勢ニ轉セントスルノ狀アルモ、今ヤ我カ内地ニハ、滿洲軍ニ増加

スヘキ野戰軍ナキヲ以テ、大本營ニテハ成ルヘク速ニ旅順口攻圍軍ヲ北方ニ轉用セント欲セリ、是ヲ以テ旅順口攻略ト、同港ニ在ル敵艦隊撃滅ノ成否トハ、我カ陸海作戦勝敗ノ岐ル、所ニシテ、邦家ノ安危モ亦實ニ之ニ繫リ、大本營其ノ他各部隊ノ作戦計畫ハ、最苦心慘憺ヲ極メタリ、

第二目 第三回總攻撃

前述ノ如ク第二回總攻撃中止後、第三軍ノ責任ハ益々重大ニシテ、將來ニ於ル海陸兩軍ノ成敗ハ、一ニ同軍ノ雙肩ニ懸レリ、是ヲ以テ大本營ニ於テハ、野戰第七師團(師團長陸軍中將大迫尙敏)ヲ新ニ第三軍ニ増勢シ、同師團ハ十一月十九日ヨリ、陸續青泥窪ニ上陸スルト同時ニ、一面軍ノ攻撃作業ハ著々進捗シテ、攻撃正面タル松樹山、二龍山及ヒ東鷄冠山北堡壘ニ對スル我カ工事モ、已ニ突撃實施ノ機ニ達シタルヲ以テ、乃木第三軍軍司令官ハ、十一月二十一日各師團參謀長、攻城砲兵司令官、野戰砲兵旅團長等ヲ會合シ、次回攻撃ニ關シテ訓示スル所アリ、即チ此ノ時ニ於ル各方面ノ概況ハ左ノ如シ、

一、二〇三米突高地ニ於テハ其ノ西南及ヒ東北兩嶺頂ニ對スル攻路ハ敵ノ第二散兵壕(堅固掩蓋ヲ有シ敵ノ木防禦線ナリ)前約百米突乃至百五十米突ノ距離ニ達セリ

二、松樹山堡壘ニ於テハ我カ兵砲臺正面ノ側防筐舎ヲ占領シ外壕ノ通過法既ニ講セラレ更ニ西側面ヨリ咽喉部ニ向ヒ攻路ヲ進メツ、アリ

三、二龍山堡壘ニ在リテハ砲臺正面ノ側防筐舎已ニ我カ手ニ歸シ外壕ヲ通過シテ胸牆上ニ攀登スヘキ二條ノ架橋ハ既ニ完成セリ(但東方ノ一橋ハ漸ク成レハ忽チ敵ニ破壞セラレ其ノ修復ニ困難ヲ極メツ、アリ)

- 四、鉢卷山盤龍山西堡壘及ヒ同東堡壘竝ニ一戸堡壘等ヨリ支那圍壁ニ向フ攻路モ亦約五十米突乃至百米突ノ距離ニ到達シタリ
 - 五、東鷄冠山北堡壘ニ於テハ攻撃正面ノ側防筐舎ハ全部我カ有ニ歸シ敵ハ僅ニ砲臺右側面廻郭ノ一部ヲ死守スルノミ然レトモ同砲臺背後ノ諸地區ヨリスル敵火ハ壕ノ通過ヲ危険ナラシム
 - 六、Q堡壘ニ向テスル攻路ハ約百米突東鷄冠山砲臺前ニ於テスルモノハ敵ノ散兵壕前約十五米突ノ近距離ニ在リ
 - 七、東鷄冠山東南砲臺及ヒ白銀山砲臺竝ニ鹽廠南方高地ニ向テスル對壕作業ハ一種ノ脅威若クハ牽制ニ過キサリシヲ以テ茲ニ其ノ概要ヲ記セス
 - 八、攻城砲兵團及ヒ野戰砲兵第二旅團(一聯隊)ノ位置ハ第二回攻撃ノ場合ト大差ナシ
- 十一月二十二日總攻撃開始ニ關シ、第三軍司令官陸軍大將男爵乃木希典ニ左ノ勅語ヲ賜フ、
- 旅順口要塞ハ敵カ天嶮ニ加工シテ金湯トナシタル所ナリ其ノ攻路ノ容易ナラサル固ヨリ怪シムニ足ラス 朕深ク汝等ノ勞苦ヲ察シ日夜軫念ニ堪ヘス然レトモ今ヤ陸海軍ノ狀況ハ旅順口攻路ノ機ヲ緩ウスルヲ得サルモノアリ此ノ時ニ當リ第三回總攻撃ノ舉アルヲ聞ク其ノ時機ヲ得タルヲ喜ヒ成功ヲ望ム甚々切ナリ汝等將卒夫レ自愛努力セヨ
- 右ニ對シ乃木第三軍司令官ハ直ニ左ノ如ク奉答セリ、
- 旅順口要塞總攻撃ニ關シ勅語ヲ辱ウス臣希典等感激恐懼ニ堪ヘス將卒一般深ク 聖旨ヲ奉體

シ誓テ速ニ軍ノ任務ヲ遂行センコトヲ期ス

攻撃開始ニ先タチ、勅語ヲ拜スルカ如キハ、極テ異例ニ屬スルヲ以テ、軍司令官以下恐懼措ク能ハス、誓テ成功ヲ期シ、全軍ノ士氣大ニ昂レリ、

而テ諸般ノ關係殊ニ對壕作業ノ進捗上、攻撃開始ヲ十一月二十六日ト決定シ、二十三日左ノ軍命令ヲ發セリ、

- 一、軍ハ來二十六日ヲ以テ攻撃ヲ再興シ望臺一帶ノ高地ヲ奪取セントス
- 二、總豫備隊タル第九師團ノ歩兵一大隊ハ原師團ニ復歸セシム
- 三、第一第九第十一師團ハ各攻撃地區ニ從ヒ午後一時ヲ期シ松樹山二龍山東鷄冠山北堡壘及ヒ二龍山以東一戸堡壘ノ前面ニ至ル舊圍壁ニ向ヒ突撃ヲ實施シ次テ相協同シテ松樹山砲臺南方高地ヨリ殺後軍副營北方高地ヲ經テ東鷄冠山砲臺ニ互ルノ線ニ進出シ該線ヲ占領スヘシ
- 四、砲兵旅團ハ適宜ノ時機ニ砲撃ヲ開始シ主ニ松樹山及ヒ二龍山方面ノ攻撃ヲ援助スヘシ
- 五、攻城砲兵ハ左ノ如ク砲撃ヲ施行スヘシ
 - 一、攻撃主目標タル諸砲臺及ヒ舊圍壁ニ向テスル破壊射撃
 - 二、望臺一帶ノ高地ニ於ル諸砲臺及ヒ堡壘ニ向テスル攻撃準備
 - 三、我カ攻撃部隊ニ向テスル敵砲ノ制壓
 - 四、他方面ニ對スル牽制的砲撃殊ニ二〇三米突高地ニ對スル砲撃

攻撃主目標ニ對スル破壊射撃ハ攻撃前日ヨリ其ノ他ノ砲撃ハ攻撃前適宜ノ時期ニ之ヲ開始シ又ニ龍山砲臺ノ咽喉部附近竝ニ東鷄冠山砲臺ニ對シテハ我カ攻撃部隊ノ該地ヲ占領スルニ至ルマテ絶エス之ヲ砲撃シ望臺一帯高地ヘノ進出及ヒ占領ヲ掩護スヘシ

六、本攻撃外ノ正面ニ於テハ各前面ノ敵ニ對シ有力ナル攻撃動作ヲ行ヒ機ニ乘シ成シ得ル限リ敵壘ノ奪取ヲ勉ムヘシ

七、軍ノ特別豫備トシテ各師團ヨリ左ノ諸隊ヲ出シ攻撃前日ヲ以テ水師營附近ニ集合セシムヘシ

第一、第七師團ヨリ聯隊長ノ指揮スル歩兵二大隊
第九師團ヨリ歩兵一大隊及ヒ工兵一小隊
第十一師團ヨリ歩兵一大隊

右諸隊ハ建制若クハ混成ヲ以テスルモ歩兵一中隊ハ八十人ヲ工兵一小隊ハ三十人ヲ下ヲサルヲ要ス

歩兵第二旅團長中村少將(編者曰ク名ハ覺)ヲ以テ該隊ノ指揮官ニ任ス

八、第七師團ノ内歩兵一大隊ハ東北溝附近ノ谷地ニ同一聯隊ハ楊家屯附近ノ各地ニ他ノ歩兵砲兵工兵及ヒ衛生隊ハ曹家屯附近ニ二十五日夜マテニ前進シテ軍ノ總豫備トナリ其ノ他ハ現在ノ宿營地ニ在ルヘシ

九、軍司令部ハ二十六日午前十時ヨリ鳳凰山東南高地ニ在リ

前日來松樹山、二龍山、東鷄冠山北砲臺ニ向ヒテハ破壊射撃ヲ行ヒ、其ノ他ノ堡壘砲臺ニ對シテハ制壓射撃ヲ行ヒタル攻城諸砲ハ二十六日午前十一時ヨリ突撃準備射撃ヲ開始シ、野戰砲兵旅團及ヒ各師團ノ砲兵モ、亦相前後シテ各指定ノ目標ニ對シテ砲火ヲ開キ、午後一時頃ニ於テハ我カ火力熾盛ヲ極メ、各師團ノ突撃隊ハ殆ト一齊ニ起チテ各目標堡壘ニ向ヒ突撃ヲ實施セリ、各師團ノ戰鬪概況左ノ如シ、

松樹山方面

第一師團ノ松樹山攻撃隊(歩兵第二聯隊及ヒ工兵第一大隊)ハ午後一時ヨリ突撃ヲ決行シ、其ノ第一突撃隊(歩兵三五名)ハ外壕内ヨリ一氣ニ胸牆上ニ攀登シ、第二突撃隊(歩兵二名)モ亦踵テ奮進セシニ、此ノ時同堡壘ノ咽喉部ニ赤旗ノ翻ルト同時ニ、堡壘守備兵ハ忽チ各方面ニ現出シ、彼我互ニ爆藥ヲ投擲シ、我ハ暫時ニシテ爆藥ヲ消盡シタルヲ以テ、更ニ石塊ヲ投シテ力戰中、比鄰敵壘ヨリ砲火ヲ集中セラレ、胸牆ニ攀登シタル我カ兵ハ悉ク死傷セリ、仍テ攻撃隊長ハ更ニ援隊ヲ増派セシモ、是亦敵ノ銃砲火ヲ蒙リ、遂ニ一人ノ胸牆上ニ生殘セルモノナキニ至レリ、第一師團長ハ松樹山攻撃ノ不成功ヲ見ルヤ、直ニ攻撃隊長ニ向ヒテ突撃ヲ再行スヘキヲ命シ、且之ニ訓示スルニ、歩兵第二聯隊ハ全滅カ成功カ其ノ一ヲ期シ、後圖ノ如キハ考慮スルニ及ハサル旨ヲ以テセリ、是ニ於テ攻撃隊長ハ更ニ突撃隊ヲ部署シ、午後五時三十分ヨリ再突撃ヲ開始シ、第一、第二突撃隊(各歩兵一個中隊工兵半小隊)ハ再胸牆上ニ攀登シ、爆藥竝ニ小銃火ヲ以テ堡壘内ノ敵ト奮戦シ、壘内ニ突進セントシタルモ、敵ハ陸續内壕ヨリ前進シ來リ、盛ニ爆藥ヲ投シ、且堡壘咽喉部ヨリハ機關砲

ヲ猛射シ、加フルニ左右敵壘ヨリノ集中砲火ノ爲メ、我カ突撃隊ハ將校以下大半死傷シ、午後六時遂ニ胸牆ヲ棄テ、再歩兵陣地ニ退クノ已ムヲ得サルニ至レリ、斯ノ如ク我カ兩度ノ勇敢ナル突撃モ、皆ニ我カ損害ヲ増スノミニシテ、毫モ其ノ功ヲ奏セサルヲ以テ、第一師團長ハ更ニ攻撃隊長ニ向ヒ、同夜軍ノ特別支隊ノ松樹山補備砲臺ニ突入スル時機ト相應シ、松樹山堡壘ノ攻略ヲ勉ムヘキ旨ヲ訓示セリ、仍テ攻撃隊長ハ三タヒ攻撃區署ヲ定メ、東西兩側面ヨリ直ニ堡壘ノ咽喉部ニ逼ラント決シ、午後八時三十分ヨリ第三次突撃ヲ決行セシニ、是亦猛烈ナル敵ノ銃砲火ヲ蒙リ、且敵ノ地雷爆發シテ大損害ヲ受ケ、前進最困難ナリシカ、尋テ補備砲臺ニ向ヒシ特別支隊ハ、戰鬥不利ニシテ退却ヲ始メタルニ依リ、突撃隊モ亦前進ヲ斷念シ、防禦陣地ノ工事ヲ開始セリ、

第九師團方面

第九師團ハ、其ノ軍隊區分ヲ左右兩翼隊ト爲シ、右翼隊ハ先ツ二龍山堡壘及ヒ盤龍山新砲臺ヲ、左翼隊ハ先ツ日高地及ヒ望臺ヲ各占領シ、尋テ各其ノ後方高地ヲ奪取スルコト、定メ、二十六日午後一時ヨリ各隊目的點ニ向ヒテ突撃ヲ開始セリ、乃チ二龍山堡壘ニ向ヒタル攻撃隊(步兵第十九聯隊)ハ、歩兵二個中隊及ヒ工兵若干ヲ第一線トシ、胸牆外斜面ヨリ堡壘輕砲線ニ向ヒテ猛烈ニ突撃シ、先頭ニ在リシ數名ハ挺身シテ直ニ内壕ニ突入セシモ、他ハ敵ノ爆發ニ妨ケラレ、敵前五六米突ナル胸牆上ニ停止シテ前進スル能ハス、仍テ攻撃隊長ハ更ニ二個中隊ヲ以テ突撃ヲ再行シ、尙援隊ヲ増加セシモ、敵火ノ爲メ其ノ目的ヲ達セス、我カ損害ハ刻一刻増加シ、辛ウシ

テ胸牆ヲ維持スルニ過キス是ヲ以テ、右翼隊長ハ其ノ豫備隊ヲ二龍山攻撃隊ニ増援シテ、飽クマテ同堡壘ニ對スル突撃ノ厲行ヲ命シ、攻撃隊長ハ、午後三時部下ノ全力ヲ擧ケテ、一齊ニ二龍山本郭ニ向ヒテ大突撃ヲ實施セシニ、敵ハ無數ノ爆發ヲ亂投シ、銃砲火ヲ猛射シ、我カ兵忽チ多大ノ損害ヲ蒙リ、殊ニ將校ノ大部ハ死傷シ、殘存セル者僅ニ數名ニ過キサルニ至リ、遂ニ復目的ヲ達スルコトヲ得ス、右翼隊長ハ此ノ狀況ヲ見ルヤ、午後三時四十分更ニ歩兵二個中隊ヲ突撃隊ニ増加シ、直ニ突撃ヲ續行スヘキヲ命セリ、四時突撃隊ハ最勇敢ナル突撃ヲ決行シ、其ノ一部ハ猛然トシテ内壕ニ闖入セシモ、敵ノ激烈ナル爆發及ヒ小銃火ノ爲メ、忽チ全滅ノ不幸ニ陥レリ、斯ノ如ク二龍山堡壘ニ對スル正面攻撃ハ、幾回突撃ヲ繰返スモ殆ト成功ノ見込ナキヲ以テ、右翼隊長ハ同堡壘ニ對スル突撃ヲ一先ツ中止シ、更ニ專心盤龍山新砲臺ニ對スル突撃ヲ施行セント決セリ、

是ヨリ先キ日高地及ヒ望臺ニ向ヒタル左翼隊、及ヒ盤龍山新砲臺ニ向ヒタル右翼隊ノ一部ハ、各目的點ニ對シテ數回ノ突撃ヲ行ヒシモ、支那圍壁ニ妨ケラレ、何レモ其ノ目的ヲ達セス、突撃隊ハ敵火ノ爲メ屢全滅ノ悲境ニ陥リ、日没ニ至ルモ戰況毫モ發展セス、是ニ於テ第九師團長ハ幕僚ヲ從ヘ、午後八時盤龍山東堡壘ニ前進シ、兩翼隊長ニ向ヒ、第十一師團ノ突撃ト連繫シ、午後十一時ヲ期シ、右翼隊ハ鉢卷山ヨリ盤龍山新砲臺ニ向ヒ、左翼隊ハ盤龍山東西兩砲臺ヨリ日高地ニ向ヒ、突撃ヲ行フヘキヲ命シ、乃チ兩翼隊ハ更ニ突撃部署ヲ定メ、十一時ヨリ突撃ヲ再興セシニ、忽チ大損害ヲ受ケテ退却スルニ至レリ、是ニ於テ第九師團長ハ全

般ノ情況ニ鑑ミ、到底突撃ノ效ナキモノト判斷シ、突撃中止ヲ命シ、此ノ旨ヲ乃木第三軍司令官ニ報セリ、

百九十八

第十一師團方面

第十一師團ハ、午後一時東鷄冠山北堡壘ノ胸牆爆破ヲ行フト同時ニ、同堡壘P堡壘後方ノ支那圍壁、及ヒ東鷄冠山堡壘前面ノ散兵壕ニ對シテ齊シク突撃ヲ實行セリ、而テ東鷄冠山北堡壘ノ爆破ハ勢極テ猛烈ナリシモ、其ノ結果ハ唯胸牆ノ一部ヲ破壊シタルニ過キスシテ、豫期ノ效果ヲ收ムル能ハス、同堡壘攻撃隊(步兵第二十二聯隊)ハ、爆發ト同時ニ二個中隊ヲ以テ、直ニ正面胸牆ノ巔頂ニ攀登シ、壘内ノ敵ト爆發戰ヲ交ヘ、我カ一部隊ハ將校ノ先登ニ踵テ堡壘内ニ突入シ、敵ト格闘セシモ、敵火ノ爲メ突撃隊殆ト全滅ニ陥リタルヲ以テ、攻撃隊長ハ更ニ一個中隊ヲ増援セシカ、忽チ前同様ノ結果ニ終レリ、之ト同時ニ他ノ四個中隊ハ、同堡壘左方ノ咽喉部ニ向ヒ突撃セシニ、其ノ先頭中隊ハ突撃陣地ヲ出ルヤ否ヤ、敵機關砲ノ爲メ大損害ヲ受ケテ殆ト全滅ノ姿トナリ、殘餘ノ三個中隊モ亦附近ヨリスル敵火ノ爲メ損害ヲ蒙レリ、仍テ攻撃隊長ハ咽喉部突撃ヲ止メ、此ノ三個中隊ヲシテ更ニ堡壘正面ヨリ突撃セシメタルモ、敵ノ爆發ニ因リテ大損害ヲ被リ、刻一刻悲境ニ陥ラントス、是ニ於テ第十一師團長ハ、同師團ノ豫備隊タル二個中隊ヲ攻撃隊ニ増加シ、尙モ同堡壘ノ攻奪ヲ督促セリ、午後三時攻撃隊長ハ、自ラ軍旗ヲ奉シテ必死ノ突撃ヲ行ヒシモ、其ノ結果意ノ如クナラス、纔ニ胸牆ニ攀據セル突撃隊ハ、堡壘内部ヨリ投擲スル爆發ノ爲メ、漸次死傷ヲ増加スルノミニシテ、戰況更ニ進歩セス、

P堡壘後方ノ圍壁及ヒQ堡壘ニ向ヒタル突撃隊モ、亦勇猛果敢ニ敵ニ肉薄シ、爆發ヲ投シテ激戰セシモ、北堡壘機關砲ニ妨ケラレ、占領困難ナルヲ以テ、同堡壘ノ攻撃進歩スルヲ待チテ、更ニ突撃ヲ再行スルコト、シ、一先攻撃ヲ中止セリ、又東鷄冠山堡壘ニ向ヒタル突撃隊ハ、一旦同堡壘前方ノ散兵壕ヲ奪取シタルモ、午後四時頃優勢ナル敵ノ逆襲ヲ受ケ、互ニ猛烈ナル爆發戰ヲ行ヒタル後、我カ守兵ノ大部死傷セルカ爲メ、遂ニ之ヲ維持スルコト能ハス、已ムヲ得ス前陣地ニ退却セリ、

爾後夜ニ至ルモ、師團ノ攻撃ハ各方面トモ豫期ノ成果ヲ收ムルコト能ハス、仍テ第十一師團長ハ全軍ノ戰局發展ヲ促サンカ爲メ、是非トモ東鷄冠山北堡壘ヲ奪取セント圖リ、午後十時師團最後ノ豫備隊タリシ歩兵一中隊ヲ同堡壘攻撃隊長ノ指揮ニ屬シ、最後ノ突撃ヲ決行セントセリ、

特別支隊

歩兵第二旅團長中村少將ノ指揮スル軍ノ特別豫備隊ハ、二十六日早朝ヨリ、水師營東方谷地ニ集合シテ發動ノ命ヲ待チシカ、同日午後五時乃木第三軍軍司令官ヨリ左ノ訓令ヲ受ケタリ、

一、貴官ノ指揮スル特別支隊ハ敵ノ不意ニ乘シ要塞内ニ侵入シ敵ノ防禦線ヲ兩斷シ以テ要塞ノ陷落ヲ速ナラシムルニ在リ

二、貴官ハ以上ノ目的ヲ達成スル爲メ本夜夜暗ヲ利用シ先ツ松樹山補備砲臺附近ノ敵壘ヲ奪取シ此ニ立脚地ヲ占メ次ニ猛烈果敢ニ王家屯東方高地上ニ在ル複郭ノ一部ヲ奪取シ此ニ據點ヲ構成シ成シ得ハ白玉山ヲ攻略シ萬一不幸ナル情況ニ際シテハ其ノ地ヲ死守シテ

以テ軍ノ來援ヲ待ツヘシ

三、報告ニ關シテハ貴官ノ指定シタル記號ノ外機ヲ失セス且確實ニ傳達シ得ヘキ方法ヲ採リ軍ノ作戰ヲ有利ナラシムルコトヲ勉ムヘシ

是ヨリ先キ中村特別支隊指揮官ハ、二十五日正午中隊長以上ノ將校ヲ水師營西南標高九三米突高地ニ招集シ、攻撃計畫ノ概要ヲ示シ、且左ノ命令及ヒ附記ノ注意竝ニ約束ヲ與ヘタリ、

一、軍特別豫備隊タル諸隊ハ來二十六日午前五時頃マデニ水師營東方谷地(眼鏡高地ノ北脚)ニ集合スヘシ

二、服裝ハ將校以下輕裝ニシテ防寒用外套ヲ着用スヘシ
乘馬將校ハ徒步トス

三、諸隊ハ二十六日晝食分マテ常食ヲ携行シ同日夕刻ヨリ携帶口糧ヲ用フヘシ

四、諸隊ハ携帶器具(小十字鉞及ヒ方匙)鐵線鋏手投爆藥及ヒ國旗(小隊ニ一本)ヲ携行スヘシ

五、工兵小隊ハ若干ノ爆藥及ヒ携帶梯子二個ヲ携行スヘシ

六、大小行李ハ總テ原隊ニ殘留スヘシ但衛生材料ハ集合地ヘ携行スヘシ

七、各人ハ携帶口糧三日分及ヒ襪用白布ヲ携行シ又執銃者ハ彈藥二百五十發ヲ携帶スヘシ

注意竝ニ約束

一、特別支隊ハ最名譽ノ支隊ナリ然レトモ亦非常ノ困厄ニ遭遇スルコトアルヘシ只一人モ生キテ還ルヲ期スヘカラス決死以テ目的ノ達成ニ努ムヘシ

二、本職ノ次ニ第二指揮官トシテ步兵第二十五聯隊長渡邊大佐(編者曰ク名ハ水哉)次ニ第三指揮官トシテ步兵第十五聯隊長大久保中佐(編者曰ク名ハ直道)ヲ豫定ス聯隊長以下ニ於テモ右ニ準シ順次

己ニ代リ指揮スヘキモノヲ豫定シテ豫メ之ヲ部下ニ告ケ置クヘシ

三、夜間ニ於ル襲撃ハ銃劍突撃ヲ以テ主トスヘシ而テ松樹山補備砲臺ニ突入スルニ至ルマテハ假令敵ノ猛射ヲ受クルモ一發タリトモ應射スルヲ嚴禁ス

前記砲臺占領後ハ彼我ノ識別最分明ニシテ毫モ疑ナキ時ニ限り射撃スルコトヲ許ス

四、前後左右鄰接部隊及ヒ各縱隊間ニ於ル連絡ハ密ニ之ヲ保チ鄰接部隊若クハ先方部隊等ト互ニ相見失フカ如キコトアルヘカラス

五、前進目標竝ニ其ノ目的等ハ一般ニ知悉セシメサルヘカラス

六、隊長ハ部下ヲ集結スルニ全力ヲ盡スヘシ部下モ亦隊長ノ手裡ヲ脱セサルコトニ最意ヲ用フヘシ

七、堡壘ノ正面ニ當ラハ之ヲ避ケ總テ側背ヨリ之ニ迫ルコトヲ計ルヘシ

八、集團セル敵ニ遭遇セハ其ノ兵力ノ幾何ヲ顧慮セス躊躇スルコトナク之ニ向ヒ突撃スヘシ

九、故ナク後方ニ止リ又ハ隊伍ヲ離レ若クハ退却スルモノアラハ幹部ニ於テ之ヲ斬殺スヘシ

十、壕又ハ斷崖ニ遭遇シ之ヲ超越スルコト能ハサルトキハ之ニ沿ウテ側方ニ轉進シ通過點

ヲ求ムヘシ此ノ場合ニ於テハ目標ヲ誤ラサルコトニ最注意スヘシ

但壕ノ通過法等ハ豫メ充分ナル研究ヲナシ且之ヲ一般ニ教示シ置クコト肝要ナリ

十一、敵ノ電信線又ハ電話線等ヲ發見スルトキハ直ニ之ヲ切斷スヘシ

但強キ電流ノ通シアルヘキ慮アルトキハ之ヲ切斷スルノ器具ニ注意ヲ要ス

十二、敵ノ將帥ト認ムルモノハ之ヲ生擒スルヲカムヘシ若シ生擒ノ見込ナキトキハ機ヲ失

セス之ヲ射撃スヘシ

十三、所屬部隊ヲ見失ヒタルモノハ直ニ附近ノ部隊ニ合シ行動スヘシ

十四、彈藥ノ補給ハ最困難ナリ故ニ特ニ之カ節用ニ注意スヘシ

十五、死傷者ノ保護ハ衛生部員ニ一任スヘシ故ニ毫モ之カ保護ニ留意スルコトナク一意前進スヘシ

十六、彼我ノ識別ヲ容易ナラシムル爲メ支隊ニ屬スルモノハ總テ右肩ヨリ左腕ニ白木綿ヲ

懸クヘシ但之ヲ懸クルハ夜間ニ限ルモノトス又第一師團ノ步兵第二、第三聯隊ニ於テモ

夜間ハ同様ノ徽章ヲ懸ルモノトス

十七、豫備ノ彈藥及ヒ糧食ハC(編者曰ク水師營南方堡ノ堡壘ニ之ヲ貯積シアリ依テ同所ニ就キ

之カ補充ヲ受クヘシ

十八、夜間ニ喫煙又ハ火光ヲ發スルコトヲ嚴禁ス

十九、赤十字ノ徽章アル家屋ニ亂入シ又ハ射撃ヲ加ヘサルハ勿論非戰鬥員タルコト明瞭ナ

ルモノニハ決シテ害ヲ加フヘカラス

既ニシテ午後六時ニ至ルヤ、同支隊ハ味方徽章タル白布ヲ纏トシ、三千ノ將士肅然聲ヲ潛メテ
集合地ヲ發シ、第一師團特別步兵聯隊、步兵第十二聯隊第一大隊、支隊司令部、步兵第三十五聯隊第
二大隊、工兵第九大隊ノ一小隊、步兵第二十五聯隊ノ行軍序列ヲ以テ前進セリ、時ニ各方面ノ砲聲漸
ク衰ヘ、暮色蒼然トシテ風寒ク、椅子山方面ノ探照燈獨リ靜ニ我カ前程ヲ照スアルノミ、午後七
時三十分第二集合地タル、松樹山堡壘西北斜面地隙附近ニ達シテ集合シ、先頭タル特別聯隊ハ八
時四十分前進ヲ起シ、步兵第十二聯隊第一大隊之ニ次キ、爾餘ノ諸隊ハ第二集合地ニ停止セリ、特別
聯隊ハ同五十分松樹山西方谷地ニ達シ、鐵條網切斷ノ爲メ若干ノ兵ヲ派遣セシカ、時ニ月將ニ昇
ラントシ、敵ニ發見セラル、ノ慮アリシヲ以テ、同聯隊ハ直ニ松樹山補備砲臺西北角ニ向ヒ、猛
然トシテ突撃ヲ決行セリ、敵ハ探照燈ヲ點シ光彈ヲ發シ、小銃ヲ亂射シ、爆彈ヲ投擲セシモ、我カ
突撃隊ハ毫モ屈セス鐵條網ヲ突破シ、銃劔ヲ振ツテ烈猛果敢ニ第一胸牆ニ突進シ、敵ト接戰格
闘セシニ、此ノ時地雷ノ爆發スルモノ兩三回ニ及ヒ、我カ死傷算ナク、第二胸牆ニ據レル敵ハ益々爆
藥ヲ投擲シ、硝煙朦トシテ咫尺ヲ辨セス、爲メニ我カ前隊ハ遂ニ潰亂シ、後隊ハ自ラ第一胸牆ノ線
ニ停止セリ、仍テ我カ將校ハ益々部下ヲ督勵シ、硝煙ヲ潛リテ挺身奮闘シタルモ、敵ハ増援ヲ得テ
抵抗愈々強ク、其ノ投擲スル無數ノ爆藥ノ爲メ、我カ兵死傷續出シ、突撃隊ハ漸ク苦戰ニ陥レリ、中
村支隊長ハ特別聯隊苦戰ノ狀ヲ知り、步兵第十二聯隊第一大隊ヲ増加セシモ其ノ效ナク、更ニ步
兵第三十五聯隊第二大隊、工兵小隊及ヒ步兵第二十五聯隊ヲ陸續増加シ、數回突撃ヲ實施シタル

モ目的ヲ達スルニ至ラス、敵ハ益々増加シ、機關砲ヲ出シテ我カ右側背ヲ亂射シ、松樹山堡壘ヨリハ我カ左側背ヲ猛撃シ、椅子山、案子山方面ヨリノ砲火ハ愈々激烈トナリ、我カ損害次第ニ増加シテ、支隊長中村少將重傷ヲ負ヒ、戰況益々悲境ニ陥ルニ至レリ、是ニ於テ第二指揮官渡邊大佐代ツテ支隊ヲ指揮シ、殘兵ヲ糾合シテ更ニ突撃ヲ行ヒシモ、復其ノ效ナク、正子頃ヨリ突撃隊ハ逐次退却スルニ至レリ、而テ敵ハ之ヲ見テ忽チ攻勢ニ轉シ、松樹山砲臺ト齊頭面マテ追撃シ來リ、我カ兵殆ト潰敗ニ陥リ、各自逃路ヲ求メテ四方ニ散亂セリ、(是ヨリ先キ軍司令官ハ特別支隊苦戰ノ報ニ接シ成功ノ見込ナキヲ認メテ退却ヲ命セリ)此ノ如ク、二十六日ニ於ル突撃ハ、極テ勇敢猛烈ニ實施セラレシモ、敵ノ堡壘ハ我カ豫想以上ノ強度ヲ有シ、各方面トモ毫モ良好ナル發展ヲ見ス、多大ノ望ヲ屬シタル特別支隊モ遂ニ全然敗滅ニ終リタリ、然レトモ乃木第三軍司令官ハ損害ヲ意トセス、斷乎タル決心ヲ以テ飽クマテ成功ヲ期シ、二十七日午前二時新銳ノ歩兵十四旅團(第七團圖)ヲ第九師團ニ増加シ、同師團長ニ向ヒ、拂曉マテ更ニ突撃ヲ再行スヘキヲ命セシニ、同師團長ヨリ、我カ攻撃ノ成功セサルハ、我カ兵數ノ不足ニ因由スルニアラスシテ、敵防禦ノ堅銳ナルニ基クモノナルヲ以テ、再同一ノ方法ヲ繰返スモ到底成功ノ見込ナク、且今ヨリ第十四旅團ヲ招致スルモ、拂曉マテニ之ヲ使用スルコト難シ、故ニ寧ロ天明ヲ待チテ攻撃ヲ再興スルニ如カストノ意見具申アリタルニ依リ、軍司令官ハ之ニ從ヒテ夜間ノ攻撃ヲ中止シ、天明後更ニ精密ナル砲撃ヲ加ヘ、少クモ支那圍壁ノ一部ヲ破壊シ、其ノ成果ノ顯ル、ヲ待チ、新銳ノ兵力ヲ以テ二龍山方面ヨリ再突撃ヲ行ハント決シ、各師團ニ此ノ旨ヲ通シ、目下ノ占領地區ヲ確實ニ保持スヘキヲ命セリ、然ルニ其ノ後諸方面ヨ

リ到ル情報ハ總テ悲觀的ニシテ、敵壘構造ノ堅固ナルコト、守兵抵抗ノ頑強ナルコト等ヲ列擧シ、幾回突撃ヲ繰返スモ徒ニ損害ヲ蒙ルノミニシテ成功ノ望渺キ旨ヲ述ヘサルハナシ、是ニ於テ軍司令官ハ遂ニ前決心ヲ變シ、望臺方面高地ニ對スル攻撃ヲ中止シ、更ニ二〇三米突高地ヲ奪取スルコトニ決シ、二十七日午前七時之ニ關スル軍命令ヲ發シ、茲ニ第三回總攻撃ノ局ヲ結ヘリ、此ノ日土屋第十一師團長ハ、敵彈ニ傷ツキ入院スルニ至リタルヲ以テ、歩兵第十旅團長陸軍少將山中信義代ツテ師團ヲ指揮セシカ、尋テ戰況視察ノ爲メ、第三軍ニ隨從セル鮫島陸軍中將、同師團長ニ補セラレタリ、今回ノ攻撃ハ、各師團何レモ必成ヲ期シ、突撃ノ如キハ最勇敢ニ決行セラレ、各方面ニ於ル我カ損害ハ實ニ六千六百餘名ニ達シ、或ハ大尉ニシテ聯隊ヲ指揮シ、或ハ下級下士ニシテ中隊ヲ率非、甚シキニ至リテハ、一中隊ノ殘員僅ニ數名ニ過キササルモノアルニ至リシ等、戰鬪最激烈ヲ極メタリ、

第十節 標高二〇三米突高地ノ攻略

誓テ成功ヲ期シタル第三回總攻撃モ、亦其ノ效ヲ奏セサルヲ以テ、乃木第三軍司令官ハ終ニ前決心ヲ變シ、十一月二十七日午前七時、左ノ軍命令ヲ發セリ、

- 一、軍ハ一時攻撃正面ニ於ル攻撃ヲ中止シ更ニ二〇三高地ヲ攻撃シテ之ヲ奪取セントス
- 二、攻城砲兵ハ今ヨリ二〇三高地ニ對スル砲撃ヲ開始シ主トシテ二十八榴彈砲ヲ以テ敵堡壘ニ向ヒ破壊射撃ヲ施行スヘシ

三、第一師團ハ砲撃ノ成果現ル、ヲ待チ日没頃ヲ以テ二〇三高地ニ向ヒ突撃ヲ實施シ同高地ヲ占領スヘシ

四、他ノ正面特ニ從來ノ攻撃正面ニ在リテハ勉メテ攻撃動作ヲ繼續シ二〇三高地ノ攻撃ニ對シ當面ノ敵ヲ牽制スヘシ

五、軍司令部ハ午後八時ヨリ柳樹房ニ復歸ス

抑二〇三米突高地ハ、椅子山ノ西方約二千七八百米突、新市街中心ノ北東約三千五百米突ニ在ル獨立山丘ニシテ、其ノ巔頂ハ緩斜面ノ鞍部ヲ以テ、北東及ヒ南西ノ二峰ニ分レ、兩巔間ノ距離約百餘米突アリ、其ノ位置ハ一般堡壘線ノ圈上ヨリ稍外方ニ凸出シ所謂敵ノ第二期豫定防禦計畫地區ニ屬スルモノニシテ、敵ハ未タ之ニ永久堡壘ヲ設ケサリシト雖モ、同高地ハ實ニ旅順口陸正面北西部ニ於ル最高地ニシテ、新市街及ヒ西港ノ全部ト東港ノ一部トヲ俯瞰シ得ルヲ以テ、軍港ノ防禦上最重要ノ地點タリ、然ルニ開戦ノ當時ニ於テハ、敵ハ未タ此ノ地ニ重キヲ置カサリシモノ、如ク、比較的薄弱ナル臨時防禦ヲ施シタルニ過キサリシカ、港内ニ對スル我カ間接射撃ヲ開始セラル、ニ及ヒテ、俄ニ防備ノ必要ヲ感シタルカ如ク、爾來銳意力ヲ之カ防禦工事ニ竭シ、其ノ地形ノ峻嶮ナルト、地質ノ圪堵性ナルトヲ利用シ、塹壕ハ上下三段ニ掘鑿シ、之ニ豐富ナル諸種ノ材料ヲ以テ掩蓋ヲ作成シ、中央鞍部ニハ暗路ヲ設ケル等、今回攻撃ノ際ニ至リテハ、防備ノ堅固ナルコト、永久築城ト多ク相讓ラサルニ至レリ、加フルニ同高地ノ北東約三百米突ニハ、標高百五十米突ヲ有スル赤坂山アリテ、堅固ナル臨時堡壘ヲ設ケ、二〇三米突高地

ト互ニ側防ノ關係ヲ有スルヲ以テ、之カ攻撃保持共ニ極テ困難トスル所タリ、

第三軍ハ初回總攻撃ニ際シ、望臺一帶ノ高地ヲ以テ主攻擊點ニ選定シタルカ爲メ、二〇三米突高地方面ニハ比較的少數ノ兵力ヲ配備シ、主トシテ牽制運動ヲ取ラシメシカ、第一回總攻撃中止後、乃木第三軍司令官ハ、要塞ノ攻略ニ先タチ、港内敵艦ヲ砲撃センカ爲メ、敵ノ錨地ヲ瞰制シ得ヘキ地點ヲ攻略セント欲シ、九月十九日ヨリ二〇三米突高地ニ對スル攻撃ヲ開始シ、一旦其ノ南西巔頂ヲ占領シタルトモ、之ヲ維持スルコト能ハス、遂ニ目的ヲ達セスシテ攻撃ヲ中止セリ、爾來軍ハ專ラ望臺方面ニ對スル攻撃再興ノ準備ニ努メ、十月下旬ヲ以テ第二回總攻撃ヲ行ヒシモ、復其ノ功ヲ奏セス、然ルニ此ノ時ニ當リ、敵ノ増援艦隊ニ對スル我カ海軍ノ作戰上、大本營ニ於テハ、旅順口敵艦隊ノ處分ハ刻下ノ最大急務ニシテ、之カ唯一ノ手段ハ、先ツ二〇三米突高地ヲ占領シ、以テ敵艦砲撃ヲ開始スルニ在リト爲シ、此ノ旨ヲ大山滿洲軍總司令官及ヒ乃木第三軍司令官ニ致シテ同高地ノ占領ヲ懇懇シ、東郷聯合艦隊司令長官モ亦乃木第三軍司令官ニ告クルニ聯合艦隊ノ現狀ヲ以テシ、且ツ次回ノ攻撃ニハ、二〇三米突高地ノ占領ヲ以テ有利ナリト認ムル旨ヲ通セシニ、軍ニ於テハ、從來取リ來リタル諸般ノ關係竝ニ作戰上、今俄ニ同高地ノ攻奪ニ著手スルコト能ハス、且望臺方面高地ノ占領ハ、皆ニ敵艦隊ニ對スル爲メノミナラス、尙要塞全般ノ死命ヲ制スルモノナルヲ以テ、次回ノ攻撃ニ於テハ依然舊方針ニ從ヒ、望臺方面ノ占領ヲ努ムルヲ有利ナリト判定シ、大山滿洲軍總司令官モ亦此ノ意見ヲ贊シ、遂ニ第三回總攻撃ヲ見ルニ至レリ、然レトモ軍司令官ハ、若シ不幸ニシテ望臺方面ニ對スル第三回總攻撃功ヲ奏

セサル時ハ、直ニ二〇三米突高地ノ攻略ニ轉スルコトニ決シ、十一月中旬ヨリ、更ニ同高地ニ對スル攻撃工事ニ着手セシメタリ、

斯テ十一月二十七日ニ至リ、軍ノ攻撃點ヲ二〇三米突高地ニ變スルヤ、二十八榴榴砲及ヒ其ノ他ノ諸砲ハ、直ニ同高地ニ對スル突撃準備射撃ヲ開始シ、第一師團長ハ攻撃部隊ヲ區署シ、師團ノ右翼隊(後備歩兵第一旅團)ヲシテ同高地西南ノ巔頂及ヒ鞍部ヲ攻撃セシメ、中央隊(歩兵第一旅團)ヲシテ同高地ノ東北巔頂及ヒ赤坂山ヲ攻撃セシメント計畫セリ、己ニシテ同日夕頃ニ至リ、我カ砲撃ノ成果ハ漸次發揚シ、敵ノ第一散兵壕ニ在ル鐵掩蓋ノ大部ハ破壊シタルヲ以テ、各突撃隊ハ豫定ノ如ク、午後六時突撃ヲ開始セリ、敵ハ二〇三米突高地ノ兩巔頂竝ニ鞍部、赤坂山及ヒ陣笠山(二〇三米突高地ノ南)等ヨリ互ニ牽援協應シテ、盛ニ小銃機關砲ヲ發射シ、且多數ノ爆藥ヲ投擲シ、爲メニ我カ突撃隊ハ忽チ多大ノ損害ヲ蒙リシモ、赤坂山ニ向ヒタルモノハ、一氣ニ頂上ニ奮進シテ敵ノ散兵壕ヲ奪取セシカ、幾モナク猛烈ナル逆襲ヲ受ケテ奪回セラレ、二〇三米突高地西南角ニ向ヒタル一部隊モ亦多大ノ損害ヲ冒シ、巔頂直下ニ在ル敵ノ第一掩蓋線ノ一部ヲ占領セシモ、敵火ノ爲メ更ニ巔頂ニ進出スルニ由ナク、辛ウシテ現位置ノ保持ニカマル中、太陽溝及ヒ老鐵山方面ノ諸砲臺ヨリ集射ヲ蒙リ、殊ニ太陽溝方面ヨリ發射スル大口徑爆裂榴彈ノ爲メ、我カ突撃隊ノ大部分ハ粉齧セラレ、殘兵ハ再後方陣地ニ退却スルニ至レリ、仍テ各突撃隊長ハ益々第一線ニ増兵シ、爾後屢突撃ヲ決行セシモ、巔頂ヨリ投スル爆藥ト、側背ヨリノ銃砲火トニ妨ケラレ、各方面トモ遂ニ目的ヲ達スルコト能ハス、纔ニ若干ノ防禦工事ヲ敵前ニ施シ、終夜

爆藥戰ヲ以テ敵ト相對峙セリ、

狀況斯ノ如ク、敵ノ抵抗尙強烈ナルヲ以テ、第一師團長ハ翌二十八日早朝ヨリ更ニ砲撃ヲ加へ、午前八時ヲ期シテ突撃ヲ再行スルコトニ決シ、二十八榴榴砲ハ同日拂曉ヨリ、極力二〇三米突高地ニ對シテ破壊射撃ヲ開始シ、野戰重砲及ヒ野砲等ハ主トシテ殺傷射撃ヲ行ヒ、午前八時敵兵稍動搖ノ狀アルニ乘シ、各突撃隊ハ齊シク目的點ニ向ヒテ突撃ヲ開始セリ、敵ハ我カ前進ヲ見ルヤ、忽チ起チテ爆藥及ヒ銃砲火ヲ以テ頑強ニ抵抗セシモ、我カ各突撃隊ハ損害ヲ意トセス、死屍ヲ越エテ奮進シ一氣ニ敵壘ニ向ヒ突撃セリ、乃チ西南角突撃隊ハ再敵ノ第一掩蓋線ノ一部ヲ占領シ、増援兵ヲ合シ、全力ヲ擧ケテ更ニ巔頂ニ向ヒテ突撃シ、奮戰苦闘遂ニ同巔頂全部ヲ略取セシニ、敵ハ我カ突撃隊ノ巔頂ニ進ミ出ツルヲ見ルヤ、忽チ附近ノ陣地及ヒ砲臺等ヨリ砲銃火ヲ猛射シ、爆藥ヲ亂擲シ、尋テ逆襲ヲ行ヒ、我カ兵悉ク死傷シ、同巔頂ハ再敵ニ奪回セララルニ至レリ、右翼隊長ハ此ノ狀況ヲ見テ、益々援隊ヲ増派シ、突撃隊モ亦猛然トシテ突進シ、漸ク西南部巔頂ノ一部ヲ回復シテ之ニ占領工事ヲ施シ、纔ニ其ノ位置ニ固著シテ日没ヲ待テリ、又赤坂山ニ向ヒタル突撃隊ハ、敵ノ十字火ノ爲メ、隨テ進メハ隨テ全滅セラレ、到底成功ノ見込ナキヲ以テ、一旦突撃ヲ見合シテ更ニ砲撃ヲ行ヒ、其ノ成果ノ現ル、ヲ待チテ、午後四時四十分突撃ヲ再行シ、猛烈ナル爆藥ト小銃火トヲ冒シ、奮然トシテ敵ノ第一線ニ突入セシモ、尋テ優勢ナル逆襲ヲ受ケ、我カ突撃隊ハ難戰苦闘ノ末遂ニ再舊位置ニ退却スルニ至レリ、之ト同時ニ二〇三米突高地ノ東北角ニ向ヒタル突撃隊ハ、苦戰ノ末日没後ニ至リテ漸ク巔頂ノ一部ヲ占領シ、

西南角ニ於テモ亦巔頂ノ殆ト全部ヲ占領スルコトヲ得タリ、
 斯ノ如ク二十八日夜ニ至リテ、二〇三米突高地ノ兩巔頂ハ我カ兵殆ト之ヲ占領シ、戰機稍發展
 ノ狀ヲ呈セシカ、二十九日午前一時前後ニ於テ、兩巔頂トモ猛烈ナル敵ノ逆襲ヲ受ケテ、再其ノ
 奪還スル所ト爲リ、殊ニ東北巔頂ノ如キハ、幹部悉ク殲レ、殘卒ニ依リテ纔ニ支持セシ第一掩蓋
 線モ亦敵ノ奪フ所ト爲リ、我カ兵遂ニ山腹ノ攻路頭マテ退却スルニ至レリ、是ニ於テ第一師團
 長ハ現況ヲ軍司令官ニ報告シ、且之ニ附加スルニ、本師團ハ今ヤ突撃ヲ再行スルノカナク、成シ
 得ル限り現線ヲ守備セントス、トノ意見ヲ以テセリ、
 乃木第三軍司令官ハ第一師團長ノ報告ニ接スルヤ、更ニ新銳ノ兵力ヲ加ヘテ極力其ノ目的ヲ
 達センコトヲ期シ、二十九日午前三時第七師團長ニ左ノ命令ヲ下セリ、

一、標高二〇三米突高地及ヒ其ノ附近一帯ノ高地ハ本日午前一時頃敵ノ逆襲ヲ蒙リ奪還セ
 フレタリ

二、貴官ハ其ノ師團(歩兵一大隊)ヲ率非即刻宿營地ヲ出發シ高崎山附近ニ至リ二〇三米突高地
 ヲ攻略スヘシ

第一師團及ヒ目下同師團長ノ隸下ニ在ル諸隊ハ一時貴官ノ指揮ニ屬ス

三、歩兵一大隊ハ軍總豫備トシテ曹家屯附近ニ殘置スヘシ

仍テ第一師團長ハ部下各隊ヲシテ攻撃運動ヲ中止シテ現位置ヲ保持セシメ、以テ第七師團ノ
 來著ヲ待テリ、即チ二〇三米突高地ノ西南部ニ於テハ、第二散兵壕ヲ維持シ、同高地ノ北東部及

ヒ赤坂山ニ於テハ、共ニ突撃準備陣地ヲ支持セリ、
 軍ニ於テハ、敵ニ復活ノ餘裕ヲ與ヘス、迅速果敢ニ攻撃ヲ再行セント冀望セシモ、第七師團ノ運
 動意ノ如クナラス、且同師團ハ未タ當方面ノ地形ニ習熟セサルヲ以テ、已ムヲ得ス此ノ日ハ單
 ニ砲撃ノミヲ行ヒ、翌三十日ヲ以テ突撃ヲ實施セシムルコトニ決シ、二十九日午後四時復左ノ
 要旨ノ軍命令ヲ發セリ、

一、軍ハ飽迄二〇三米突高地ヲ占領セントスルコト

一、第一第七師團(歩兵一大隊)及ヒ目下第一師團長ノ隸下ニ在ル諸隊ハ第七師團長ノ指揮ニ屬
 シ同高地ノ攻略ニ任シ明朝突撃ヲ實施スル等

一、第九第十一師團ハ各其ノ擔任地區ニ於テ從來ノ任務ヲ遂行スル外有力ナル脅威動作ヲ
 爲シ勉メテ當面ノ敵ヲ牽制スルコト

一、攻城砲兵團ハ二〇三米突高地ノ攻撃ヲ援助シ且第十一師團方面ニ於テ勉メテ有利ナル
 目標ヲ射撃シ敵ヲ牽制スルコト

一、野戰砲兵第二旅團(一聯隊)ハ現在ノ位置ヨリ成シ得ル限り二〇三米突高地ノ攻撃ヲ援助
 スルコト

第七師團長ハ、二〇三米突高地攻略ノ命ニ接スルヤ、直ニ高崎山ニ前進シ、第一師團長ニ代リテ
 攻撃部署ヲ定メ、攻城砲兵其ノ他諸砲兵ハ、敵壘ニ對シテ制壓竝ニ破壊射撃ヲ行ヒ、殊ニ二十八
 榴榴砲ハ、二〇三米突高地及ヒ赤坂山ニ對シテ二百餘發ノ砲撃ヲ加ヘ、多大ノ損害ヲ敵ノ構

成物ニ與ヘ、夜間モ亦緩徐ナル射撃ヲ繼續シテ、敵ノ復舊工事ヲ妨碍セリ、翌三十日午前七時ヨリ、各砲兵ハ攻撃諸點ニ向ヒテ更ニ猛烈ナル破壊射撃ニ移リ、彼我ノ砲戰激烈ヲ極メシカ、我カ砲撃ノ成果顯著ニシテ、午前十時頃ニ至リテハ、二〇三米突高地敵壘掩蓋ノ大部分ハ、全ク破壊セラレタリ、是ニ於テ前夜以來突撃ヲ準備セシ我カ攻撃隊ハ、午前十時前進ヲ始メシニ、其ノ攻路頭ヨリ進出スルヤ否ヤ、忽チ敵火ノ爲メ大損傷ヲ蒙リ、殊ニ將校ノ大部分ハ死傷シ、勇敢ナル突撃モ遂ニ功ヲ奏セス、死屍攻路ヲ埋メテ運動益々不便ヲ感スルニ至レリ、然レトモ師團長ハ攻撃隊長ニ向ヒテ益々突撃續行ヲ促シ、突撃隊ハ日没ヨリ更ニ大突撃ヲ敢行シ、喊聲ヲ揚ケツ、損害ヲ意トセス、二〇三米突高地ノ兩巔頂ニ向ヒテ奮進セリ、而テ其ノ東北角ニ向ヒタルモノハ遂ニ山頂ニ突進セシモ、敵亦死守シテ一步モ退カス、彼我互ニ約十米突ヲ距テ、爆藥石塊ヲ投擲シテ亂闘セシカ、此ノ間敵ハ續々援隊ヲ得テ、爆藥ヲ投シツ、間斷ナク逆襲シ來リ、我カ死傷ハ益々増加シ、突撃隊ハ纒ニ現位置ヲ固守シテ以テ援隊ノ到ルヲ待テリ、又西南角ニ向ヒタル突撃隊ハ、運動地域狹長ナルカ爲メ、敵機關砲及ヒ小銃ノ縱射ヲ蒙リ、多大ノ損害ヲ受ケシモ屈セスシテ、遂ニ高地ノ鞍部附近ニ進出シ、殘留セル敵ノ大部ヲ擊殺シ、萬歳ノ歡聲暗ヲ破リテ遠ク後方陣地ニ響キタリ、然レトモ少數ノ殘兵尙鞍部附近ニ據リテ死守シ、二三ノ機關砲ト爆藥トヲ以テ我ニ抗セリ、此ノ時我カ將校ノ多クハ死傷シ、各部隊混淆シテ指揮充分ナラス、敵ハ探照燈ヲ以テ我カ占領地域ヲ照ラシテ砲撃ヲ行ヒ、爲メニ我カ兵頗ル苦戰ニ陥リシモ、敢テ屈セスシテ遂ニ鞍部附近ヲ占領シ、尙石汕ヲ以テ山背ニ在ル敵掩蓋ノ燒棄ニ著手セリ、

是ニ於テ師團長ハ、占領ヲシテ確實ナラシメンカ爲メ、益々援兵ヲ攻撃隊ニ増派シ、東北部巔頂ヲ固守セシ我カ兵モ亦頑強ナル敵ヲ驅逐シ、午後十時頃ニ至リテハ、二〇三米突高地ノ全部殆ト我カ有ニ歸シ、唯少數ノ敵兵殘守シテ爆藥戰ヲ繼續セルアルノミ、尋テ赤坂山ノ西部山頂モ我カ占領ニ歸シ、戰況大ニ發展シタルヲ以テ、乃木第三軍司令官ハ、之ヲ大本營其ノ他各方面ニ通報シ、茲ニ纒ニ愁眉ヲ開クヲ得タリ、

然ルニ翌十二月一日午前三時頃ニ至リ、優勢ナル敵兵爆藥ヲ亂擲シツ、鞍部ニ向ヒテ逆襲シ來リ、其ノ附近ニ在リシ我カ守兵ノ全部ヲ殲シ、尋テ東北部巔頂ヲモ襲ヒ、我カ兵殊死シテ防戦セシモ、戰況漸ク不利ニ陥リ、遂ニ之ヲ維持スルコト能ハスシテ大部ハ後方ニ退却シ、決死ノ一部ハ天明後ニ至ルマテ尙掩蓋中ニ留リシモ、遂ニ支フル能ハス、尋テ午前七時西南部巔頂及ヒ赤坂山モ亦敵ノ爲メニ奪還セラレ、ニ至レリ、仍テ師團長ハ銳意戰況ノ挽回ヲ圖リシモ、唯僅ニ西南部巔頂ノ一部ヲ回復シ得タルノミニシテ、攻撃毫モ進捗セサルヲ以テ、更ニ隊伍ヲ整頓シ、同日午後三時ヲ期シテ攻撃ヲ再始セント計畫セリ、然ルニ當時二〇三米突高地ノ攻撃隊ハ、第一第七ノ兩師團及ヒ後備歩兵第一旅團ノ諸隊ヨリ成リ、二十七日攻撃開始以來突撃已ニ十數回ニ及ヒ、彼我互ニ銃劔ヲ振ヒ、爆藥ヲ投シ、激烈ナル接戦格闘ヲ交ヘタルカ爲メ、幾千ノ死傷者ハ到處ニ散亂シテ收集ノ遑ナク、幹部殊ニ將校ノ大部ハ戰場ニ斃レ、悲惨ノ光景實ニ名狀スヘカラス、殘兵モ亦連日連夜奮闘ノ爲メニ、精氣、體力共ニ盡キテ將ニ餓死ニ瀕セントシ、諸隊ノ混淆紛雜セルコト縛髮亂麻ヨリモ甚シク、斯カル兵ヲシテ更ニ復突撃ヲ決行セシムルモ、到底

成功ノ見込ナキヲ以テ、師團長ハ斷然攻撃ヲ中止シテ一先體力ノ休養、隊伍ノ整頓ヲ敢行スルコトニ決シ、極力現陣地ノ維持ニ努ムルト同時ニ、攻撃準備ノ諸工事ヲ厲行セリ、而テ攻撃開始以來、此ノ方面ニ於ル我カ損害ハ已ニ約七千ニ達シ、敵モ亦全然我カ砲火ニ曝露シテ戦闘セルヲ以テ、其ノ損傷三千ヲ下ヲサルモノ、如シ、

是ヨリ先キ大山滿洲軍總司令官ハ、旅順口方面戦況ノ發展セサルヲ聞キ、十一月二十九日兒玉總參謀長ヲ第三軍ニ派遣セシカ、尋テ十二月一日二〇三米突高地ノ三タヒ敵ノ爲メニ奪回セラレ、我カ軍苦戦中ナル報ニ接スルヤ、更ニ歩兵一個聯隊ヲ北進軍ヨリ割キテ、旅順口方面ニ急派セリ、

東郷聯合艦隊司令長官モ亦第三回總攻撃功ヲ奏セス、二〇三米突高地ノ戦況意ノ如ク進捗セサルノ報ニ接スルヤ、憂慮措ク能ハス、幕僚ヲシテ日々書ヲ岩村第一艦隊參謀(九月十一日第三艦隊參謀ニ)ノ許ニ送ラシメ、萬難ヲ排シテ極力二〇三米突高地ノ奪取ヲ第三軍ニ冀望シ、且海軍ニ於テモ、成シ得ル限り軍ノ便宜ト應援トニ努力スヘク、尙軍ヨリ要求アルニ於テハ、新ニ海軍陸戰隊ヲ編成シ、在來ノモノト合シ、敵壘ニ向ヒ突撃ヲ決行セシムルモ可ナル旨ヲ通セシムルニ至レリ、(第一艦隊參謀海軍中佐秋山真之ヨリ岩村第一艦隊參謀ニ送リタル書面ハ此ノ時ニ於ルニ、聯合艦隊及ヒ第三軍ノ狀況ヲ知悉スルニ足ルモノアルヲ以テ備考文書ヲ參照スヘシ)

一旦攻撃ヲ中止シタル第七師團長ハ、諸般ノ關係上十二月五日ヲ以テ攻撃再始ノコトニ決シ、且從來ノ攻撃法ヲ改メ、最初二〇三米突高地ノ西南嶺頂ヲ奪取シ、尋テ同東北嶺頂ヨリ赤坂山ニ及スコトニ定メ、四日之ニ關スル命令ヲ發セリ、是ニ於テ諸砲兵ハ豫定ノ如ク、翌五日午前

七時ヨリ砲火ヲ二〇三米突高地ニ集注セシカ、其ノ勢猛烈ヲ極メ、爆煙砂塵ト混シテ全山嶺ヲ掩ヒ、掩蓋ヲ破壊シ、岩石ヲ飛散シ、午前九時頃ニ至リテハ、砲撃ノ效果愈々發揚シタルヲ以テ、突撃隊ハ突撃陣地ニ就キ、三十名ツ、一團ト爲リテ、連續二〇三米突高地西南部嶺頂ニ向ヒテ突進シ、辛ウシテ其ノ頂界線ヲ占領セリ、敵ハ各方面ヨリ砲火ヲ茲ニ集中シ、我カ突撃隊ハ忽チ多大ノ損害ヲ受ケタルモ敢テ屈セス、益々後續隊ヲ進メテ遂ニ西南嶺頂ニ達シ、敵火ヲ冒シテ直ニ防禦工事ヲ開始セリ、而テ師團長ハ攻撃隊長ニ命令スルニ、如何ナル理由アルモ一旦占領シタル地區ハ、再敵ニ委スルヲ許サ、ル旨ヲ以テシ、且西南部ノ占領確實ナルノ後ニアラサレハ、兵ヲ東北部ニ出スヘカラサル旨ヲ訓令シ、攻撃隊長ハ銳意占領地區ノ防備ニ努メシカ、午後ニ至リ、前面多數ノ敵兵在ラサルカ如キヲ知リシヲ以テ、乃チ師團長ノ同意ヲ得テ、東北角ニ向ヒ突撃ヲ決行シ、一氣ニ嶺頂ニ攀登シ、西南角占領隊ト協力シテ鞍部附近マテヲ占領シ、敵彈ヲ冒シテ防禦工事ヲ強行シ、且兩嶺頂部ニ機關砲ヲ備ヘ、占領漸ク確實ト爲レリ、仍テ夜間敵ノ逆襲ニ備フルカ爲メ、益々防禦ヲ嚴ニシ、且終夜各方面トモ盛ニ牽制射撃ヲ行ヒシニ、敵ハ今ヤ抵抗ノ力屈シタルモノカ、此ノ夜遂ニ逆襲ヲ爲サス、鞍部附近ニ殘留セシ敵モ次第ニ退却シテ、翌六日午前八時ニ至リ、二〇三米突高地ノ全部ハ確實ニ我カ占有ニ歸シ、尋テ赤坂山ノ敵モ亦自ラ退却セシヲ以テ、戦闘ヲ交ヘスシテ午後一時全ク同山ヲ占領セリ、

十一月二十七日二〇三米突高地ノ攻撃ヲ開始シテヨリ、茲ニ至ルマテ十日ヲ重ネ、敵ハ防禦ノ全カヲ一時此ノ方面ニ傾注シタルカ如ク、抵抗ノ頑強ナルコト實ニ比類ナク、我之ヲ占領スレ

ハ敵復之ヲ奪回シ、攻守互ニ地ヲ更フルコト日ニ數回ニ及ヒ、此ノ間我カ將卒ハ常ニ霜雪ヲ冒シ、飢渴ヲ忘レ、百折屈セス、突撃ヲ決行セシコト前後數十回、時ニ或ハ赤手相搏チ、齒牙相咬ミ、奮戦苦闘遂ニ克ク頑強ノ勁敵ヲ驅逐シテ旅順口要塞ノ關鎗ヲ攻奪シ、海陸戰勢ノ危急ヲ一轉シ、茲ニ始テ戰機發展ノ端ヲ開クニ至レリ、此ノ戰鬪ニ於ル我カ死傷實ニ約八千六百名ニ達セリ、

第十一節 敵艦隊ノ擊滅

開戦ノ當初、戰艦七隻、巡洋艦六隻及ヒ砲艦、驅逐艦等ノ多數ヲ以テ成リタル旅順口ノ敵艦隊ハ、曩ニ巡洋艦「ボヤーリン」自ラ水雷ニ觸レテ大連灣ニ沈没シ、戰艦「ベトロパウロウスク」モ亦我カ機械水雷ニ罹リテ旅順港外ニ爆沈シ、尋テ黃海海戦ニ於テ、戰艦「ツエザレツ非チ」巡洋艦「ヂイヤーナ」同「アスコロド」同「ノーウ非ク」及ヒ驅逐艦數隻ハ、或ハ中立國港灣ニ逃レテ武装ヲ解除シ、或ハ我カ艦隊ノ爲メニ擊沈セラレ、且此ノ間ニ於テ砲艦、驅逐艦等ノ沈没破壊シタルモノ少カラス、然レトモ黃海海戦後、旅順口ノ敵艦隊ハ尙戰艦五隻（「レトウ非ザン」「ボベータ」「ベレスウエ」「ト」「ホルターワ」「セリスストーポリ」）巡洋艦二隻（「バルラーダ」）及ヒ砲艦、驅逐艦十餘隻ヲ有セリ、

同海戦後ニ於ル旅順口ノ敵艦隊ハ、再退嬰ノ策ヲ取り、一ニ艦隊ノ現狀ヲ維持シテ、以テ増援艦隊ノ來著ヲ待ツコトニ決セシカ爲メ、今ヤ敵艦隊ノ處分上、益々速ニ要塞ヲ攻略スルノ必要ヲ認ムルニ至リシカ、八月十九日ヨリ開始シタル我カ第一回總攻撃ハ、不幸ニシテ其ノ功ヲ奏セス、尋テ九月十九日ヨリ實施シタル二〇三米突高地ノ攻撃モ、亦其ノ目的ヲ達セス、敵艦隊ハ愈々

深ク港内ニ固著潛匿スルニ至リタルヲ以テ、陸戰重砲隊ハ九月下旬ヨリ、之ニ對スル間接射撃ヲ開始シ、十月二日ヨリハ二十八榴彈砲モ亦此ノ砲撃ニ參與シ、日々若干ノ命中彈アリシニ依リ、敵艦隊ノ沈滅若クハ脱出ヲ豫期セシニ、敵ハ其ノ錨地ヲ白玉山ノ南方直下ニ移シタルカ爲メ、我カ彈著ノ觀測不可能トナリ、爾來我カ諸砲ハ、敵艦ノ想定位置ニ對シテ連日投射ヲ行ヒシモ、其ノ成果ヲ知ルコト能ハス、要スルニ當時敵ノ各艦ハ、我カ砲撃ノ爲メ多少ノ損害ヲ蒙リタルハ明ナルモ、尙十分航海力ヲ有スルモノト認ムヘク、從テ風雨若クハ暗夜等ニ乘シ、何時脱出ヲ企ツルヤモ圖ラレサルヲ以テ、我カ艦隊モ亦未タ封鎖力ヲ著シク輕減スルコト能ハス、幾多ノ困難ヲ冒シツ、封鎖ヲ續行スルコト、荏苒以テ十一月下旬ニ及ヒシカ、今ヤ戰局ノ推移ハ、旅順口敵艦隊ノ存否如何ニ關セス、十二月上旬ニ至レハ、我カ艦隊ハ次期作戰準備ノ爲メ、封鎖ヲ撤シテ内地ニ引上ケサルヘカラサルノ狀況ト爲レリ、

我カ艦隊ニシテ一タヒ封鎖ヲ撤廢センカ、旅順口ノ敵ハ忽チ物資ノ供給補充ヲ得テ、再活動ノ能力ヲ増シ、要塞ノ攻略愈々困難ト爲ルノミナラス、敵艦隊ハ更ニ黃海方面ニ活躍シテ、我カ滿洲軍ノ後方ヲ脅シ、彼我ノ戰勢茲ニ反轉スルニ至ルヤ必セリ、是ニ於テ第三回總攻撃ニ失敗シタル第三軍ハ、敵艦砲撃ノ目的ヲ以テ、全力ヲ二〇三米突高地ノ攻略ニ竭シ、激戦數日ニ及フモ戰況毫モ進捗セス、同高地全部ノ確實ナル占領ハ、殆ト其ノ期日ヲ豫測シ難キノ状態ニ立至リシカ、幸ニシテ纔ニ占領セル同高地西南角ヨリ、港内敵艦隊ノ殆ト全部ヲ望見シ得ルヲ以テ、軍ニ於テハ、此處ニ觀測所ヲ設置シ、成ルヘク速ニ敵艦砲撃ヲ開始セント欲シ、十二月二日一旦觀

測所ヲ構成シタルモ、忽チ敵彈ノ爲メニ破壊セラレテ砲撃開始ノ目的ヲ達セス、即チ軍ニ於テハ、或ハ現狀ノ儘ニテハ、幾度觀測所ヲ構築スルモ到底敵ノ破壊ヲ免レサルヲ以テ、先ツ高地全部ヲ占領シ、觀測所ヲ確實ニ維持シ得ルニ及ヒテ、敵艦砲撃ヲ開始スヘシト唱へ、或ハ現狀ヲ維持シテ成ルヘク敵ニ發覺セラレサル様觀測射撃ヲ行ヒ、高地全部ノ占領ハ、暫ク延期スルヲ可トスト論シ、諸説紛々タリシモ、刻下ノ大局上敵艦砲撃ハ一日モ之ヲ延引スルコト能ハサルヲ以テ、乃木第三軍司令官ハ、斷然十二月五日ヨリ突撃ヲ再始シ、同時ニ敵艦砲撃ヲ開始スルコトニ決セリ、

二〇三米突高地西南角ヨリ觀測スル所ニヨレハ、敵ノ戰艦「ペレスウエート」「ポルターワ」「レトウ非ザン」「ポベータ」及ヒ巡洋艦「バルラーダ」ハ、白玉山南麓ニ於テ殆ト東西ニ相竝ヒテ碇繋シ、巡洋艦「バヤーン」及ヒ水雷敷設艦「アムール」ハ東港南岸ニ繫泊シ、此等ノ諸艦ハ何レモ其ノ船體全部ヲ認メ得ルモ、獨リ戰艦「セレストーポリ」ノミハ、東港内ノ船渠若クハ其ノ附近ニ繫留セルモノ、如ク、僅ニ其ノ檣頭ヲ望見シ得ルニ過キスト云フ、

第三軍ハ豫定ノ如ク、十二月五日再ニ二〇三米突高地ニ對スル攻撃ヲ開始シ、同時ニ港内軍艦ヲ砲撃センカ爲メ、早朝ヨリ之カ觀測其ノ他ノ準備ニ著手セシカ、敵彈ノ爲メ觀測通信用電話線屢切斷セラレ、午後二時ニ至リテ漸ク砲撃ヲ開始スルコトヲ得、礮盤溝ニ在ル二十八榴彈砲二門ハ「ペレスウエート」ヲ、鞠家屯ニ在ル同砲二門ハ「ポルターワ」ヲ、各砲撃スルコト約三十分ニシテ、敵彈ノ爲メ觀測所破壊セラレ、通信不可能トナリシヲ以テ、已ムヲ得ス射撃ヲ中止セリ、此

ノ日「ポルターワ」ニ對スル射撃ハ僅ニ三發ニ過キサリシモ、内一發ハ同艦ノ彈藥庫ニ命中シテ之ヲ爆發セシメ、火災一時間半ニ及ヒ、同艦ハ遂ニ沈没シテ翌朝中甲板マテ浸水スルニ至レリ、而テ六日敵ハ全ク防守ノ力竭キ、遂ニ二〇三米突高地ヲ拋棄シタルモノ、如ク、五日ノ夜自ラ退却シ、我方軍ノ同高地占領ハ茲ニ愈々確實ト爲リタルヲ以テ、同日正午ヨリ益々猛烈ニ敵艦ヲ砲撃シ、即チ礮盤溝ニ在ル二十八榴彈砲二門ハ、前日ニ引續キ「ペレスウエート」ニ向ヒテ百零五發ヲ放チ、十數發ノ命中彈中四發ハ其ノ要部ニ命中シ、爲メニ同艦ハ戰鬥力ヲ失ヒタルカ如キヲ以テ、同砲臺ハ午後四時ヨリ目標ヲ「バルラーダ」ニ變シ、日没マテニ二十八發ヲ放チテ一發ノ命中彈ヲ得タリ、姜家屯ニ在ル同砲四門ハ、此ノ日始テ砲撃ニ加リ「レトウ非ザン」ニ對シ發射彈數五十二發中七發命中シ、爲メニ同艦ハ著シク左舷ニ傾斜シ、陸上ヨリ舳索ヲ取りテ纜ニ覆沒ヲ防ケルカ如ク、艦内寂トシテ人影ヲ見サルヲ以テ、午後二時目標ヲ「バヤーン」ニ移シ、三十一發中四發ノ命中彈ヲ得タリ、又鞠家屯ニ在ル同砲二門ハ「ポベータ」ニ對シテ六十三發ヲ放チ同艦ニ四發命中シ、「レトウ非ザン」及ヒ「バルラーダ」ニ各一發ツ、命中セリ、此ノ日敵ノ各艦ハ、其ノ一箇ノ煙突ヨリ煤煙ヲ揚ケツ、アルモ艦内多ク人影ヲ見ス、港内モ亦寂寞トシテ汽艇、端舟等ノ交通極テ少ク、唯「バヤーン」及ヒ「バルラーダ」ノ兩艦ハ、時々陸上ニ向ヒテ緩射スルヲ見ルノミ、同日夕刻ニ至リ、「ポルターワ」ハ益々沈下シテ浸水上甲板ニ達シ、「レトウ非ザン」ノ傾斜ハ殆ト二十度ニ及ヘリ、惟フニ敵ハ今ヤ全ク脱出ノ念ヲ絶チ、其ノ艦體ヲ以テ、我方砲火ノ下ニ委棄シタルモノ、如シ、

七日濛氣ノ散スルヲ待チテ正午前ヨリ砲撃ヲ開始シ、礮盤溝砲臺ハ「バルラーダ」ニ向ヒ、六十三發ヲ放チテ八發命中シ、鞠家屯砲臺及ヒ姜家屯砲臺ハ「ボペーダ」ニ對シテ五十四發中十發ノ命中アリ、同艦ハ午後二時鞠家屯砲臺ヨリノ命中彈ノ爲メ火災ヲ起シ、且右舷ニ傾クコト約十度ニ及ヒタルヲ以テ、最早戰闘航海ニ堪ヘサルモノト認メ、鞠家屯砲臺ハ「バルラーダ」ニ、姜家屯砲臺ハ「バヤーン」ニ、夫々目標ヲ更メ、同時ニ礮盤溝砲臺モ亦砲火ヲ「ペレスウエート」ニ移シ、バルラーダ「ニハ四十二發中六發、」ペレスウエート「ニハ四十二發中十五發ノ命中彈アリテ、後者ハ午後三時過ヨリ火災ヲ起シ、夕刻ニ至ルモ尙消滅セス、又「バヤーン」ニ對セシ姜家屯砲臺ハ、發射彈數四發ノ後、觀測不便ナリシカ爲メ、更ニ砲火ヲ「バルラーダ」ニ轉シ、四十二發ヲ發射シテ六發ノ命中ヲ得タリ、而テ此ノ日岩村第一艦隊參謀ノ、自ラ二〇三米突高地ニ至リテ觀測判斷セシ所ニ依レハ「ボルターワ」及ヒ「レトウ非ザシ」ハ既ニ海底ニ膠坐シ、ボペーダ「ハ甚シク右舷ニ傾斜シ、セロストーポリ」ノ外敵艦隊ノ主力ハ脱出ノ能力ナキノミナラス、曳レテ港外ニ出ツルコトヲモ成シ能ハサルモノニ似タリト云フ、

仍テ翌八日モ亦朝霧ノ霽ル、ヲ待チテ、午前九時三十分頃ヨリ、比較的損害輕シト認メラル、「バルラーダ（礮盤溝砲臺）及ヒ「バヤーン」（鞠家屯及ヒ姜家屯砲臺之ヲ砲撃ス）ニ對シ 砲撃ヲ始メ、「バヤーン」ハ最初ノ命中彈ニ因リテ火災ヲ起シ、且漸次右舷ニ傾斜シ、正午頃ニ至リテハ、傾度益、増加シテ艦首モ亦稍沈下シ、全ク活動力ヲ喪ヒタルカ如キヲ以テ、命中彈八發（發射彈五）ノ後、礮盤溝砲臺ハ目標ヲ「ペレスウエート」ニ轉シ、發射彈六發中一發ノ命中彈アリ、同艦ハ前日來ノ砲撃ニ依リ、既ニ多大ノ

損害ヲ蒙リ、此ノ時浸水既ニ「スタルンウオーク」ニ達シタルヲ以テ、午後一時過同砲火ヲ更ニ白玉山南麓ニ繫留セル砲艦「ギリヤーク」ニ移シ、五十五發中十二發命中シ、其ノ全ク破壊シタルヲ認定シ、目標ヲ西港内ニ在ル約二千五百噸ノ汽船ニ變更セリ、又「バヤーン」ニ對セル鞠家屯及ヒ姜家屯砲臺ハ、六門ノ榴彈砲ヲ以テ百五十八發ヲ放チ、二十二發命中シ、爲メニ同艦ハ午前十時三十分頃ヨリ火災ヲ起シ、午後四時ヲ過クルモ尙熄マサルヲ以テ、既ニ其ノ損害ノ大ナルヲ推定シテ砲撃ヲ中止シ、姜家屯砲臺ハ王家屯ニ在ル二十八顆榴彈砲二門ト共ニ、「セロストーポリ」ニ對シ、一齊射撃ヲ以テ搜索射撃ヲ行ヒ、發射彈數六十一發ニ及ヒシモ、遂ニ彈著ヲ認ムルコト能ハス、又鞠家屯砲臺ハ「バヤーン」砲撃後水雷敷設艦「アムール」ニ向ヒ、二十六發ヲ放チテ一發ノ命中ヲ得タリ、

右ノ如ク旅順港内ニ在ル敵艦隊ハ、我カ軍ノ二〇三米突高地占領後僅ニ四日ニシテ、戰艦「セロストーポリ」及ヒ若干ノ砲艦、驅逐艦ヲ除クノ外、悉ク沈没若クハ撃破セラル、ニ至リタルヲ以テ、第三軍ハ翌九日ヲ期シ、「セロストーポリ」ニ對シテ大搜撃ヲ行ヒ、同時ニ殘存砲艦、驅逐艦並ニ雜種船舶ヲ砲撃シ、以テ敵ノ艦船ヲ全滅セシメント決セリ、然ルニ「セロストーポリ」ハ、其ノ僚艦ノ續々沈没スルヲ目撃シ、自艦ノ運命モ亦愈々危急ニ瀕シタルヲ察シ、九日早朝自力ニテ港外ニ脱出シ、城頭山砲臺ノ南方約一海里ノ位置ニ至リテ碇泊セリ、（蓋同艦ハ八月二十三日鮮生角ルヲ以テ聯合艦隊ニ於テハ同艦ハ到底活動ノ能力ナキモノト推定セシモノナリ）仍テ軍ハ同日午前九時三十分ヨリ、比較的外觀ノ完全ナル「ペレスウエート」「バヤーン」及ヒ「バルラーダ」ノ三艦ヲ目標トシテ砲撃ヲ開始シ、礮盤溝砲臺ハ「ペ

レスウエート」ニ向ヒ、百二十發ヲ放チテ十四發ノ命中彈ヲ得、鞠家屯砲臺ハ、最初「バルラーダ」ニ向ヒ二十五發ヲ發射セシニ、同艦ハ前日來ノ射撃ニヨリ、已ニ左舷ニ傾斜シ、滿潮ノ際ハ水面
 上甲板ニ達セントスルニ至リタルヲ以テ、目標ヲ「バヤーン」ニ移シ、三十二發中四發命中セリ、
 又姜家屯砲臺ハ「バヤーン」ニ對シ發射彈數九十二發中十一發ノ命中彈ヲ得、鞠家屯砲臺ノ應
 援ヲ受クルニ及ヒテ射撃ノ效果益々現レ、爲メニ同艦ハ火災三時間餘ニ亙リテ漸次右舷ニ傾キ、
 午後四時ニ至リテハ、其ノ傾斜殆ト二十五度ニ達セリ、仍テ同艦ニ對スル射撃ヲ止メ、鞠家屯砲
 臺ハ「アムール」ヲ、姜家屯砲臺ハ驅逐艦及ヒ雜種船ヲ砲撃セシモ、確實ナル有效彈ヲ見ルニ至
 ラスシテ日没ニ至レリ、

十日モ亦港内殘艦船ニ對スル砲撃ヲ繼續セント欲セシモ、終日濃霧竝ニ烈風ノ爲メ、瞰視十分ナ
 ラサルヲ以テ之ヲ中止シ、翌十一日ニハ姜家屯砲臺ハ「ポルターワ」ヲ、鞠家屯砲臺ハ「アムール」ヲ、
 夫々砲撃シ、「ポルターワ」ニハ三發、「アムール」ニハ一發ノ命中彈アリ、又是マテ損害ノ程度ニ關シ
 多少ノ疑問アリシ「ペレスウエート」モ、亦此ノ日ニ至リ滿潮ノ際ニハ海水上甲板ヲ浸スニ至レ
 リ、同日伊集院第三艦隊參謀ノ、自ラ二〇三米突高地ヨリ觀察シタル敵艦ノ現狀ハ左ノ如シ、
 一、「ペレスウエート」 老虎尾端ノ北西約二百米突ニ在リテ艦首ヲ北東ニ北ニス滿潮ノ時艦
 首ハ水上發射管マテ艦尾ハ「スタルンウオーク」マテ浸水シ海底ニ膠著シ居ルコト明白ナ
 ルモ前部水淺キ爲メ沈ミ方少キモノナラン左右舷ノ傾斜ナシ中央煙突大破損又左舷中央
 ニ白ク禿ケタル大面積アリ是又恐ラク大破損部ナラント想ハル、モ詳ナラス

- 一、「ポルターワ」 老虎尾端ノ正北約二百米突ニ在リテ艦首ヲ東南東ニ東ニス二〇三米突高
 地ヨリ縱ニ艦體ヲ見ル故能ク判ラサルモ滿潮ノ時後甲板浸水シ恰モ小砲艦ノ如ク見ユ左
 右舷ノ傾斜ナシ十分海底ニ膠著シ居ルコト明白ナリ
- 二、「レトウ非ザン」 「ポルターワ」ノ正東方約百米突ニ在リテ艦首ヲ之ト同方向ニス是亦二
 〇三米突高地ヨリ縱ニ艦體ヲ見ル故能ク判ラサルモ沈没ノ度「ポルターワ」ヨリ一層甚シ
 ク後甲板ハ干潮ト雖モ常ニ浸水シ且右舷ニ傾斜スルコト約五度ニシテ同舷ニ旋回シアル
 後部十二尹砲ノ砲身ハ滿潮ノ時殆ト其ノ半マテ浸水ス
 本艦ハ我カ命中彈ノ爲メ初メ左舷ニ傾斜シ之ヲ直ス爲メ斯ク主砲ヲ反對舷ニ旋回セシ觀アリ
 之カ爲メ反テ過重ヲ生シテ愈々沈没ノ際ニハ今ノ如ク右舷ニ傾斜スルニ至リタルモノナラン
- 三、「ポペーダ」 老虎尾端ノ北東ニ東約二百二十米突ニ在リテ艦首ヲ北東ニ北ニス右舷ニ傾
 斜スルコト約二十度ニシテ左舷水準線下ノ赤色部ヲ二〇三米突高地ノ方ニ現シ居レリ右
 舷側ハ見エサルモ同舷ノ後甲板ハ滿潮ノ時恐ラク浸水スルナラン本艦ハ沈没ト同時ニ火
 災ヲ起シタルモノ故内部ノ損害モ亦甚シト認ム
- 四、「バルラーダ」 「ポペーダ」ノ東微北方約百米突ニ在リテ艦首ヲ之ト正反對ニス前部ヨリ
 中央部マテハ「ポペーダ」ニ蔽ハレテ見エサルモ左舷ニ傾斜スルコト五度以上ナルヘク又
 滿潮ノ時後甲板ハ殆ト同一部分マテ浸水シ海底ニ膠著シ居ルコト明白ナリ蓋此ノ邊水最
 淺キ爲メ本艦ノ如キ巡洋艦モ沈没ノ度比較的妙キモノナラン

六、「バヤーン」船渠入口ノ南南西之西約四百米突ニ在リテ艦首ヲ東北東之東ニシ東港ノ南岸ト竝行ス左舷ニ傾斜スルコト約十五度ニシテ猶水面上ニ現レ居ル部分比較的多数觀アルモ是恐ラク東港内一般ニ水淺キ爲メナルヘク海底ニ膠著シ居ルコト疑フ容ル、ニ足ラサルカ如シ況テ本艦ハ屢次長時間ノ大火災ヲ起セシヲ以テ内部ノ損害最甚シキモノト認ム

七、「アムール」天測點ノ南東之東約二百米突ニ在リテ艦首ヲ北微西ニシ東港ノ西岸ト竝行ス艦體ノ大部分ハ陸岸及ヒ炭庫等ニ蔽ハレ居ルヲ以テ其ノ實況ヲ觀察スルニ難キモ本艦ハ既ニ許多ノ命中彈ヲ受ケ火災ヲ起セシモノナリ故ニ其ノ損害ハ其ノ構造ノ比較的脆弱ナルニ應シテ決シテ鮮少ナラサルヘキノミナラス軍艦トシテ性能甚タ低キト又之ニ對スル射撃ノ公算甚タ少キ(觀測困難ナル爲メ)トニ因テ考フルニ更ニ之ニ砲撃ヲ加フルノ必要ナカラシカ

八、「ギリヤーク」「ベレスウエート」ノ北北東約二百米突ニ在リテ艦首ヲ南微西ニス左舷ニ傾斜スルコト三十度以上ニ及ヒ橋折レ砲無ク極テ懸然ナル状態ニテ淺洲ノ上ニ在リ本艦ハ恐ラク我カ砲撃ヲ受ケタル前既ニ故障アリ此ニ坐洲シ居ルモノナラン

以上ハ伊集院參謀カ二日間ノ視察ニ依リテ測定シタルモノニシテ、其ノ位置、方向及ヒ傾斜ノ度ノ如キハ僅ニ一方位ヨリ見タル推定ニ屬スルヲ以テ、多少ノ誤謬ナキヲ保セサルモ、四戰艦、二巡洋艦ハ全ク沈没擱坐セルコト確實ナルヲ以テ、軍ハ一先ツ二十八榴彈砲ノ敵艦射撃ヲ中止シ、殘餘ノ艦船ニ對シテハ、海軍重砲隊ニ於テ之ヲ擊破スルニ決定セリ、然ルニ大本營及ヒ聯合艦隊ニ於テハ、敵艦ノ沈没意外ニ迅速ナリシヲ以テ、或ハ我カ砲撃ヲ免レンカ爲メ、敵自ラ故

意ニ沈没セシメ、以テ他日ノ引揚ケヲシテ容易ナラシメント欲スルニアラサルヤ憂ヘ、第三軍ニ向ヒ、尙水面上ニ露出セル部分ノ破壊ヲ希望シ來リタルヲ以テ、岩村第一艦隊參謀ハ、諸情報竝ニ前記伊集院參謀ノ觀察等ヲ綜合シ、島村聯合艦隊參謀長ニ向ヒ、左ノ所見ヲ提出セリ、

伊集院參謀ヨリ提出セル敵艦現狀觀察報告別紙(編者曰ク前掲敵艦現狀ト同様)ノ如シ依テ小官ハ茲ニ該記事竝ニ同官カ本日歸來ノ上更ニ陳述セル現狀判斷ト其ノ他一般ノ情報トニ因リ定メタル所見ヲ提出スルコト左ノ如ク畢竟「セロストーポリ」ヲ除キタル他ノ四戰艦及ヒ二巡洋艦ハ更ニ續イテ砲撃ヲ加フル必要ナキモノト認ムル次第ニテ若シ御異存無之ニ於テハ軍ヘモ此ノ意ヲ開陳シ二十八榴彈砲ヲ以テスル敵艦砲撃ハ當分中止スルコトニ取計度ニ付何分ノ御指圖アラシコトヲ望ム

各艦ノ現狀已ニ斯ノ如ク或ハ平ニ或ハ斜ニ海底ニ膠著シ居ルコト疑フ容ル、ニ足ラサルノミナラス從來海陸軍砲ノ是等ニ命中セシ彈數極テ多キニ依テ稽フルニ内部ノ損害モ亦實ニ大ナルヘク今假ニ之カ引揚ケニ全力ヲ盡ストスルモ到底短時日間ニ之ヲ遂行シ得ルモノハ一艦モアラサルヘシ而テ又二〇三高地カ今日ノ状態ニ在ル限り敵ハ僅ニ一門ノ大砲ト雖モ我カ視線ヲ避ケ我カ砲火ヲ脱シテ之ヲ他ニ移サンコト甚タ困難ニシテ到底大艦ノ引揚ケニ全力ヲ盡スコト能ハサルノミナラス倘シ寸毫ナリトモ之ニ著手セントスルノ形跡アラハ直ニ之ヲ看破シ得ルヲ以テ其ノ時ニ至リ再砲撃ヲ加フルモ決シテ遲シトセサルヘシ今ヤ各艦已ニ人影ヲ止メス又其ノ附近ニ端舟等ノ徘徊スルモノナクシテ敵ハ全ク之ヲ委棄シタル模

様ナリ尙之ヲ換言スレハ我カ敵制ノ下ニ在ル是等諸艦船ハ譬ヘハ其ノ手足ヲ縛セラレ爲サ
 シト欲スル所一モ爲スコト能ハスシテ空シク死ニ歸シ且其ノ死屍ヲモ收容シ得サルト等シ
 キ状態ニ在ルモノナリ故ニ小官ハ「セワストーポリ」ヲ除キタル他ノ四戦艦ト二巡洋艦トハ
 更ニ續イテ之ヲ砲撃スルノ必要ヲ認メサルモノニシテ今後尙砲撃ヲ加フルトモ其ノ效果ハ
 唯水面上ニ於ル上甲板ヲ破壊スルニ止リ今更水ノ強抵抗ヲ冒シテ内部重要ナル箇所ニ打撃
 ヲ與ヘンコト到底不可能タルヘシ況テ其ノ上甲板ノ破壊ヲシテ我カ占領線ヨリ見テ満足ヲ
 得ル程度ニ至ラシメント欲スルニハ實ニ莫大ナル弾數ヲ費サ、ルヘカヲサルヲ以テ小官ハ
 軍ノ現狀ヲ慮リ更ニ敵艦ヲ砲撃スルノ寧ロ不利益ナルヲ信スルモノナリ

敵艦或ハ自ラ「キングストン」ヲ開キテ沈没セシニアラスヤトノ疑問ニ對シテ今更充分ナル
 判定ヲ得難シ然レトモ各艦皆許多ノ命中彈ヲ受ケ或ハ煤煙ヲ上ケ或ハ火災ヲ生シタル上沈
 没シタルモノナルヲ以テ假令其ノ爆煙等ト其ノ沈没トハ實際ニ於テ原因ヲ異ニセシトスル
 モ之カ判別ハ洵ニ困難ナルノミナラス今實況ニ就クモ「レトウ井ザン」ノ如キハ其ノ沈没時
 ニ際シ主砲等ヲ旋回シテ大ニ艦體ノ傾斜ヲ防カントカメタル形跡アリト云ヒ又「セワスト
 ーポリ」ノ如キモ非常ノ危険ヲ冒シテ港外ニ出テ寸刻モ其ノ壽命ヲ伸サント企圖シツ、ア
 ルニ依テ他ヲ推考スルモ敵ハ恐ラク故ラニ之ヲ沈メタルニアラサルヘキカ又假令終ニ自ラ
 其ノ「キングストン」ヲ開クニ至レリトスルモ我カ猛烈ナル砲火ノ爲メニ受ケタル大打撃ハ
 少クトモ之カ主因タルコト疑ナキヲ以テ再之ヲ引揚クルノ困難ナル結果ハ其ノ原因ノ何レ

タルヲ問ハス殆ト淪ラサルモノト思惟ス

又沈没艦ノ大砲其ノ他陸上ニ移シテ有效ナル武器ヲ引揚クルノ憂ナキヤ否ヤニ就テハ全ク
 之無シト言フヲ得サルモ是猶前陳ノ如ク我カ視線ヲ避ケ我カ砲火ヲ脱シテ之ヲ遂行センコ
 ト極テ難事タリ況ヤ大砲ノ如キ其ノ彈藥ノ艦内ニ在ルモノハ既ニ水ニ浸サレテ用ヲナサス
 陸上ニ於テモ亦今ヤ其ノ貯藏多カラサルヘキコト明白ナルヲ以テ唯無益ニ危険ヲ冒シテ其
 ノ砲身ノミヲ揚クルノ理ナキニ於テヤ

是ニ於テ大本營及ヒ聯合艦隊ニ於テハ之ニ同意シ、二十八榴榴彈砲ノ敵艦射撃ハ、茲ニ一先ッ
 中止セラル、コト、ナレリ、乃チ十二月五日以來同砲ノ射撃成績左表ノ如シ、

「ポルターワ」		「ベレスウエート」		「レトウ井ザン」		「ポベード」		五日	六日	七日	八日	九日	十一日	計
命中數	發射數	命中數	發射數	命中數	發射數	命中數	發射數							
一	三	二	二	八	五二	四	六三							
		一〇五	一四			一〇	五四							
		四三	一五											
		六	一											
		一一〇	一四											
		二九五	四六											
		三												
		四												
		七二												
		二五												
		四四												
		三五												
		一												
		流彈												
		一												
		一五												

合 計	「セレストーポリ」		「バヤーン」		「バルラーダ」		「アムール」		「ギリヤーク」		驅逐艦及ヒ雜種船舶	
	命中數	發射數	命中數	發射數	命中數	發射數	命中數	發射數	命中數	發射數	命中數	發射數
五日												
六日			三一		四	二八						
七日					四	二六						
八日			不明		四	一六						
九日		六一	一五八		二二	五二						
十日			一二四		二二	八						
計		六一	二二四		一五	二七						
五日												
六日												
七日												
八日												
九日												
計												
五日												
六日												
七日												
八日												
九日												
計												

旅順口開城後、我カ海軍ニ於テ調査セシ所ニ據レハ、港内ニ沈没シタル敵ノ六六軍艦中、獨リ戰艦「ベレスウエート」ノミハ、自ラ「キングストン」弁ヲ開キテ沈没シタル形跡アルモ、自餘ノ諸艦ハ、何レモ我カ砲彈ノ爲メ撃沈セラレタルモノ、如シト云フ、(備考文書及ヒ第十部第三篇戰利艦船ノ收容引揚及ヒ回航参照)

第十二節 敵艦隊砲撃後ヨリ開城ニ至ル

敵ノ全カヲ盡シテ頑守シ、我ノ損害ヲ顧ミスシテ強奪シタル標高二〇三米突高地ハ、其ノ價値豫想以上ニシテ、占領後未タ旬日ヲ出テサルニ、敵艦隊ノ殆ト全部ハ港内ニ沈没シ、獨リ戰艦セレストーポリノミ港外ニ脱出シ、城頭山下ニ碇泊シテ纔ニ餘喘ヲ保チシモ、是亦我カ水雷攻撃ニ傷ツキテ復起ツ能ハス、少數ノ砲艦、驅逐艦等尙殘存スト雖モ、其ノ勢力微弱ニシテ、到底海上ニ活動スルノカナキニ至リタルヲ以テ、東郷聯合艦隊司令長官ハ、麾下艦隊ノ一部ヲ留メテ旅順口ノ封鎖ヲ繼續シ、以テ敵殘艦ノ脱走ニ備フルト共ニ、密輸入船ノ警戒ニ任シ、自餘ノ諸艦ハ、第二期作戰準備ノ爲メ逐次内地ニ回航セシメタリ、是ニ於テ第三軍ノ責任ハ大ニ輕減シ、要塞攻路ヲ急クコト復曩日ノ如クナラスト雖モ、尙北進軍方面ニ於テハ、沙河會戰以來敵ハ益々増援兵ヲ派遣シ、機ヲ見テ攻勢ニ轉セントスルノ形勢アルヲ以テ、第三軍ノ來援ヲ待ツコト稍切ナルモノアリ、然ルニ旅順口陸正面ノ敵ハ、尙頑強ナル抵抗ヲ持續スルヲ以テ、乃木第三軍司令官ハ、益々攻撃作業ノ進捗ニ努メ、望臺一帶ノ高地ニ對スル攻撃ヲ繼續シ、二龍山、松樹山及ヒ東鷄冠山北砲臺ハ、攻撃準備ノ整フニ從ヒ、各師團ヲシテ個々ニ之ヲ奪取セシムルコトニ定メ、十二月十日左ノ軍命令ヲ發セリ、

一、第七(後備歩兵第一旅團ヲ含ム)及ヒ第一師團ハ石板橋西方高地ヨリ寺兒溝北方高地ヲ經テ三里橋北方高地ニ互ル線ヲ占領シ該方面ノ敵ハ椅子山ヨリ西太陽溝堡壘ヲ經テ鳴湖嘴堡壘ニ互ル堡壘線ニ引退セリ

二〇三米突高地奪取ト共ニ開始セシ敵艦砲撃ハ至大ノ效果ヲ呈シ昨九日港外ニ遁避セシ戦艦一ヲ除キ他ノ戦艦及ヒ巡洋艦ノ悉皆竝ニ砲艦一ハ殆ト撃沈セラレ全ク其ノ航行力ヲ失フニ至レリ

二、軍ハ正攻的動作ニヨリ望臺一帶ノ高地ニ對スル攻撃ヲ繼續シ先ツ二龍山松樹山及ヒ東鷄冠山北ノ三堡壘ヲ奪取セントス

三、左ノ如ク軍隊區分ヲ更正ス

イ、後備步兵第一旅團近衛工兵大隊第一中隊第十一師團所屬ノ機關砲四門及ヒ第一師團臨時衛生隊竝ニ第一師團ニ屬スル機關砲六門ヲ第七師團長ノ指揮ニ屬ス

ロ、第一師團後備工兵中隊ヲ第一師團長ノ指揮ニ屬ス

ハ、工兵第六大隊第二中隊竝ニ第三及ヒ第十二師團後備工兵中隊ヲ第九師團長ノ指揮ニ屬ス

ニ、後備步兵第四旅團(第九聯隊及ヒ第八聯隊第一大隊缺ク)野戰砲兵第十八聯隊ノ一大隊工兵第八大隊第一中隊及ヒ第四師團臨時衛生隊ヲ第十一師團長ノ指揮ニ屬ス

ホ、第九師團ノ歩兵一大隊(目下水師營南方ニ在ルモノ)及ヒ第十一師團ノ野戰砲兵一大隊ヲ軍ノ總豫備トス

四、各師團攻撃地區ノ境界ハ現在ノモノニ同シ

五、第一、第九、第十一師團ハ銳意松樹山二龍山及ヒ東鷄冠山北堡壘ニ對スル攻撃作業ヲ進捗

セシメ勉メテ速ニ全堡壘ヲ占領スヘシ但突撃實施ハ其ノ都度豫メ之ヲ報告スヘシ

第九、第十一師團ハ別ニ鉢巻山堡壘前ヨリ一戸堡壘ノ前面ニ互ル攻撃作業ヲ進捗セシメ爲シ得ハ支那土壘ノ若干部ヲ爆破スヘシ

六、本攻撃正面外ノ諸方面特ニ椅子山及ヒ西太陽溝堡壘ニ對シテハ爲シ得ル限り工事ヲ施設シテ前方ノ地域ヲ占領シ各前面ノ敵ヲ牽制スルト同時ニ要スルニ臨ミ該方面ニ企圖セラルヘキ攻撃ノ準備ヲ爲スヘシ特ニ第七師團ハ準備成リ次第成ルヘク速ニ楊樹房東方約千米突ノ高地ヲ奪取スルヲ要ス

七、攻城砲兵ハ本攻撃正面ニ於ル我カ作業ヲ掩護シ攻撃目標タル三堡壘就中二龍山堡壘ニ對スル破壊射撃ヲ繼續シ且突撃實施ニ際シテハ極力之ヲ援助シテ堡壘ノ奪取ヲ速ニシ及ヒ其ノ占領ヲ確實ナラシムルノ外尙港内敵艦隊ニ對スル砲撃ヲ繼續シ諸艦船ヲシテ全ク其ノ行動ヲ失フニ至ラシメ同時ニ要塞内部ニ在ル主要ナル建築物竝ニ敵兵ノ集屯所ヲ砲撃シテ要塞内部ヲ擾亂スルヲ勉ムヘシ

八、野戰砲兵旅團ハ其ノ主力ヲ松樹山及ヒ二龍山方面ニ一部ヲ椅子山及ヒ毅前軍左營方面ニ用井主トシテ松樹山及ヒ二龍山堡壘ニ對スル攻撃作業及ヒ攻撃實施ヲ援助シ且各陣地ノ射界内ニ於ル有利ナル目標ニ對シテハ機ヲ失セズ之ヲ砲撃スヘシ

九、總豫備タル第九師團ノ歩兵大隊ハ現在ノ位置ニ在リテ從來ノ任務ヲ施行シ第十一師團歩兵大隊ハ邱家屯附近ニ位置スヘシ